

中野区バリアフリー基本構想 (改定案)

令和 8 年 1 月

はじめに

これまで中野区は、平成27年(2015年)4月に策定した「中野区バリアフリー基本構想」に基づき、バリアフリー化を重点的かつ一体的に推進する「重点整備地区」を中心 に駅や道路、公園、建築物等の公共施設のバリアフリー化を推進してきました。

また、区では、「つながる はじまる なかの」を中野のまちの将来像として中野に住むすべての人々や、中野のまちで働き、学び、活動する人々にとって、平和でより豊かな暮らしを実現するための共通目標である「中野区基本構想」を策定し、この将来像の実現に向けて区が取り組む基本的な方向性を「中野区基本計画」にて示しています。

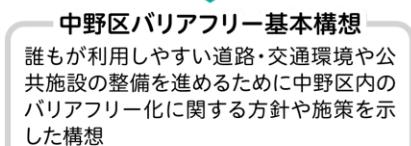
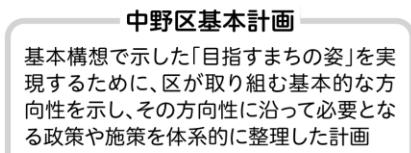
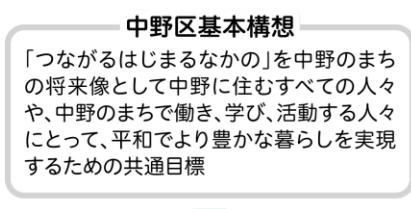
バリアフリー化の取組は、この「中野区基本計画」における「歩きたくなるまちづくりの推進」を実現するための取組の一つでもあります。

一方、「中野区バリアフリー基本構想」の策定以降、高齢化の更なる進展や、バリアフリー法の改正等、バリアフリーを取り巻く環境にも変化が生じています。

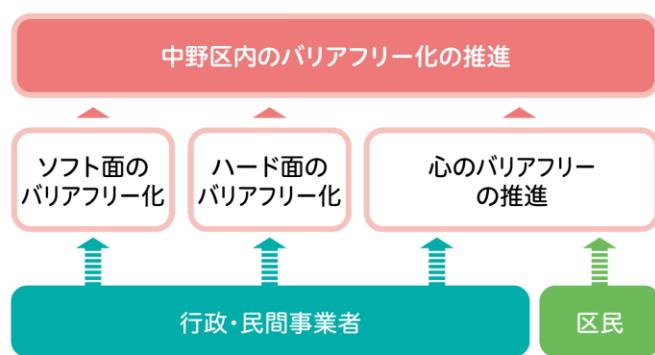
このたび、区ではこれまでのバリアフリー化の取組を見直し、社会状況の変化や法改正等を踏まえた構想へ改定します。今後の更なる区内のバリアフリー化の推進に向けて、本構想で示すバリアフリー化の方針や施策に基づき、誰もが利用しやすい道路・交通環境や公共施設の整備等を東京都や交通管理者、公共交通事業者等の関係事業者とともに進めていきます。

また、誰もが安全で快適に暮らすことができる環境を作るためには、施設のバリアフリー化のみならず、お互いの気持ちに寄り添い、協力し合う「心のバリアフリー」が重要となります。本構想の改定では、この「心のバリアフリー」を普及・啓発する取組の位置づけを行います。今後も引き続き、区民、関係者、関係団体の皆さまのご理解とご協力のもと、バリアフリー化の取組を推進してまいります。

【上位計画との関係】



【協働で推進する中野区内のバリアフリー化】



目次

第1章 中野区バリアフリー基本構想の改定	1
1-1 改定の背景・目的	1
1-2 位置づけと計画期間	3
第2章 バリアフリーに関する現状と課題	5
2-1 中野区の人口等	5
2-2 バリアフリーに関する法令等の動向	8
2-3 旧構想における特定事業の実施状況	11
2-4 バリアフリーに関する区民意見	14
第3章 バリアフリー化の方針(移動等円滑化促進方針)	17
3-1 本構想で示すバリアフリー化の方針と施策	17
3-2 区全体のバリアフリー化の基本方針	18
3-3 移動等円滑化促進地区の選定	19
3-4 移動等円滑化促進方針(分野別のバリアフリー化の方針)	36
第4章 バリアフリー化の施策	42
4-1 重点整備地区の選定	42
4-2 特定事業等の設定	51
4-3 地区ごとの特定事業	60
4-4 利用者視点のバリアフリー化の検討	83
第5章 中野区バリアフリー基本構想の推進に向けた 今後の取組	86
5-1 届出制度による計画の調整	86
5-2 特定事業の推進と進捗管理	88
5-3 中野区バリアフリー基本構想の評価・見直し	89

資料編	90
資料 1 検討経緯	90
資料 2 中野区バリアフリー基本構想改定協議会委員名簿	91
資料 3 区民アンケート調査	93
資料 4 団体ヒアリング	103
資料 5 まち歩き点検	106
資料 6 用語解説	116

○用語の説明について

本構想の本文中で「*」印を右上に付した語句は、巻末の「用語解説」において説明をしています。

○「障害」の表記について

「障害」の表記については、「障害」のほか「障碍」や「障がい」等も使われていますが本構想では、「障害」が法律や制度等の名称において使われており、また、広く普及している現状を踏まえ、「障害」と表記します。

○本構想に使用している地形図について

本構想に掲載している地図は、東京都知事の承認を受けて、東京都縮尺2,500分の1の地形図を使用して作成したものです。(承認番号:7都市基交測第130号)

また、地図の背景の地形図は、東京都と株式会社ミッドマップ東京が著作権を有しています。(利用許諾番号:MMT利許第07号-114号)

第1章 中野区バリアフリー基本構想の改定

1-1 改定の背景・目的

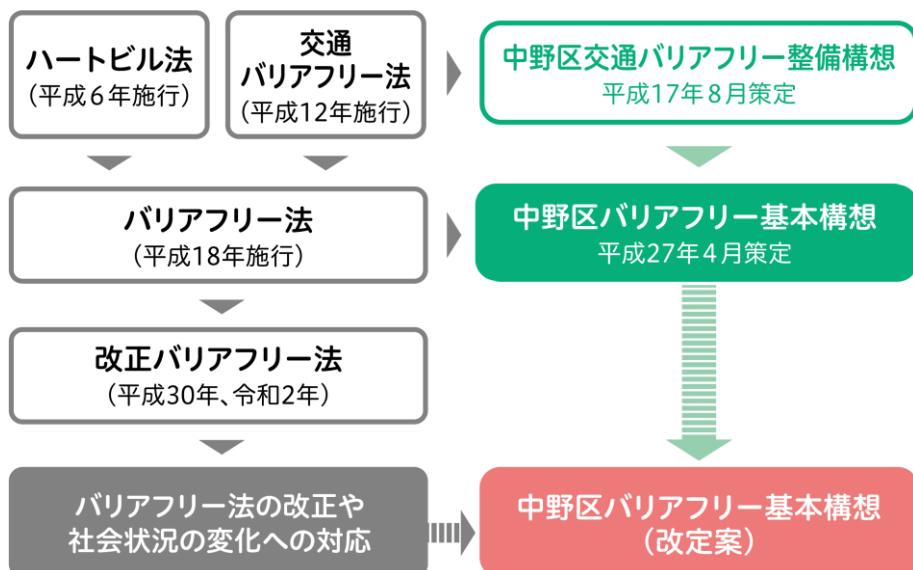
(1) 改定の背景

中野区では平成12年(2000年)に「高齢者、身体障害者等の公共交通機関を利用した移動の円滑化の促進に関する法律(以下「交通バリアフリー法」という)」の施行を受け、同法に基づく基本構想として、平成17年(2005年)8月に「中野区交通バリアフリー整備構想」(以下「整備構想」という)を策定しました。

平成18年(2006年)には、「交通バリアフリー法」と「高齢者、身体障害者等が円滑に利用できる特定建築物*の建築の促進に関する法律(以下「ハートビル法」という)」を統合・拡充し、「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律(以下「バリアフリー法*」といふ)」が施行されました。中野区では平成27年(2015年)4月にバリアフリー法に基づく「中野区バリアフリー基本構想(以下「旧構想」という)」を策定し、令和7年度(2025年度)を目標年次として区内のバリアフリー*化に取り組んできました。

その間、バリアフリー法は、平成30年(2018年)及び令和2年(2020年)の法改正により、「移動等円滑化促進方針*」制度の創設や基本構想に記載する事業メニューの一つとして、「心のバリアフリー*」に関する事項(教育啓発特定事業)の追加などが行われました。これらの法改正を踏まえ、旧構想策定後の区民ニーズの変化や高齢化の進展など、社会状況の変化に対応した構想への改定が必要です。

図 1-1 改定の背景



(2) 改定の目的

平成30年(2018年)のバリアフリー法の改正では、区市町村が面的・一体的なバリアフリー化の方針である「移動等円滑化促進方針」を定めることができる制度が創設されました。この方針に基づいて施設整備などを進めることで、より効果的なバリアフリー化が可能となります。

中野区では、引き続きバリアフリー化の取組を進めていくため、旧構想で位置づけた「重点整備地区*」内のバリアフリー化事業の評価や見直しを行うとともに、法改正により創設された「移動等円滑化促進方針」の策定並びに「移動等円滑化促進地区*」を位置づけ、これまでの「重点整備地区」以外にも誰もが利用しやすい道路・交通環境や公共施設の整備等の推進を目的に旧構想の改定を行います。

移動等円滑化促進方針とは

移動等円滑化促進方針は、面的・一体的なバリアフリー化の方針を区市町村が示すものです。バリアフリー化の方針に基づき、施設整備などを進めることで、地区内のバリアフリー化を推進することが可能です。また、不特定多数の区民、または、高齢者、障害者等が利用する施設(生活関連施設*)が集まり、移動等円滑化を促進することが必要である地区を移動等円滑化促進地区として指定します。

バリアフリー基本構想とは

バリアフリー基本構想とは、バリアフリー化を重点的かつ一体的に推進する地区を「重点整備地区」に指定し、地区内の公共交通、建築物、道路等のバリアフリー化の施策を示すものです。バリアフリー基本構想で示された施策は「特定事業計画*」として事業者別に整理・作成され、事業者はその計画に基づく事業について、実施の義務が課されます。

図 1-2 移動等円滑化促進地区と重点整備地区の配置関係のイメージ



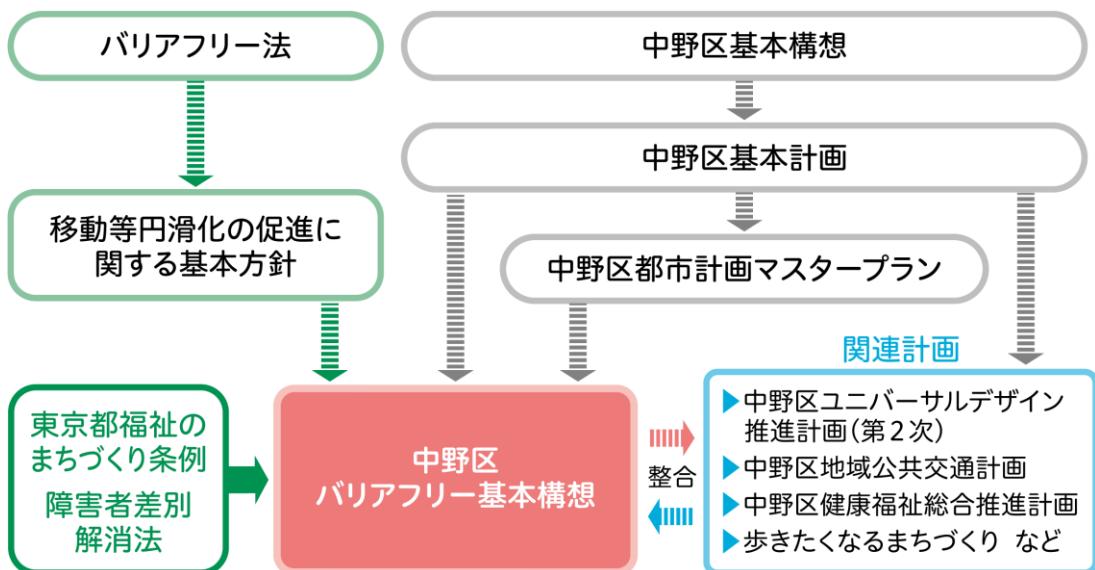
出典：移動等円滑化促進方針・バリアフリー基本構想作成に関するガイドライン（一部加工）
(令和3年3月 国土交通省総合政策局安心生活政策課)

1-2 位置づけと計画期間

(1) 位置づけ

「中野区バリアフリー基本構想(以下「本構想」という)」は、バリアフリー法及び国が定めた「移動等円滑化の促進に関する基本方針*」に基づき策定するものです。また、「中野区基本構想」及び「中野区基本計画」、「中野区都市計画マスターplan」に則るとともに、「中野区ユニバーサルデザイン推進計画(第2次)」を始めとする関連計画等との整合に留意します。

図 1-3 中野区バリアフリー基本構想の位置づけ

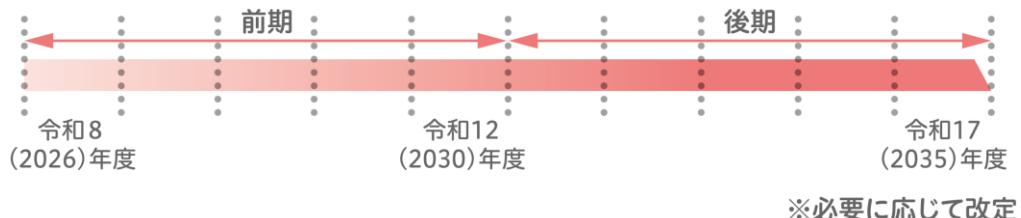


(2) 計画期間

本構想の計画期間は、旧構想と同様の10年間とし、令和8年度(2026年度)から令和17年度(2035年度)までとします。

また、区全体に共通する基本的な施策の改定や法改正等を踏まえて本構想の調査、分析及び評価、見直しを行います。

図 1-4 計画期間



(3) ユニバーサルデザイン*とバリアフリー

中野区では、全ての人が、それぞれの意欲や能力に応じて社会参加する「全員参加型社会」やまちの魅力向上による地域の活性化の実現に向け、「中野区ユニバーサルデザイン推進計画(第2次)」を令和6年(2024年)2月に策定し、ユニバーサルデザインの取組を進めています。

バリアフリー法は、高齢者や障害者等が安全かつ快適に移動し、施設を利用できる環境の整備を目的としています。平成30年度(2018年度)の法改正により、バリアフリー法に基づく取組は、「社会的障壁の除去^{※1}」及び「共生社会の実現^{※2}」に資することが基本理念として新たに加えられ、ユニバーサルデザインの考え方も含めたものとなりました。

ユニバーサルデザインとバリアフリーは、どちらも暮らしやすい社会の実現を目指す考え方です。年齢、性別、個人の属性や考え方、行動の特性等にかかわらず、全ての人が利用しやすい都市及び生活環境を考え、バリアフリー法の目的に沿った取組を促進することで、より多くの人が安全で快適に暮らすことができる環境づくりにつながります。

図1-5 ユニバーサルデザインとバリアフリー



※1:社会的障壁の除去

日常生活または社会生活を営む上で障壁となるような社会における事物、制度、慣行、観念その他一切のものを除去すること

※2:共生社会の実現

障害の有無、年齢、性別、国籍などに関係なく、全ての人が互いに認め合い支え合いながら、安心して暮らせる社会をつくること

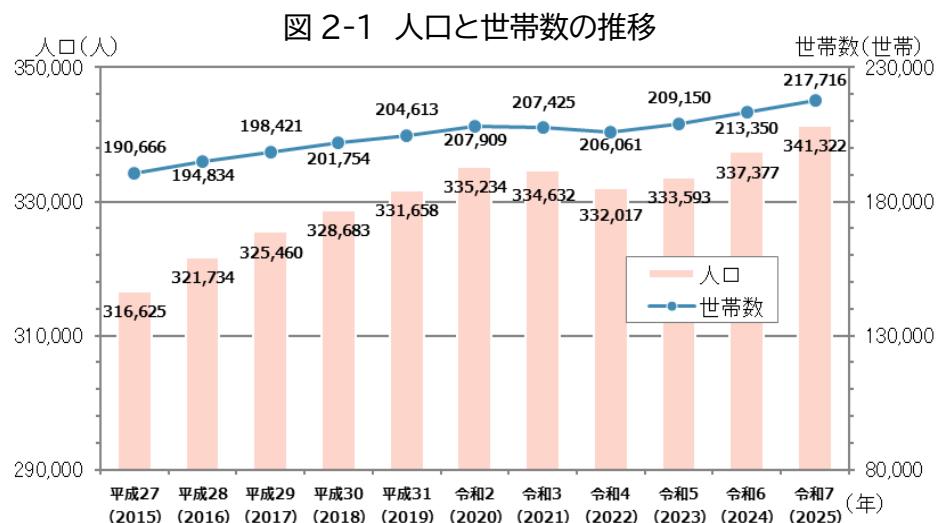
第2章 バリアフリーに関する現状と課題

2-1 中野区の人口等

(1) 人口・世帯数

中野区の人口及び世帯数は、令和7年(2025年)1月1日現在で341,322人、217,716世帯です。

人口、世帯数とともに、令和3・4年(2021・2022年)に減少傾向にありましたが、令和5年(2023年)以降、再び増加傾向に転じています。

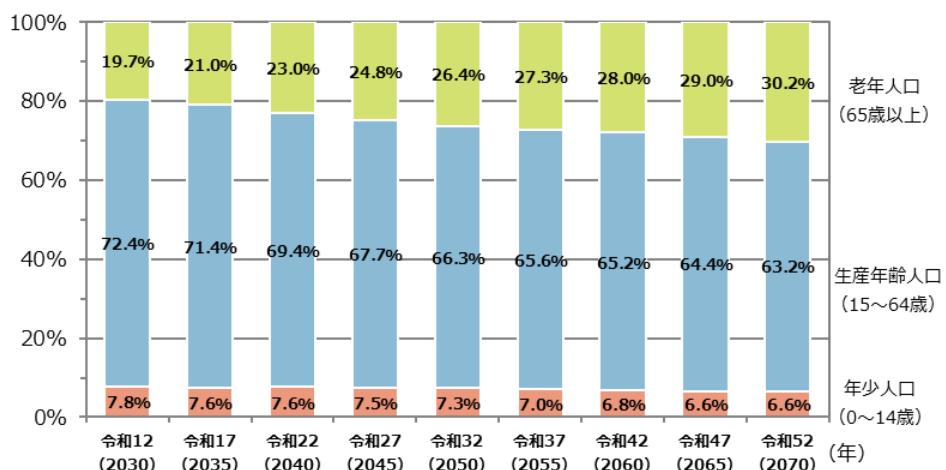


出典：住民基本台帳（各年1月1日現在）

(2) 将来人口の推計

中野区基本計画の将来人口の推計では、老人人口は増加が続き、令和52年(2070年)には、総人口に対する割合が約30%に達する見込みです。

図 2-2 将来人口の推計



出典：中野区基本計画（案）

(3) 障害者手帳所持者数

中野区の障害者手帳所持者は、令和5年度(2023年度)現在で身体障害者手帳が7,835人、愛の手帳(知的障害者)が1,650人、精神障害者保健福祉手帳が4,504人で、合計は13,989人です。障害者手帳所持者数は増加傾向にあります。

図 2-3 障害者手帳所持者数の推移

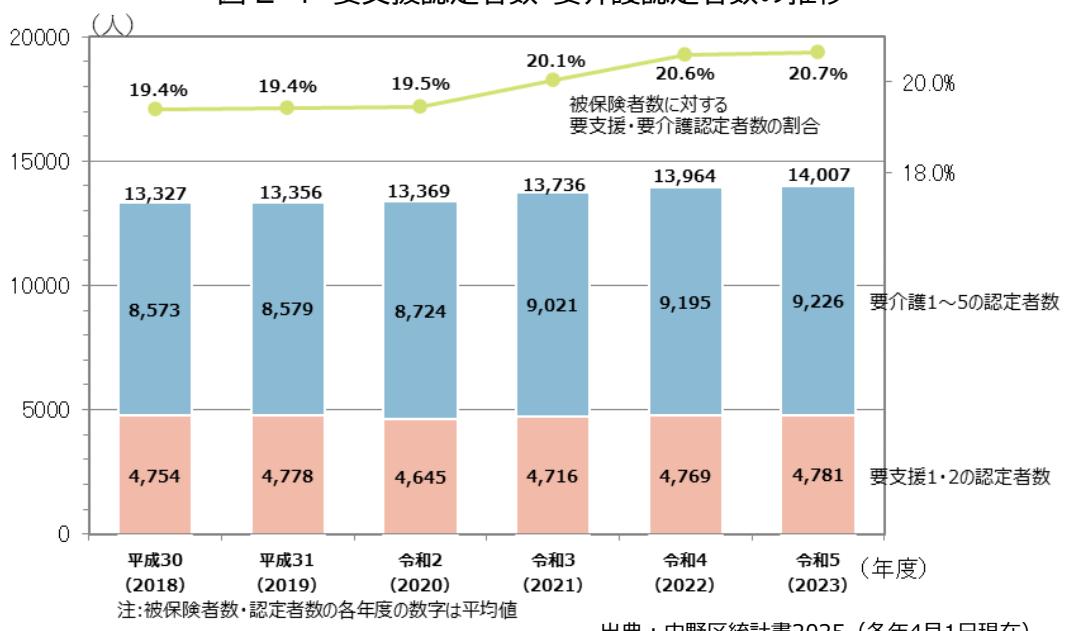


出典：中野区統計書2025（各年4月1日現在）

(4) 要介護・要支援認定者数

中野区の要介護認定者数は、令和5年度(2023年度)現在で9,226人、要支援認定者数は4,781人であり、増加傾向にあります。

図 2-4 要支援認定者数・要介護認定者数の推移



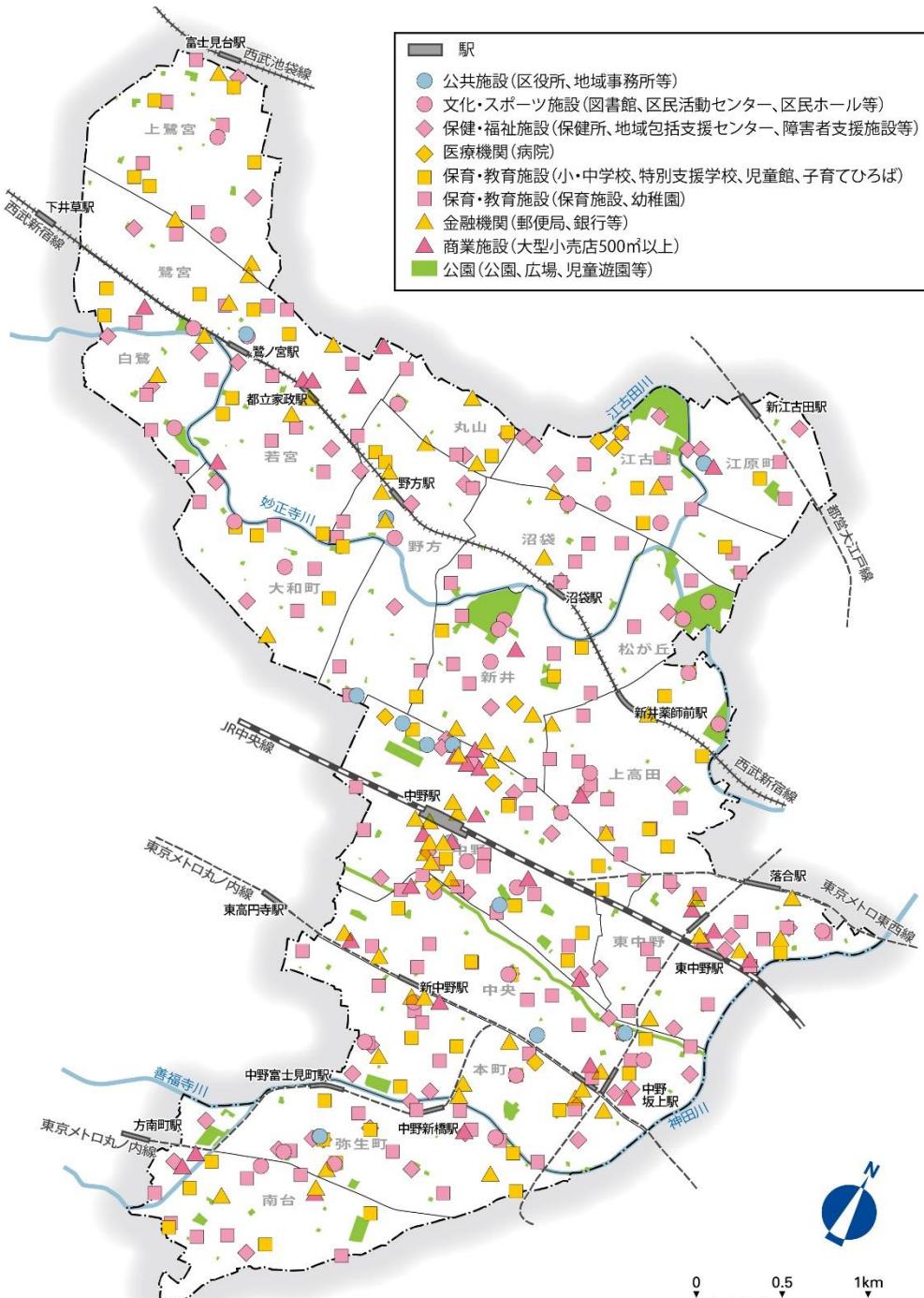
出典：中野区統計書2025（各年4月1日現在）

(5) 施設の配置状況

区内の鉄道は、東西方向に西武新宿線、東京メトロ東西線、JR中央・総武線、東京メトロ丸ノ内線が、南北方向には都営地下鉄大江戸線が通り、鉄道駅(旅客施設)圏域は区内の広範囲をカバーしています。

旅客施設以外の施設は、鉄道駅周辺以外にも区内各所に広く分散しています。

図 2-5 施設の配置状況



2-2 バリアフリーに関連する法令等の動向

(1) バリアフリー法

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を契機として、共生社会の実現に向けた取組が加速し、バリアフリー法は平成30年(2018年)と令和2年(2020年)に改正されました。法改正では、市町村が地域の面的・一体的なバリアフリー化を進める「移動等円滑化促進方針」の制度化や、公共交通事業者のソフト*対策の取組強化、心のバリアフリーの推進などが図られました。

平成30年(2018年)の改正概要

① 理念規定／国及び国民の責務

- 理念規定を設け、「共生社会の実現」、「社会的障壁の除去」を明確化
- 「心のバリアフリー」として、高齢者、障害者等に対する支援(鉄道利用者による声かけ等)を明記

② 公共交通事業者等によるハード*・ソフト一体的な取組の推進

- 駅員による介助や職員研修等のソフト対策のメニューを新たに提示
- 公共交通事業者等に対し、計画の作成、取組状況の報告及び公表を義務付け

③ バリアフリーのまちづくりに向けた地域における取組強化

- 市町村が、駅、道路、公共施設等の一体的・計画的なバリアフリー化を促進するためバリアフリーの方針を定める「移動等円滑化促進方針」を創設

④ 更なる利用し易さ確保に向けた様々な施策の充実

- 公共交通機関に加え、道路、建築物等のバリアフリー情報の提供を努力義務化
- バリアフリーの取組について、障害者等の参画の下、評価を行う会議を国が設置

令和2年(2020年)の改正概要

① 公共交通事業者など施設設置管理者におけるソフト対策の取組強化

- 公共交通事業者等に対して、ソフト基準の遵守を義務付け
- 公共交通機関の乗継円滑化のため、移動等円滑化*の措置の協力に関する公共交通事業者等同士の協議への応諾義務を創設

② 国民に向けた広報啓発の取組推進

- 国・地方公共団体・国民・施設設置管理者の責務等として、「車両の優先席、車椅子用駐車施設、障害者用トイレ等の適正な利用の推進」を追加
- バリアフリー基本構想*に記載する事業メニューの一つとして、「心のバリアフリー」に関する事項(教育啓発特定事業)を追加

③ バリアフリー基準適合義務の対象拡大

- 公立小中学校、バス等の旅客のための道路施設(旅客特定車両停留施設*)を追加

(2) 移動等円滑化の促進に関する基本方針

高齢者や障害者など、移動に困難を抱える人々が安全・快適に移動できる社会の実現を目指し、バリアフリー法第3条第1項^{*}に基づき国が定める公共交通機関や建築物、道路などのバリアフリー化を総合的かつ計画的に推進するための指針です。

基本方針での施設整備の方向性(概要)

- ・ 鉄道駅（ホームドア^{*}の整備、バリアフリールートの複数化の推進）
- ・ バス（ノンステップバス^{*}の導入の推進）
- ・ 建築物（移動等円滑化基準^{*}や条例等に基づくバリアフリー化の推進）
- ・ 公園（園路及び広場のバリアフリー化の推進）
- ・ 道路（移動等円滑化基準に基づく歩道等のバリアフリー化の推進）
- ・ 心のバリアフリー（心のバリアフリーの理解促進）

(3) 障害者差別解消法^{*}

障害者差別解消法は、障害を理由とする不当な差別的取扱いの禁止と、合理的配慮^{*}の提供を通じて、障害者の権利を守ることを目的とした法律です。令和6年(2024年)の改正では、民間事業者にも合理的配慮の提供が義務化され、障害のある人が社会のあらゆる場面で平等に参加できるようになり、共生社会の実現が一層具体的に進められています。

(4) ユニバーサルデザイン2020行動計画

ユニバーサルデザイン2020行動計画は、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機に、障害の有無や年齢、性別にかかわらず、全ての人が安心して暮らせる「共生社会」の実現を目指して策定された政府の総合的な取組です。同計画の理念を踏まえ、バリアフリー法改正が行われました。

(5) 東京都福祉のまちづくり条例^{*}

東京都福祉のまちづくり条例は、ユニバーサルデザインを基本理念とし、高齢者や障害者を含む全ての人が、安全・安心・快適に暮らし、訪れることができる都市環境の実現を目的とした条例です。

この条例では、バリアフリー法に定められた移動等円滑化基準を踏まえ、東京都独自に施設区分ごとの整備基準を定め、建築物、道路、公園、公共交通施設などのバリアフリー化を推進しています。

(6) 持続可能な開発目標（SDGs*）

持続可能な開発目標(SDGs:Sustainable Development Goals)とは、2015年(平成27年)9月の国連サミットで採択された2030年(令和12年)までに達成すべき国際的な目標です。本構想に基づく、バリアフリーの取組により、誰もが利用しやすい道路・交通環境や公共施設の整備等を進め、歩きたくなるまちづくりを推進し、持続可能な開発目標の達成に貢献します。



2-3 旧構想における特定事業の実施状況

(1) 旧構想で定める重点整備地区

旧構想では、7地区を「重点整備地区」に指定し、施設等の具体的なバリアフリー化の取組となる「特定事業*」を定め、地区内のバリアフリー化を進めてきました。

重点整備地区は、駅からの徒歩圏(駅から概ね500m圏内)にある生活関連施設と生活関連経路*を含む範囲でバリアフリー化の優先順位の高い地区を選定しています。

図 2-6 旧構想における重点整備地区



出典：中野区バリアフリー基本構想（平成 27 年 4 月／中野区）

(2) 特定事業の実施状況

7地区全体の特定事業は140事業であり、着手率は82.1%、完了率は57.9%です。

表 2-1 地区別の進捗状況(2024(令和6)年度未時点)

地区	事業数		進捗状況				進捗率	
	令和7年度まで	機会を捉えて	完了	一部完了・着手済	継続実施	未実施	着手率	完了率
新中野	15	5	7(2)	6(1)	5(0)	2(2)	90.0%	60.0%
中野	19	4	7(1)	11(3)	5(0)	0(0)	100.0%	52.2%
東中野・落合	15	9	9(2)	6(3)	5(0)	4(4)	83.3%	58.3%
新井薬師前	13	5	5(1)	3(1)	5(0)	5(3)	72.2%	55.6%
沼袋	14	9	7(3)	5(3)	5(0)	6(3)	78.2%	52.2%
野方	9	2	3(1)	2(1)	5(0)	1(0)	90.9%	72.7%
鷺宮	15	6	8(0)	1(1)	5(0)	7(5)	66.7%	61.9%
合計	100	40	46(10)	34(13)	35(0)	25(17)	82.1%	57.9%

※着手率=(完了+一部完了・着手済+継続実施)÷事業数(140)×100

※完了率=(完了+継続実施)÷事業数(140)×100

※括弧()内の数字は、内数で「機会を捉えて実施する特定事業」の数

公共交通特定事業では、内方線付き点状ブロック*の設置やエレベーターの整備が進みました。道路特定事業では、歩道のセミフラット化による段差の解消や視覚障害者誘導用ブロック*の設置、都市公園特定事業では、バリアフリートイレ*の設置や出入口の幅員確保など、各分野においてバリアフリー化を進めてきました。

一方で、大規模改裝時や都市計画事業の実施に併せた事業、現場の状況により整備が困難な事業は、未実施となりました。未実施の特定事業については、見直しを行い、バリアフリー化のさらなる推進に向けて取り組みます。

表 2-2 主な特定事業の内容

対象施設	名称	事業の内容（例）
旅客施設（駅）、 バス車両	公共交通 特定事業	<ul style="list-style-type: none"> ・旅客施設におけるエレベーター、視覚障害者誘導用ブロック、バリアフリートイレ等の整備、ホーム上からの転落防止対策等 ・乗合バスについて低床型車両の導入等
道路	道路 特定事業	<ul style="list-style-type: none"> ・歩道の段差・勾配の改善、歩道の平坦性の確保、視覚障害者誘導用ブロックの設置等
都市公園	都市公園 特定事業	<ul style="list-style-type: none"> ・園路の幅員の確保、傾斜路の設置、バリアフリートイレの設置、車いす使用者用駐車施設の整備等
建築物	建築物 特定事業	<ul style="list-style-type: none"> ・特定の建築物における、出入口・廊下等の幅員の確保、傾斜路の設置、階段の手すりの設置、バリアフリートイレの設置、車いす使用者用駐車施設の整備等
交通安全施設	交通安全 特定事業	<ul style="list-style-type: none"> ・音響機能、歩行者用青時間延長機能または経過時間表示機能を付加した信号機の整備 ・エスコートゾーン*の整備 ・道路標識・道路標示の高輝度化 ・違法駐車行為の防止のための取締りの強化、広報・啓発活動の実施等

2-4 バリアフリーに関する区民意見

区内のバリアフリー化の課題を把握するため、区民を対象としたアンケート調査と、関係団体へのヒアリングを実施しました。

ここでは、これらの調査を通じて寄せられたバリアフリー化に関する区民意見の要旨とともに、これに対する必要な取組を示します。

(1) 鉄道駅

鉄道駅では、移動手段や安全性、支援体制に課題があります。

エレベーター・エスカレーターが未整備の駅では、高齢者や障害者、子育て世帯の移動が困難です。

ホームドアがない駅では転落の危険があり、安全面でも不安が残ります。駅員が少ない駅や無人改札では、支援を必要とする利用者がすぐに対応を受けられず、困難に直面する場面もあります。

また、案内表示や音声案内設備の不足、視覚障害者誘導用ブロックの配置など、視覚・聴覚障害者への配慮が不十分であるとの指摘もありました。

意見に対する必要な取組

- ・駅やホームへ移動するためのエレベーター、エスカレーターの整備
- ・ホームドアなど安全に車両を乗降できる設備の整備
- ・駅員が少ない、いない駅の改善や支援を必要とする人への対応
- ・視覚障害者誘導用ブロックの適切な設置や音声案内設備の整備

(2) 路線バス

バス利用には、乗降時の段差や情報提供、支援体制に課題があります。

段差により高齢者や障害者が乗降に不便を感じるほか、バス停や車内の案内表示がわかりにくく、運行情報も得にくい状況があることや、乗務員のバリアフリー対応が不十分な場合もあり、障害への理解と対応力の向上が求められています。

加えて、乗り継ぎや施設へのアクセスが不便な地域もあるため、路線バスネットワークの維持・拡充が求められています。

意見に対する必要な取組

- ・ノンステップバスなどバリアフリー化された車両の導入
- ・バスの運行状況などの情報提供
- ・支援を必要とする人への周囲の配慮、理解促進
- ・路線バスネットワークの拡充

(3) 道路

道路のバリアフリー化に関しては、歩道の幅が狭く通行しづらいことや、段差や凸凹によって歩行が困難な場面があることが課題とされています。

また、視覚障害者誘導用ブロックの設置が少ないとや道路上の不法占用物や放置自転車によって通行が妨げられるなど、歩行者の安全性や利便性に配慮した整備や管理が求められています。

意見に対する必要な取組

- ・歩道の改善(幅員の確保、傾斜、段差の改善等)
- ・視覚障害者誘導用ブロックの設置
- ・無電柱化の推進、道路上の自転車、看板などの不法占用物の撤去
- ・自転車利用者のマナー向上

(4) 公園

公園においては、出入口やトイレのバリアフリー化を求める声があります。

出入口の通路幅の確保やスロープの整備、バリアフリートイレの整備など、障害者や高齢者をはじめ、誰もが安心して利用できる環境づくりが求められています。

意見に対する必要な取組

- ・誰もが快適に利用できるトイレの整備
- ・出入口や園路における通路幅、段差の改善、スロープの確保

(5) 建築物

建築物では、公園と同様に、出入口やトイレのバリアフリー化に加え、エレベーターやエスカレーターの整備、案内サインの視認性や分かりやすさの向上などが必要とされています。

高齢者や障害者が安心して施設を利用できる環境の実現に向けて、各施設の状況に応じた対応が求められています。

意見に対する必要な取組

- ・誰もが円滑に利用、移動できるトイレや出入口の整備、改善
- ・施設内を移動するためのエレベーター、エスカレーターの整備、改善
- ・障害に配慮した受付や窓口対応、コミュニケーションツール*の準備
- ・誰もがわかりやすい施設の案内表示や音声案内設備の整備

(6) 心のバリアフリー

区民の心のバリアフリーに関する認知は、十分とは言えない状況です。

乗り物での席の譲り合いや乳幼児連れへの理解など、日常生活の中で求められる思いやりや配慮が行き届いていない場面があることや、支援や手助けの意思があっても、障害等に対する適切な対応方法を知らないことが原因で、結果的に配慮が行き届かないケースもあるとの意見がありました。

こうした状況を踏まえ、障害への理解を深めるためには、区民や職員の意識向上と、継続的な啓発の取組が求められます。

意見に対する必要な取組

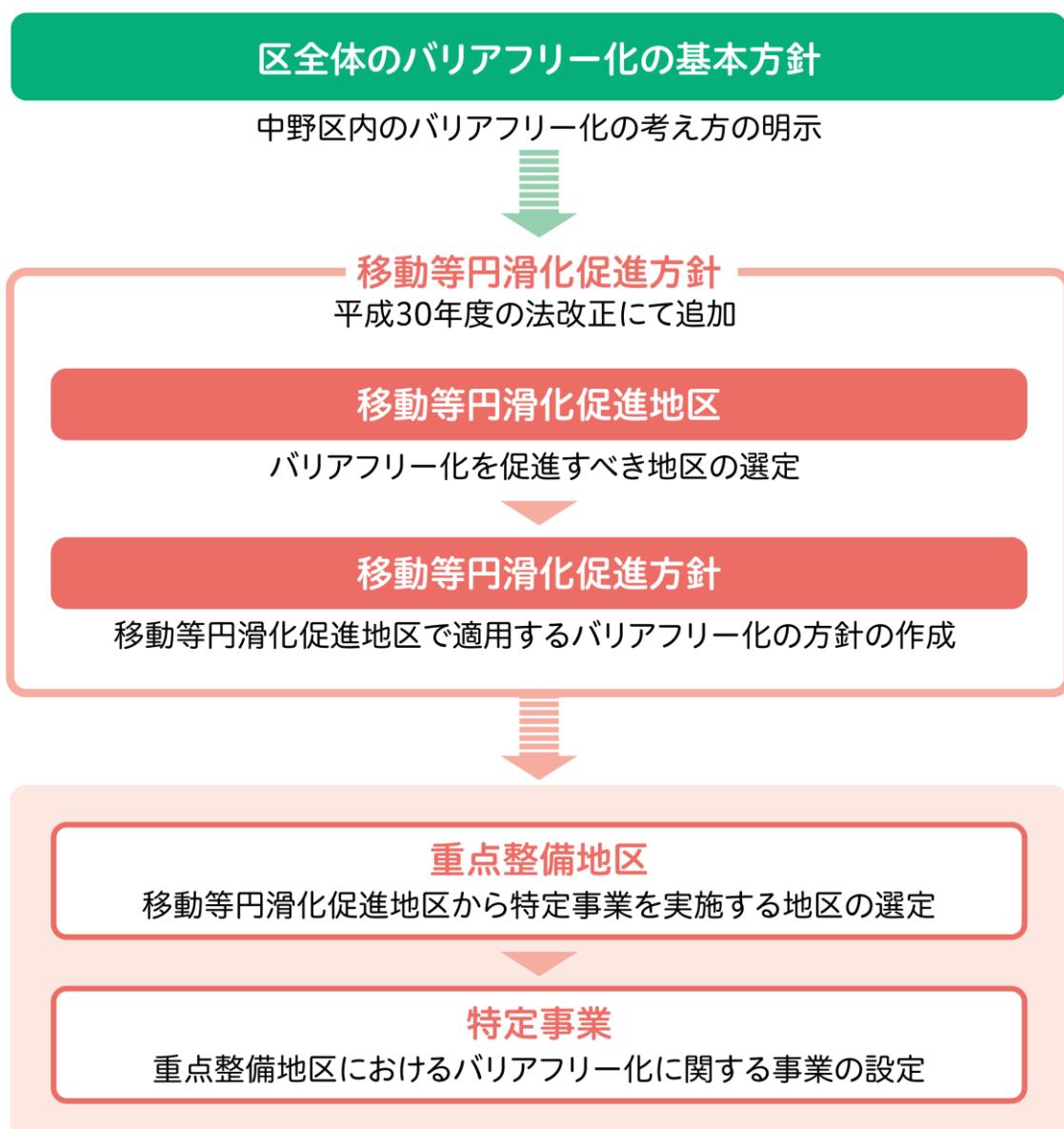
- ・障害や多様性に対する理解を促進するための啓発活動の充実
- ・障害のある方への適切な対応や手助けの方法の普及
- ・公共施設や交通機関などの利用におけるマナー向上と周囲への配慮の促進

第3章 バリアフリー化の方針(移動等円滑化促進方針)

3-1 本構想で示すバリアフリー化の方針と施策

本構想では、法改正により創設された「移動等円滑化促進方針」制度を追加し、以下のとおりバリアフリー化の方針と施策を作成しています。

図 3-1 本構想で示すバリアフリー化の方針と施策



3-2 区全体のバリアフリー化の基本方針

バリアフリーに関する現状と課題を踏まえ、バリアフリーやユニバーサルデザインの考え方に基づいた誰もが利用しやすい道路・交通環境や公共施設の整備等を進めていくため、中野区全体のバリアフリー化の基本方針を以下に示します。

図 3-2 区全体のバリアフリー化の基本方針

基本方針1 誰もが移動しやすく、利用しやすいまちの実現

■高齢者や障害者をはじめ、すべての人が安全・快適に移動でき、公共施設や交通機関を円滑に利用できる都市環境の整備を目指します。

基本方針2 ハード整備を支えるソフト面での取組の推進

■施設整備だけでなく、利用者の視点に立った案内や支援、運用上の工夫を通じて、誰もが安心して施設を利用できる環境づくりを進めます。

基本方針3 心のバリアフリーの推進

■高齢者や障害者等への理解を促進し、誰もが互いに尊重し合い、支えあえる地域社会の形成を目指します。

基本方針4 繼続的なバリアフリーの取組の推進

■バリアフリーの取組の進捗を適切に管理するとともに、段階的かつ継続的な見直しと改善を重ね、誰もが安心して暮らし、移動し、施設を利用できる環境の実現に向けて、持続可能な取組を計画的に推進します。

3-3 移動等円滑化促進地区の選定

(1) 移動等円滑化促進地区

中野区でバリアフリー化を促進すべき地区として、「移動等円滑化促進地区」を選定します。移動等円滑化促進地区の要件は、バリアフリー法で次のとおり定められています。

① 配置要件

生活関連施設^{※1}(原則、3以上)があり、かつそれらの間の移動が通常徒歩で行われる地区

② 課題要件

生活関連施設及び生活関連経路^{※2}についてバリアフリー化の促進が特に必要な地区

③ 効果要件

バリアフリー化を促進することが、総合的な都市機能の増進を図る上で有効かつ適切な地区

(2) 地区の設定

中野区では、鉄道駅や利用者の多い施設が区内全域に分散しており、区域の設定次第では、ほぼ全域が移動等円滑化促進地区の要件を満たす状況にありますが、効果要件を踏まえ、より高い効果が期待できる地区を選定することとし、多くの利用者が集中する鉄道駅を中心とした徒歩圏(概ね500m圏内)を移動等円滑化促進地区として選定します。

※1:生活関連施設

高齢者、障害者等が日常生活または社会生活において利用する旅客施設、公共・公益施設、福祉・医療施設、文化・教養施設、教育施設、スポーツ施設、商業施設、宿泊施設、子育て支援施設、公園等の施設のこと

※2:生活関連経路

生活関連施設相互間の経路(道路や通路など)のこと

(3) 生活関連施設の設定

中野区では、生活関連施設を下表に示す施設のうち、鉄道駅を中心に概ね半径500m内に立地する施設を、生活関連施設に設定します。

表 3-1 生活関連施設の候補施設

種別	施設内訳
旅客施設	鉄道駅
公共施設	区役所、地域事務所、警察署、税務署、都税事務所 法務局、年金事務所
文化・スポーツ施設	図書館、資料館、区民活動センター、区民ホール 勤労・商工関連施設、運動施設
保健・福祉施設	保健所、すこやか福祉センター、地域包括支援センター 高齢者会館、高齢者福祉センター、障害者支援施設
医療施設	病院
保育・教育施設	公立小中学校、特別支援学校、児童館、子育てひろば
金融機関	郵便局、都市銀行
商業施設	店舗面積 500m ² 以上の店舗
公園	面積 2,000m ² 以上の中規模公園

(4) 生活関連経路の設定

生活関連経路は、生活関連施設相互間の経路となる道路、駅前広場、通路等であり、生活関連施設へのアクセス動線や地区内の回遊性などを考慮して設定することが必要となります。中野区においては、以下の考え方で生活関連経路を設定します。

- ① 鉄道駅と生活関連施設を結ぶ動線を設定します。
- ② 生活関連施設間の移動に配慮した動線を設定します。
- ③ 生活関連施設の出入口が生活関連経路と接道するように設定します。

(5) 区域の設定

移動等円滑化促進地区的区域は、生活関連施設及び生活関連経路を含む範囲を設定し、総括図を図3-3に示すとともに、各地区を図3-4～図3-17に示します。

図 3-3 移動等円滑化促進地区 総括図



図 3-4 移動等円滑化促進地区 方南町地区

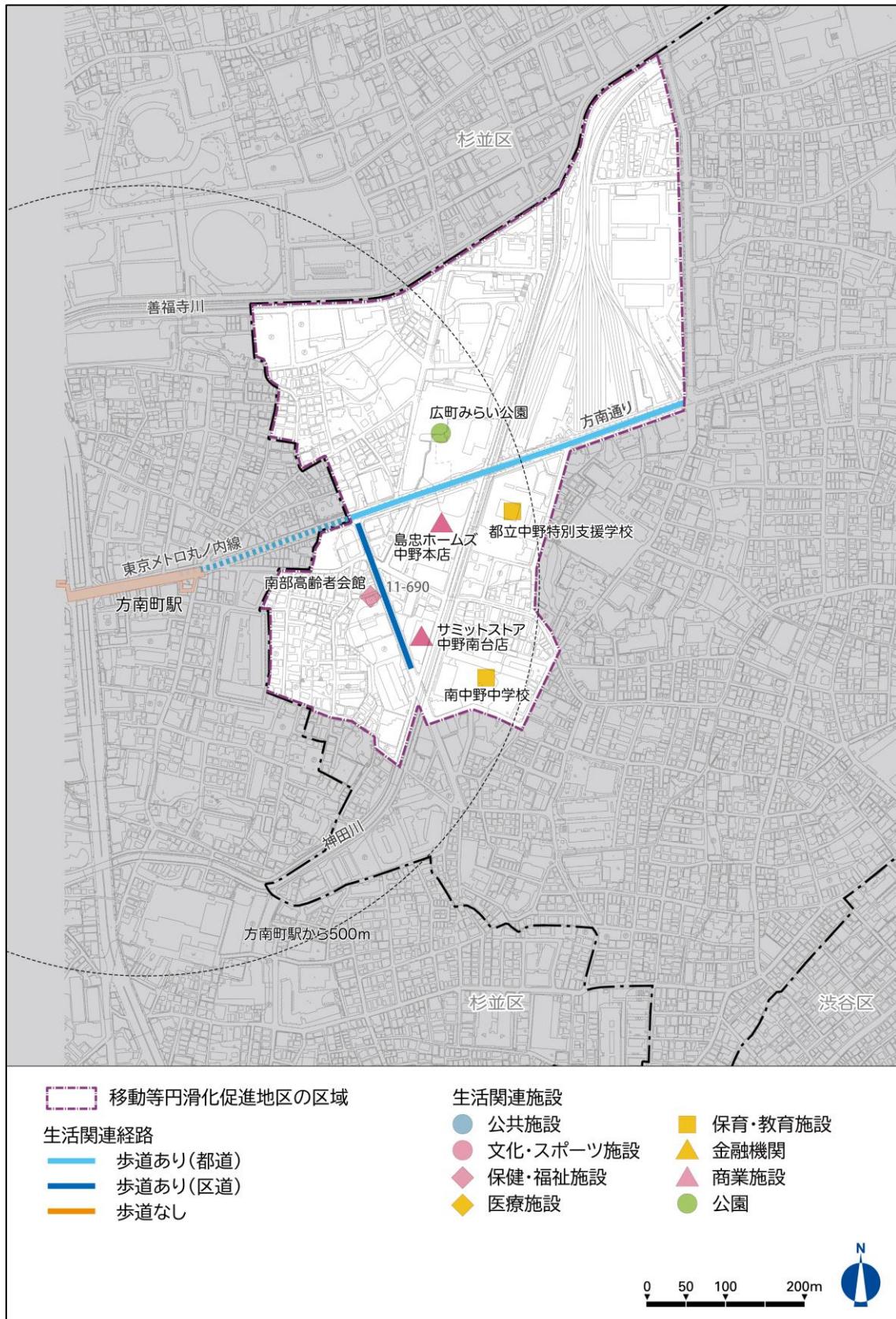


図 3-5 移動等円滑化促進地区 中野富士見町地区

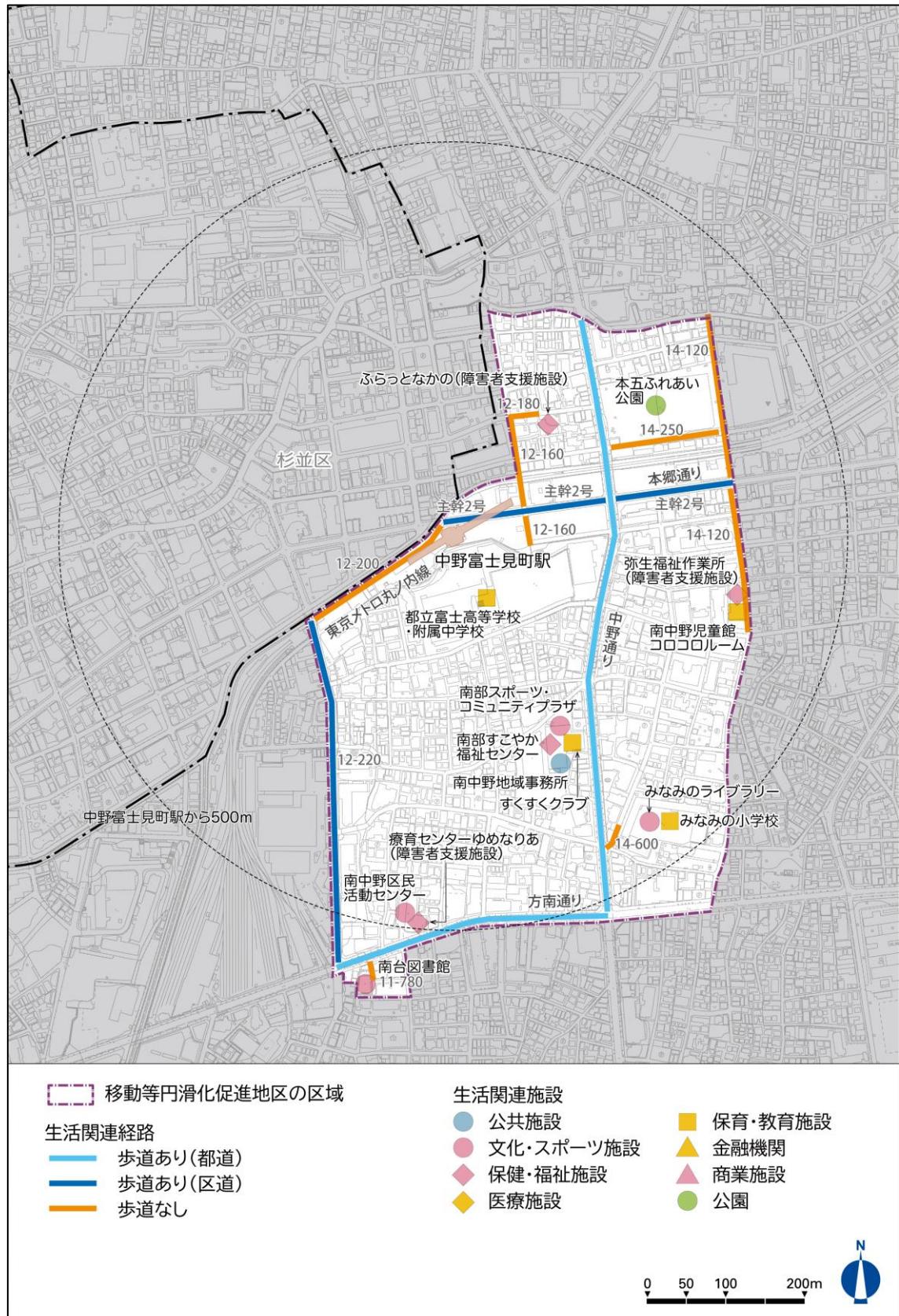


図 3-6 移動等円滑化促進地区 中野新橋地区



図 3-7 移動等円滑化促進地区 新中野地区

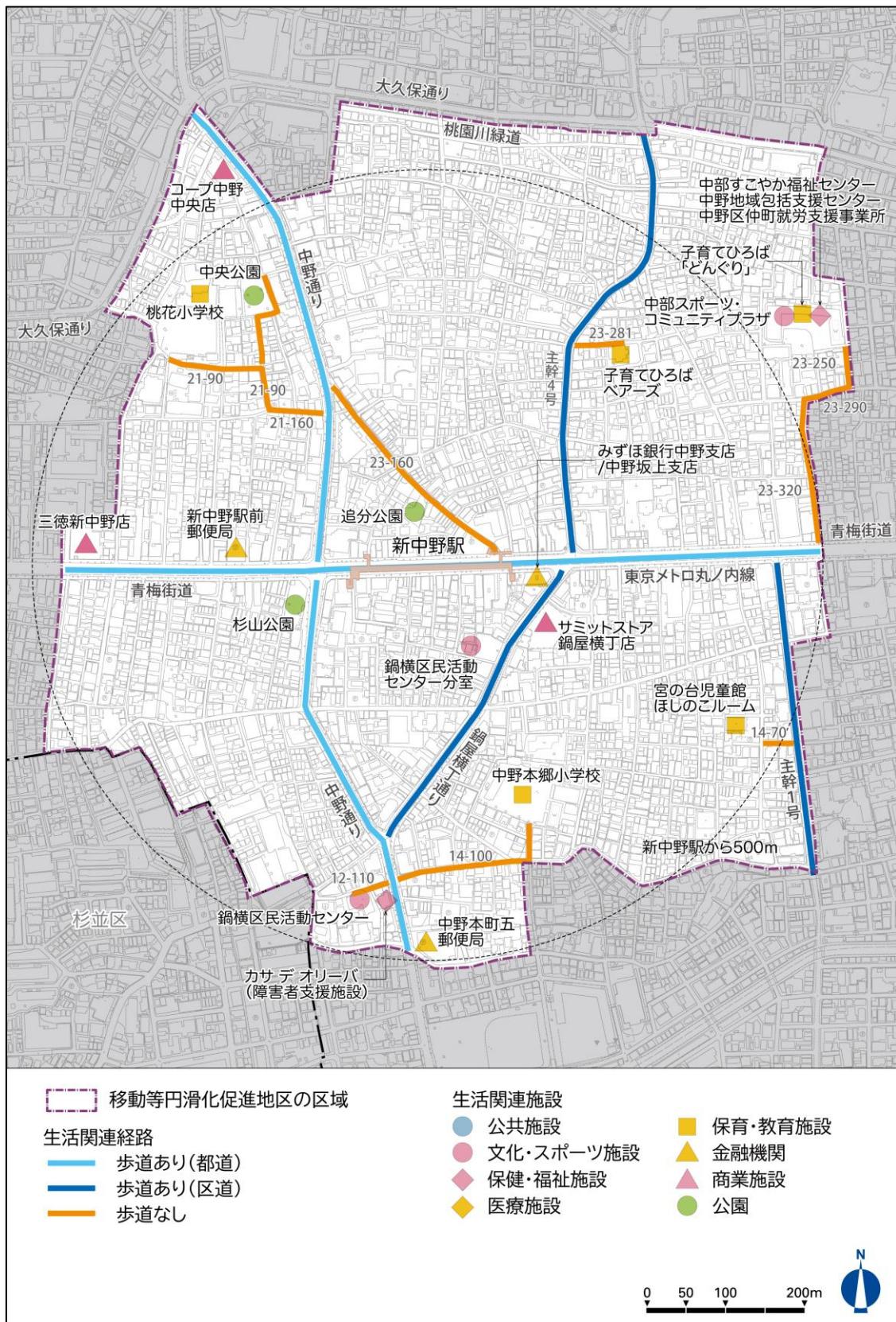


図 3-8 移動等円滑化促進地区 中野坂上地区



□ 移動等円滑化促進地区の区域

生活関連路

- 歩道あり(都道)
- 歩道あり(区道)
- 歩道なし

生活関連施設

- | | |
|-------------|-----------|
| ● 公共施設 | ■ 保育・教育施設 |
| ● 文化・スポーツ施設 | ▲ 金融機関 |
| ◆ 保健・福祉施設 | △ 商業施設 |
| ◆ 医療施設 | ● 公園 |

図 3-9 移動等円滑化促進地区 中野地区

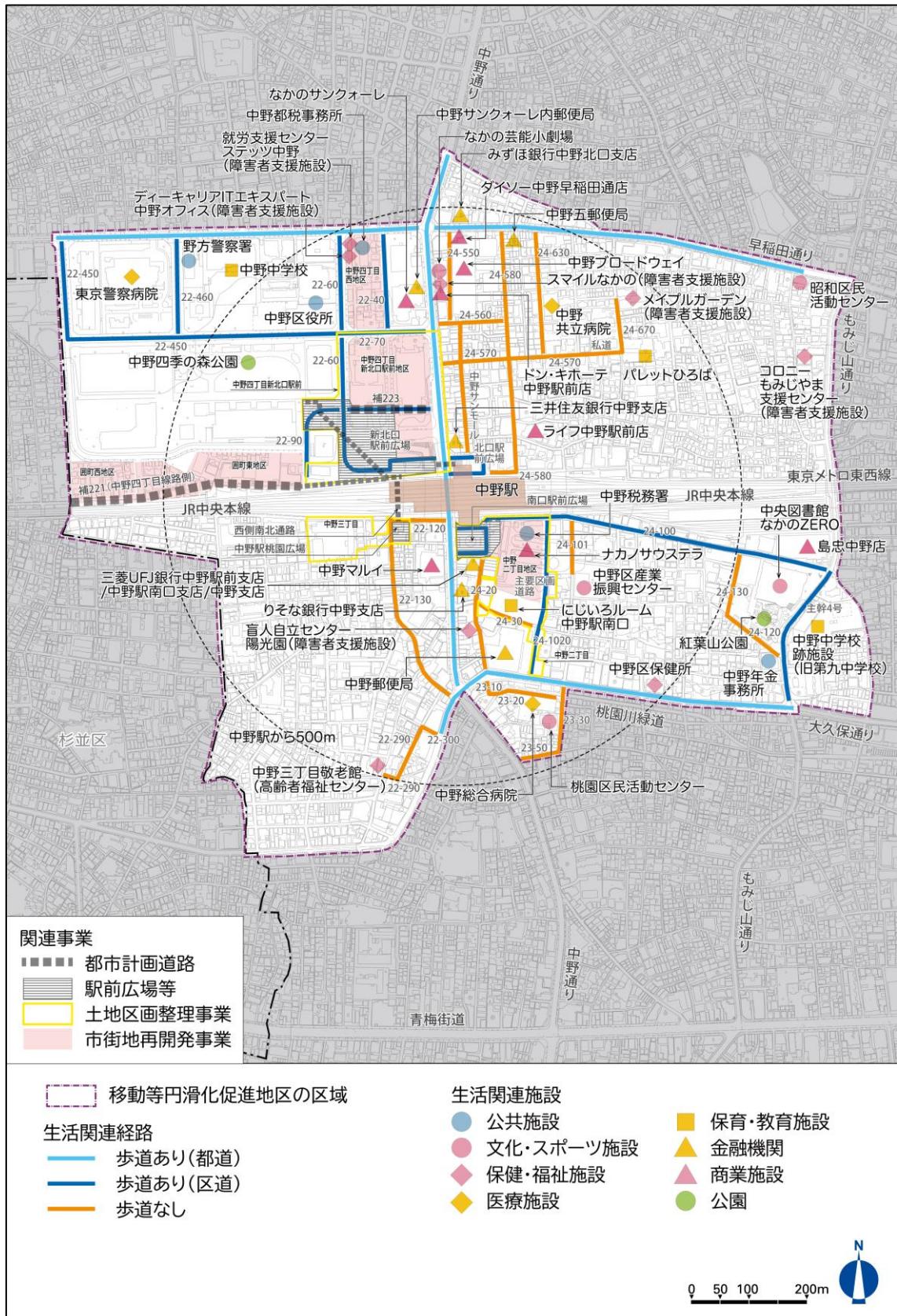


図 3-10 移動等円滑化促進地区 東中野・落合地区

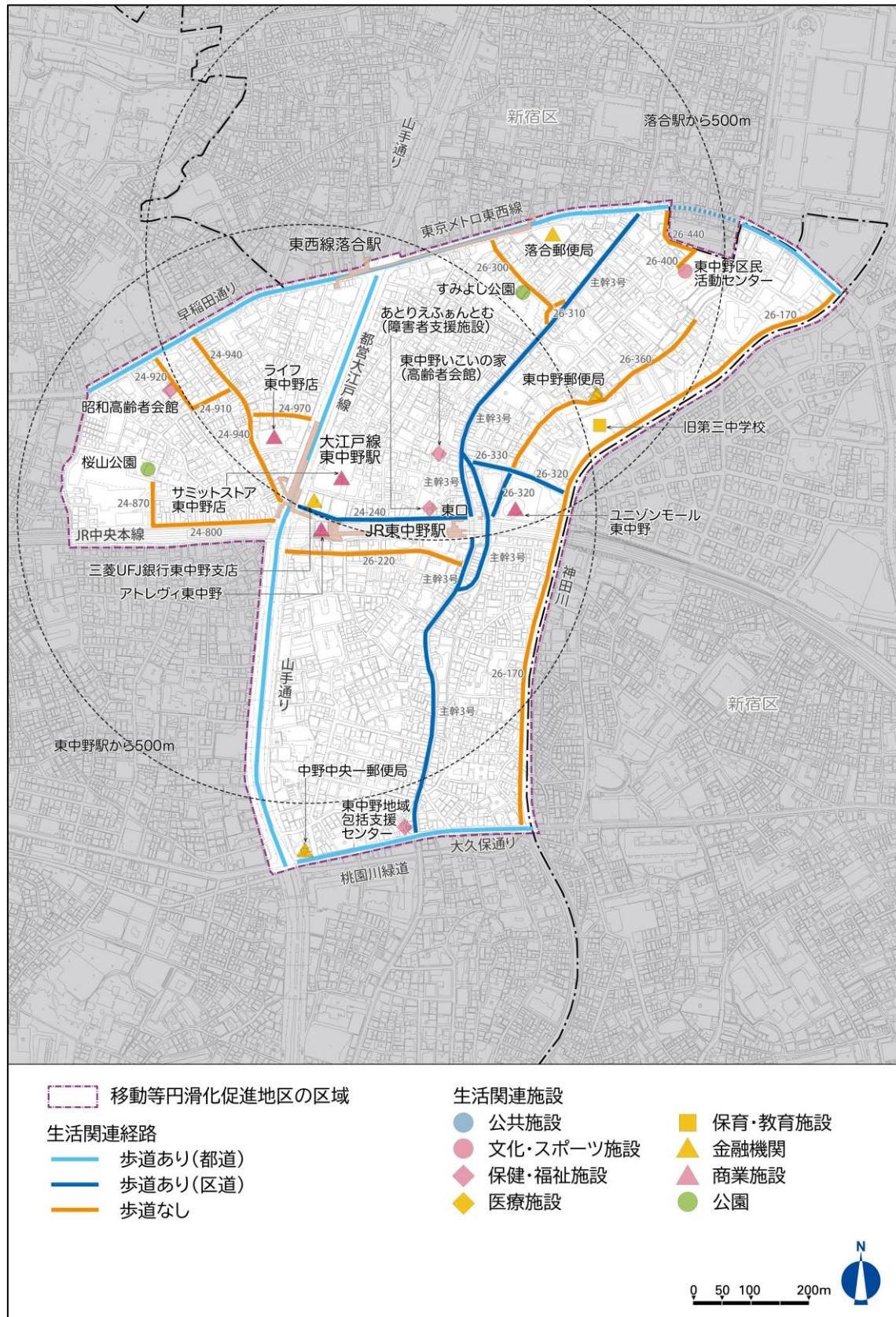


図 3-11 移動等円滑化促進地区 新井薬師前地区

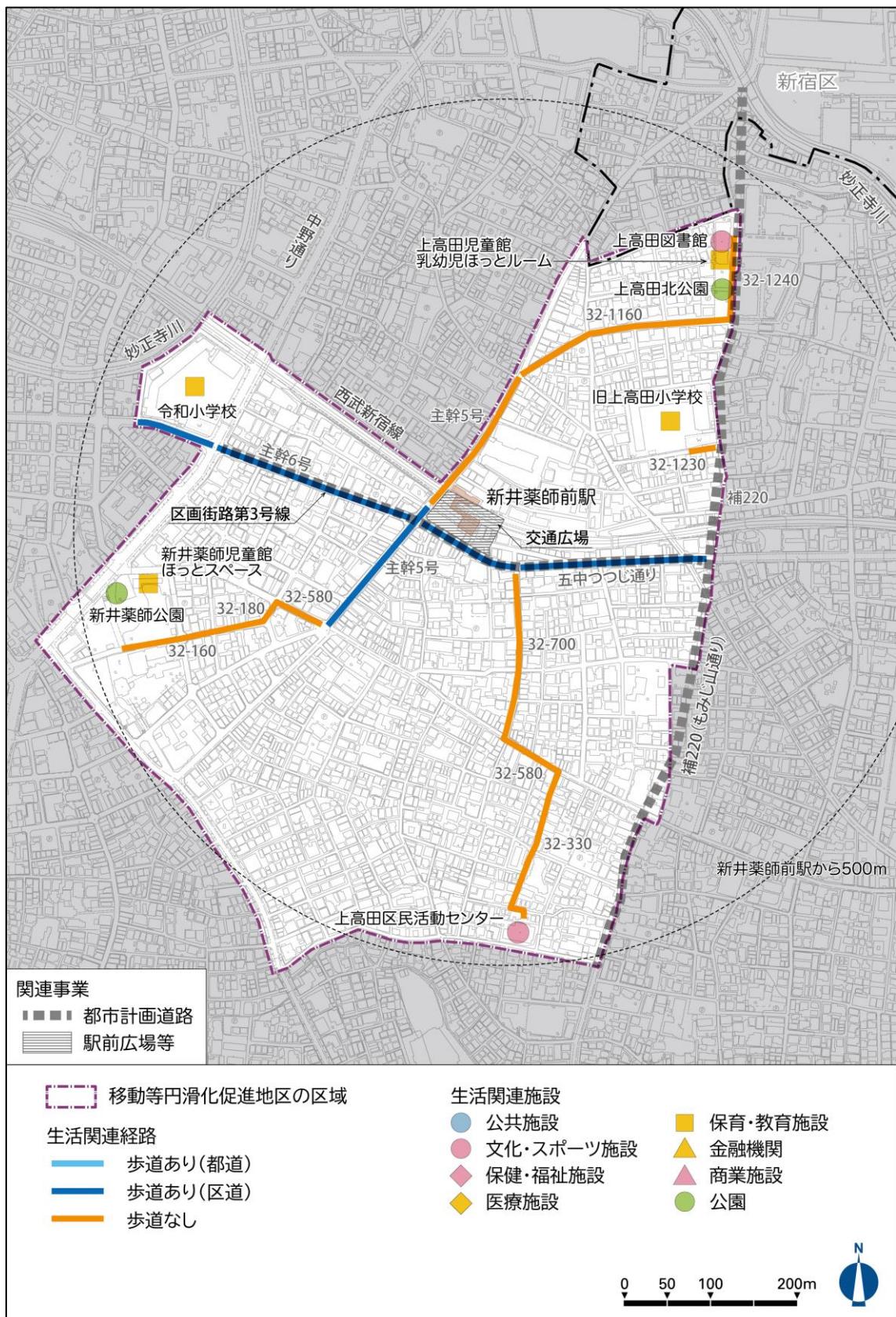


図 3-12 移動等円滑化促進地区 沼袋地区

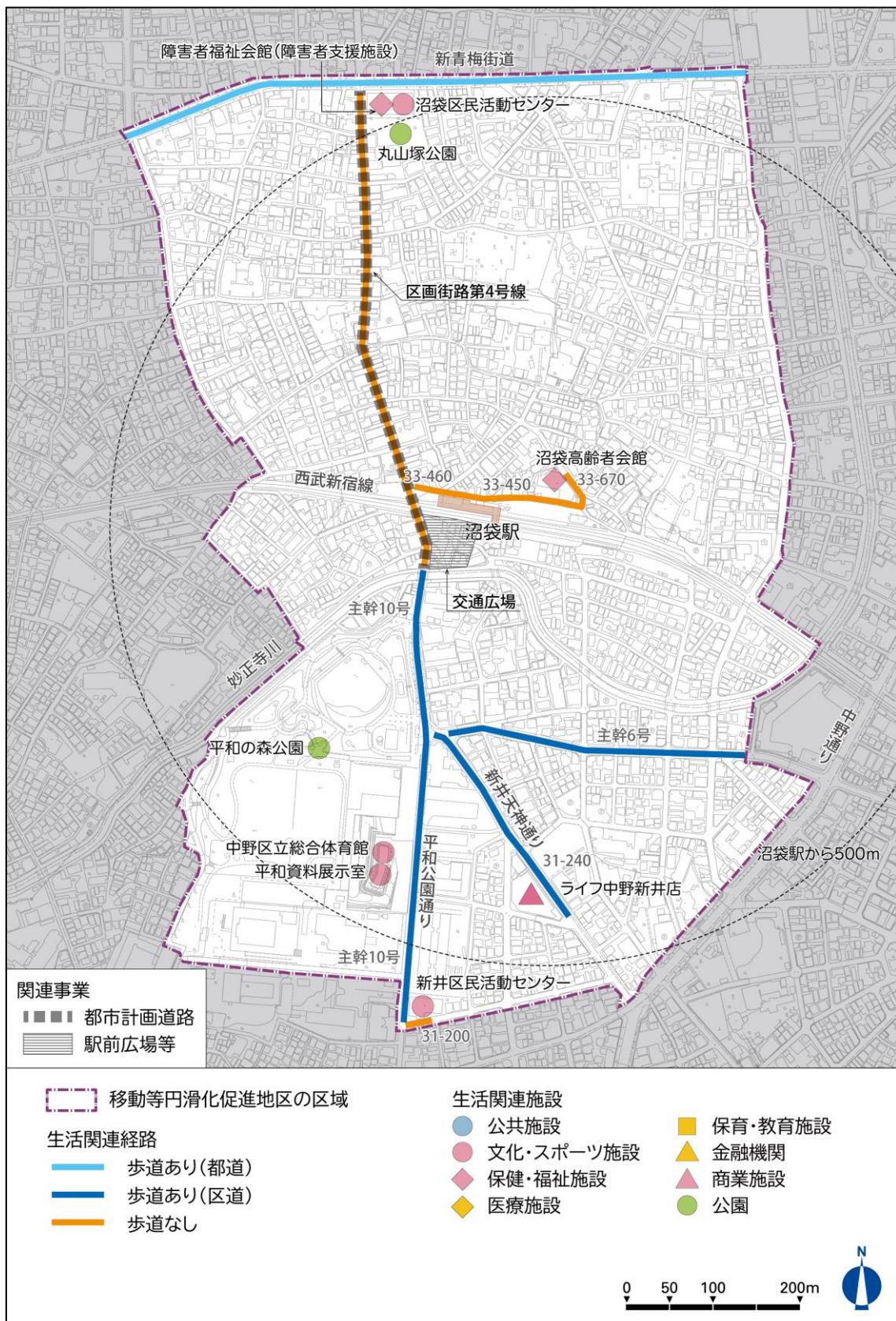


図 3-13 移動等円滑化促進地区 野方地区



図 3-14 移動等円滑化促進地区 都立家政地区



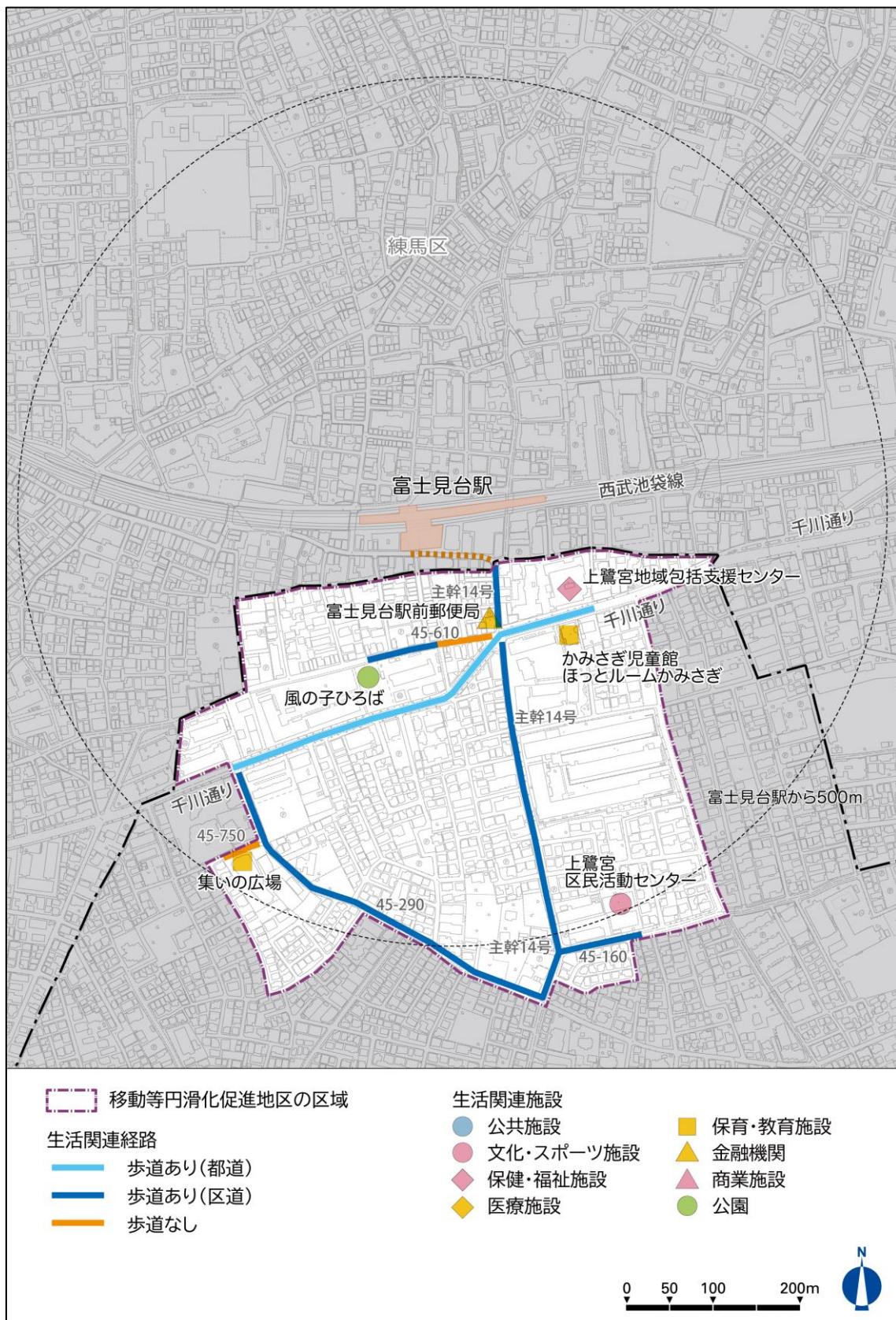
図 3-15 移動等円滑化促進地区 鷺ノ宮地区



図 3-16 移動等円滑化促進地区 新江古田地区



図 3-17 移動等円滑化促進地区 富士見台地区



3-4 移動等円滑化促進方針(分野別のバリアフリー化の方針)

移動等円滑化促進地区で適用するバリアフリー化の方針を示します。本方針については、「3-1 本構想で示すバリアフリー化の方針と施策」を踏まえて、各施設管理者等が取組む分野別のバリアフリー化の方針を示します。なお、移動等円滑化促進地区外においても、各施設等の新設や改良を行う際は、本方針を準用するものとします。

(1) 鉄道駅

【安全・安心に利用しやすい駅の整備】

- 外部から駅のプラットホーム*まで誰もが円滑に移動できるバリアフリー化された経路を確保し、車両等へスムーズに乗降できるよう、連続性のある動線の整備を推進します。
- 階段での転倒防止対策やプラットホームでの転落防止対策など、誰もが安心、安全に利用できる施設、設備の整備、改善を行います。



ホームドア*が整備された
プラットホーム（東中野駅）

【利用しやすい設備の整備】

- 誰もが利用できるように配慮したエレベーター、エスカレーター、トイレ、改札口、券売機等の設備について整備を推進します。

【わかりやすい誘導案内設備の整備】

- 駅構内の案内は、情報の内容、表示の方法やデザイン、掲出の位置などを考慮し、誰にでもわかりやすいものとします。
- 鉄道駅の円滑な利用を支援するため、施設・設備の位置及び内容を知らせる視覚障害者誘導用ブロックや音声案内設備などの設置に努めます。



トイレやベビー休憩室の案内表示（中野駅）



視覚障害者誘導用ブロック（落合駅）

(2) 路線バス

【利用しやすい車両の導入・車内環境の整備】

- ・ノンステップバスなどバリアフリー化された車両の導入やわかりやすく、見やすい車内行先表示機の設置など、誰もが利用しやすい車両の導入、車内環境の整備を推進します。



大画面の車内案内表示器（西武バス）

【待合環境の確保・整備】

- ・バス停留所は、道路や駅前広場等の整備状況を踏まえて、屋根・ベンチの設置を検討することや、音声案内設備の設置に努めるなど、利用者に優しい待合環境確保・整備を促進します。

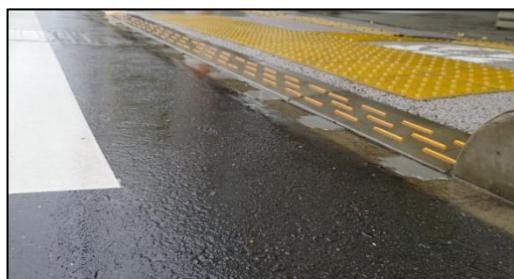


バス停留所（中野四季の森公園）

(3) 道路

【誰もが利用しやすい道路・交通環境の整備】

- ・歩道の改善(勾配・段差の改善、幅員の確保等)や適切な位置、材質の視覚障害者誘導用ブロックの設置、駅前広場の整備など、誰もが安全で快適に通行できる歩行者空間の整備を推進します。



歩道の段差改善や視覚障害者誘導用ブロックの整備（新井天神通り）

- ・無電柱化の推進や自転車の違法駐輪、不法占用物の是正や指導により、通行の支障となる障害物を排除することで、歩行者に優しい通行環境を確保します。
- ・路線バスネットワークの維持・拡充や区内を円滑に移動できる公共交通サービスに関する検討を進め、区民の快適な移動と回遊の確保を図ります。
- ・案内標識は、見やすさ、わかりやすさに配慮して整備を行います。
- ・開かずの踏切等の除却に向けた取組を推進します。

【コラム】西武新宿線踏切渋滞解消促進期成同盟

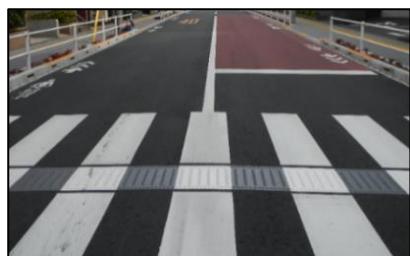
中野区内を東西に横断する西武新宿線は、ピーク時に 1 時間あたり 40 分以上遮断される「開かずの踏切」が区内に 18 か所あり、交通渋滞の発生や踏切事故の危険性、地域の分断など、深刻な問題を招いています。その解消に向け、区民・区議会・中野区が一体となり「西武新宿線踏切渋滞解消促進期成同盟」を 2004 年に結成し、決起大会の開催や関係機関への要請活動を継続的に行ってています。



西武新宿線踏切渋滞解消促進期成同盟
決起大会（2025 年度）

【適切な交通安全施設の整備】

- ・道路を横断する視覚障害者の安全を確保するため、音響式信号機*の設置や、横断歩道のエスコートゾーンの整備を推進します。
- ・路面標示や道路標識は、利用者が視認できるよう適切な状態で維持管理を行います。
- ・違法駐車対策を行い、歩行者の安全な移動を確保します。



エスコートゾーン



音響式信号機



一時停止（止まれ）の
路面標示

(4) 公園

【安全で快適に利用できる公園の整備】

- ・主な出入口及び園路は、平坦で滑りにくい舗装とすることや基準に合った通路幅、勾配、段差に改善をするなど、誰もが安全に利用できるように配慮した構造とします。
- ・誰もが利用しやすいように配慮した施設(遊具、トイレ、ベンチ、水飲み等)を整備します。



出入口の通路幅を改善
(丸山塚公園)



バリアフリートイレ
(新井薬師公園)

(5) 建築物

【ユニバーサルデザインに配慮した建築物の整備】

- ・中野区区有施設のユニバーサルデザイン導入ガイドラインを参考に、誰もが利用しやすい区有施設を整備します。
- ・東京都福祉のまちづくり条例や中野区福祉のまちづくりのための環境整備要綱*に基づく届出の対象となる建築行為において、建築物のバリアフリー化が図られるよう適切な審査を行います。また、第4次中野区住宅マスターplanに基づき、誰もが暮らしやすい住宅の整備に向け、バリアフリー住宅の普及を促進します。

中野区区有施設のユニバーサルデザイン導入ガイドラインとは

中野区ユニバーサルデザイン推進条例*において、基本理念の「支障なく円滑に利用できる都市基盤・施設の整備の推進」を位置づけており、この基本理念の実現に向けて「中野区区有施設のユニバーサルデザイン導入ガイドライン」を策定しました。本ガイドラインで区有施設整備時のユニバーサルデザイン導入基準を示すことにより、区有施設のユニバーサルデザインに関する水準の向上を目指します。

中野区区有施設のユニバーサルデザイン導入ガイドライン

令和7年3月 中野区

(6) 心のバリアフリー

【支援や手助けを必要とする多様な方々への理解促進・啓発活動】

- ・障害の理解促進のため、区民向け講演会の開催や小・中学生へのリーフレット配布、障害者との交流事業の実施など、障害のある人について知り、理解する機会を設けます。
- ・支援を必要とする方に対して、適切な手助けを行えるよう、区職員や事業者に対して研修の充実を図ります。
- ・多様な方々の移動や施設の利用等の生活上における支障や不安を周囲の人々が理解し、適切な配慮を促進するための広報・啓発活動を推進します。



車いす使用者への接遇訓練
(京王電鉄バス株式会社)



バリアフリートイレの適正利用ポスター（国土交通省）



エスカレーター
「歩かず立ち止まろう」
キャンペーン
(一般社団法人日本民営鉄道協会)



「声かけ・サポート」運動
(一般社団法人日本民営鉄道協会)

(7) その他（ソフト面）

【適切なコミュニケーション】

- 手話による意思疎通の他に、コミュニケーションツール等を活用するなど、支援や介助を必要とする方と円滑な意思疎通を図り、施設の利用や移動をサポートします。



筆談*ボード



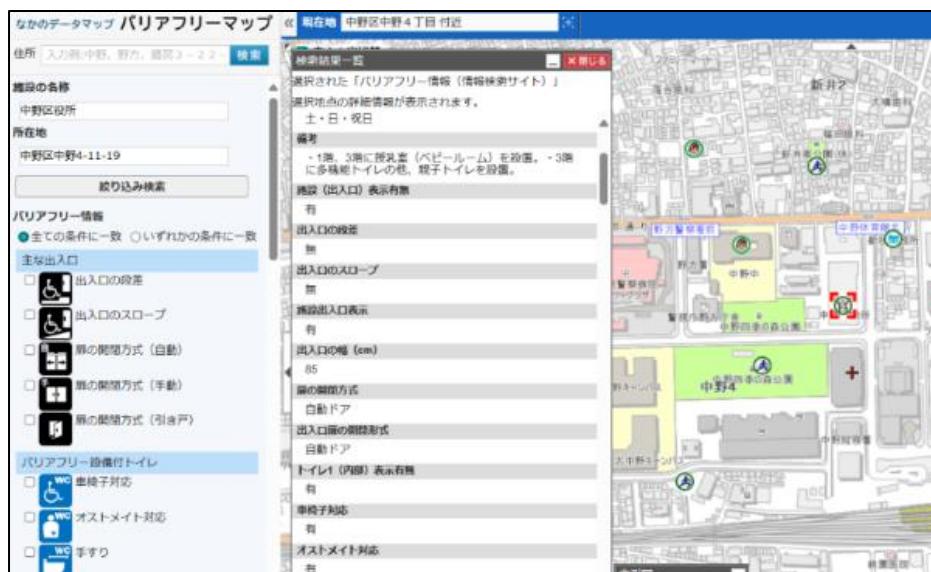
透明ディスプレイ*

【自転車利用者へのマナー啓発】

- 放置自転車対策を強化するとともに、自転車利用に関するルールの周知とマナーの向上を図ります。

【情報の提供】

- 施設の整備に伴い交通環境に変化が生じる際は、地域への説明をはじめ、ホームページや広報などを通じて、適切に情報を発信します。
- 誰もが円滑に施設を利用できるよう区のバリアフリーマップや鉄道、バス事業者のウェブサイト・アプリにて、施設の設備や車両のバリアフリー化の状況などを提供します。



施設情報を提供しているバリアフリーマップ（なかのデータマップ）

第4章 バリアフリー化の施策

4-1 重点整備地区の選定

(1) 重点整備地区

重点整備地区は、施設等のバリアフリー化のための事業を重点的かつ一体的に推進すべき地区として区市町村が定める地区です。バリアフリー法で定められている地区の要件は、次のとおりです。

① 配置要件

生活関連施設（原則、3以上）があり、かつそれらの間の移動が通常徒歩で行われる地区

② 課題要件

生活関連施設及び生活関連経路についてバリアフリー化の事業実施が特に必要な地区

③ 効果要件

バリアフリー化の事業を重点的・一体的に実施することが、総合的な都市機能の増進を図る上で有効かつ適切な地区

(2) 重点整備地区の選定の流れ

中野区における重点整備地区は、上記の要件を踏まえ、移動等円滑化促進地区から、評価指標を設定し、バリアフリー化の事業実施が特に必要でありバリアフリー化の事業を重点的・一体的に実施する地区を選定します。

また、旧構想における重点整備地区は、バリアフリー化の事業である特定事業が完了していないことから引き続き、重点整備地区に位置づけます。

図 4-1 重点整備地区の選定の流れ

駅を中心とした徒歩圏

生活関連施設の配置状況からバリアフリー化の促進が必要な地区の位置を選定

移動等円滑化促進地区

評価指標を設定し、バリアフリー化の事業の実施が特に必要であり、バリアフリー化を重点的・一体的に実施する地区の位置を選定

重点整備地区

(3) 重点整備地区の選定の考え方

重点整備地区は、移動等円滑化促進地区の課題要件と効果要件の検証を行い、選定します。

【①課題要件の検証】

バリアフリー化の事業実施が特に必要な地区を選定するため、区民アンケートの結果から区民評価による地区のバリアフリー化の必要性を検証し、重点整備地区の対象となる地区を選定します。

表 4-1 課題要件による選定の考え方

検証項目	考え方	指標
区民評価による地区のバリアフリー化の必要性	区民意見にてバリアフリー化の必要性の高い地区を選定	アンケート調査によるバリアフリー化の評価

【②効果要件の検証】

バリアフリー化の事業を重点的・一体的に実施することが、総合的な都市機能の増進を図る上で有効かつ適切な地区を選定するため、基礎評価指標、まちづくり等の動向を検証し、重点整備地区の選定判定をします。

表 4-2 効果要件による選定の考え方

検証項目	考え方	指標
基礎評価指標	ア 地区内の人口集積	地区内の人口が多い地区を優先
	イ 駅の利用者数	駅利用者数の多い地区を優先
	ウ バスの運行本数	各駅からのバス発車数が多い地区を優先
	エ 地区内の施設数	施設が多く立地している地区を優先
まちづくり等の動向		まちづくりや基盤施設 *整備との連携が見込める地区を優先
		まちづくり計画や基盤施設整備等の有無

【①課題要件の検証】～区民評価による地区のバリアフリー化の必要性～

区民アンケート調査において、バリアフリー化に対する区民の評価として、駅及び駅周辺の道路について、「バリアフリー化は十分だと思いますか」という設問を設けその結果を点数化し、評価しました。

点数は、回答について「そう思う」を3点、「ややそう思う」を2点、「あまりそう思わない」を1点、「そう思わない」を0点とし、各地区の回答の平均値の合計から評価しました。その結果は、下表に示すとおりです。

表 4-3 区民アンケート調査結果を踏まえた評価結果

地区	アンケート結果による点数化		合計	バリアフリー化の必要性のランク
	駅	駅周辺の道路		
方南町	0.94	1.18	2.12	B
中野富士見町	2.08	1.41	3.49	D
中野新橋	1.91	1.42	3.33	D
新中野	1.17	1.47	2.64	C
中野坂上	1.48	1.78	3.26	D
中野	0.91	1.23	2.14	B
東中野	1.46	1.39	2.85	C
落合	1.08	1.58	2.66	C
新井薬師前	1.08	0.93	2.01	B
沼袋	1.31	1.05	2.36	B
野方	1.90	1.27	3.17	D
都立家政	1.57	1.25	2.82	C
鷺ノ宮	0.91	0.84	1.75	A
新江古田	1.71	1.67	3.38	D
富士見台	1.76	1.15	2.91	C

※バリアフリー化の必要性のランク

：合計について、A= 2.00 未満 B= 2.00 以上 C= 2.50 以上 D= 3.00 以上

※点数が低いほど、バリアフリー化は不十分と評価されている地区であり、バリアフリー化の必要性は高いです。（バリアフリー化の必要性（高）A>B>C>D（低））

【①課題要件の検証】～検証結果～

旧構想における重点整備地区を除き、区民評価による地区的バリアフリー化の必要性が低いDの地区は、重点整備地区の選定対象外とします。

表 4-4 課題要件による検証結果

地区	旧構想における 重点整備地区	バリアフリー化の 必要性のランク	検証結果
方南町		B	
中野富士見町		D	選定対象外
中野新橋		D	選定対象外
新中野	○	C	既存の重点整備地区
中野坂上		D	選定対象外
中野	○	B	既存の重点整備地区
東中野	○	C	既存の重点整備地区
落合	○	C	既存の重点整備地区
新井薬師前	○	B	既存の重点整備地区
沼袋	○	B	既存の重点整備地区
野方	○	D	既存の重点整備地区
都立家政		C	
鷺ノ宮	○	A	既存の重点整備地区
新江古田		D	選定対象外
富士見台		C	

※バリアフリー化の必要性のランク：前ページに基づく

【②効果要件の検証】～地区内の人口集積による評価～

地区内の人口集積の評価は以下のとおりです。それぞれの項目で最大値を100として点数化し、それぞれの地区を評価しました。

表 4-5 地区内の人口集積による評価

地区	夜間人口		高齢者数		乳幼児数		合計 点数	地区内 人口の 評価
	人口	点数	人口	点数	人口	点数		
方南町	4,549	20	904	21	182	27	68	D
中野富士見町	12,878	58	2,563	60	392	58	176	B
中野新橋	21,330	96	3,968	93	667	99	288	A
新中野	22,278	100	4,255	100	673	100	300	A
中野坂上	17,604	79	3,167	74	611	91	244	A
中野	13,707	62	2,486	58	477	71	191	B
東中野	17,212	77	3,006	71	651	97	245	A
落合	10,048	45	1,752	41	413	61	147	C
新井薬師前	15,457	69	3,135	74	511	76	219	B
沼袋	15,352	69	3,409	80	489	73	222	B
野方	16,250	73	3,434	81	489	73	227	A
都立家政	13,925	63	2,953	69	415	62	194	B
鷺ノ宮	14,115	63	3,061	72	555	82	217	B
新江古田	7,402	33	1,692	40	303	45	118	C
富士見台	4,964	22	1,075	25	276	41	88	C

夜間人口、高齢者数、乳幼児数の出典：住民基本台帳（令和6年1月1日現在）

※点数 : 各項目の最大値を100として点数化

※合計点数 : 3項目の点数の合計

※地区内人口の評価 : 合計点数について、A=225以上 B=150以上 C=75以上 D=75未満

【②効果要件の検証】～基礎評価指標による評価～

地区内の人口集積の評価に、駅の利用者数、バスの運行本数、地区内の施設数の評価を加え、基礎評価指標を整理しました。

表 4-6 基礎評価指標による総合評価結果

地区	基礎評価指標							
	ア 人 口 集 積 地 区 内 の	イ 駅の利用者数		ウ バスの運行本数		エ 地区内の 施設数		
	評 価	乗降客数 (人/日)	評 価	運行本 数 (人/日)	評 価	施設 数	評 価	総合 点数
方南町	D	38,148	B	634	A	6	D	5
中野富士見町	B	18,372	D	603	A	14	C	6
中野新橋	A	19,605	D	21	D	9	D	3
新中野	A	32,950	B	725	A	19	C	9
中野坂上	A	89,611	A	389	C	23	B	9
中野	B	386,657	A	2,567	A	42	A	11
東中野	A	83,531	A	14	D	16	C	7
落合	C	25,129	C	100	D	16	C	3
新井薬師前	B	18,903	D	690	A	8	D	5
沼袋	B	17,330	D	110	D	9	D	2
野方	A	22,400	C	830	A	16	C	8
都立家政	B	17,185	D	30	D	7	D	2
鷺ノ宮	B	29,582	C	500	B	21	B	7
新江古田	C	13,968	D	381	C	13	C	3
富士見台	C	26,662	C	53	D	6	D	2

駅の利用者数（乗降客数）の出典：各鉄道事業者ホームページ（令和6年度の駅別乗降人員）

なお、JRは乗車人員を2倍し乗降人員とした

バスの運行本数（運行本数）の出典：公共交通オープンデータより、各事業者の GTFS データ（令和5年度）

地区内の施設数（施設数）の出典：「図3-2～図3-15」における生活関連施設に基づく（よって駅を除く）

※駅の利用者数の評価 : A=乗り換えのある乗降客数の多い駅
B=30,000 以上 C=20,000 以上 D=20,000 未満

※バスの運行本数の評価 : A=600 以上 B=400 以上 C=200 以上 D=200 未満

※地区内の施設数の評価 : A=30 以上 B=20 以上 C=10 以上 D=10 未満
(東中野と落合は図3-8における生活関連施設数)

※基礎評価指標における総合点数 : 各評価 A=3 B=2 C=1 D=0 とした合計点数

※基礎評価指標における総合評価 : 総合点数 9 以上:A 6 以上:B 3 以上:C 3 未満:D

【②効果要件の検証】～まちづくり等の動向による評価～

各地区における、まちづくり等の動向(まちづくり計画や基盤整備等の有無)による評価は以下のとおりです。

表 4-7 まちづくり等の動向による評価結果

地区	まちづくり計画や基盤整備等の有無	評価
方南町	・補助62号線(方南通り)の整備	C
中野富士見町	・補助62号線(方南通り)の整備	C
中野新橋	—	D
新中野	・補助第26号(中野通り)の交差点改良	C
中野坂上	—	D
中野	・中野駅西側南北通路・橋上駅舎等の整備 ・新北口駅前広場・南口駅前広場の整備 ・中野駅周辺まちづくり事業(市街地再開発事業4件 土地区画整理事業3件) ・補助74号線(早稲田通り)の整備	A
東中野	—	D
落合	—	D
新井薬師前	・西武新宿線連続立体交差事業* ・区画街路第3号線(交通広場)の整備 ・補助第220号線の整備	A
沼袋	・西武新宿線連続立体交差事業 ・区画街路第4号線(交通広場)の整備 ・区画街路第4号線(道路拡幅)の整備	A
野方	—	D
都立家政	・補助227号線の整備	C
鷺ノ宮	・補助133号線(中杉通り)の整備	C
新江古田	—	D
富士見台	—	D

※評価： A=まちづくり計画や基盤整備が3事業以上ある

B=まちづくり計画や基盤整備が2事業ある

C=まちづくり計画や基盤整備が1事業ある

D=まちづくり計画や基盤整備がない

【②効果要件による検証結果】～検証結果～

課題要件の検証にて選定の対象とした地区の効果要件の検証結果は以下のとおりです。

表 4-8 効果要件による検証結果

地区	基礎評価指標	まちづくり等の動向	検証結果
方南町	C	C	2
都立家政	D	C	1
富士見台	D	D	0

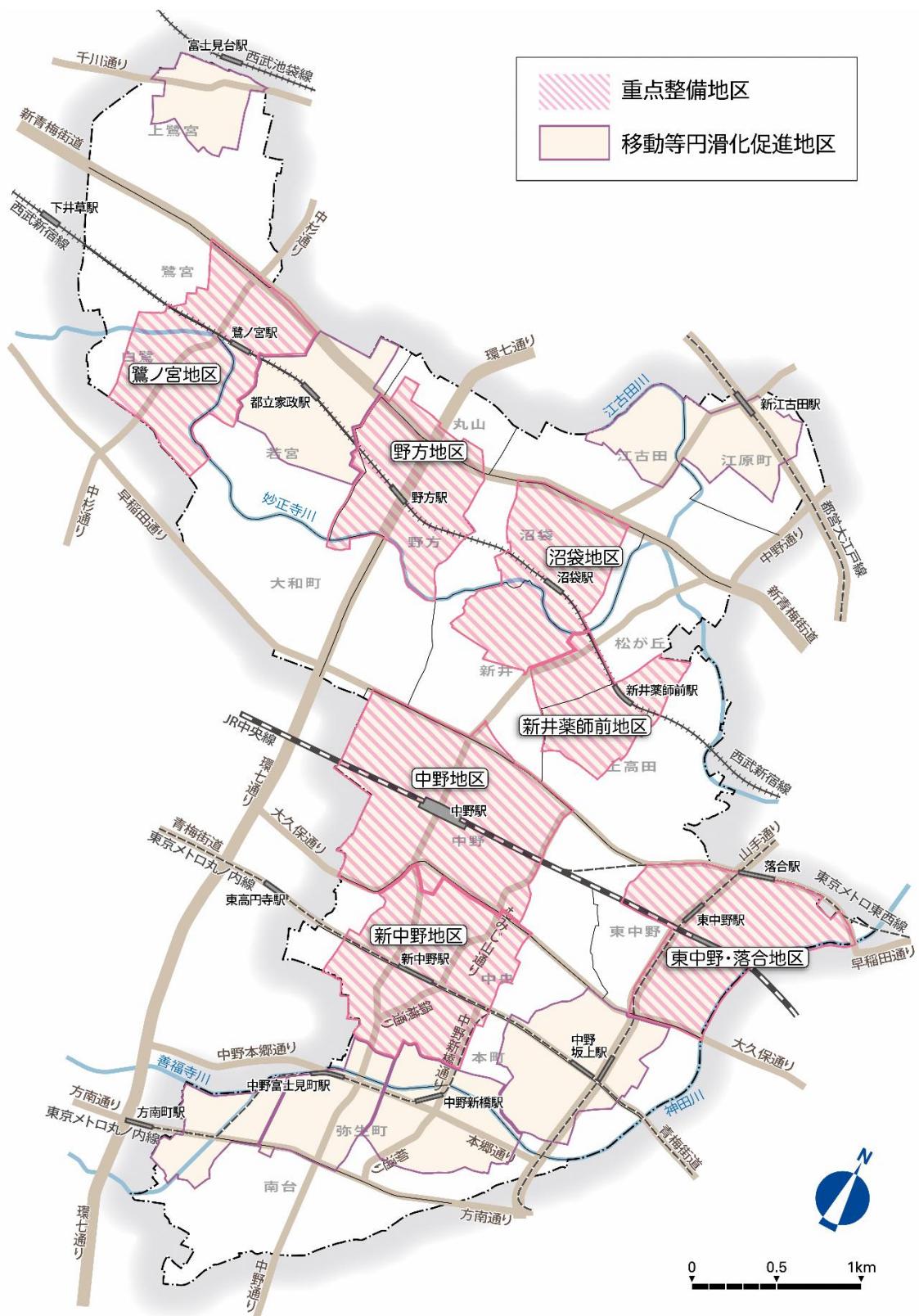
※総合評価：基礎評価指標とまちづくり等の動向について、A = 3点 B = 2点 C = 1点
D = 0点とした場合の合計点

（4）重点整備地区の選定～最終判定

課題要件の検証により選定対象とした各地区における、効果要件の検証結果は、総合評価が6点満点中の半分以下でした。この結果を踏まえて、新たに重点整備地区に指定する地区は設けず、旧構想にて位置づけた以下に示す7地区を引き続き設定します（次ページ図を参照）。

重点整備地区

新中野地区 沼袋地区
中野地区 野方地区
東中野・落合地区 鶯ノ宮地区
新井薬師前地区



4-2 特定事業等の設定

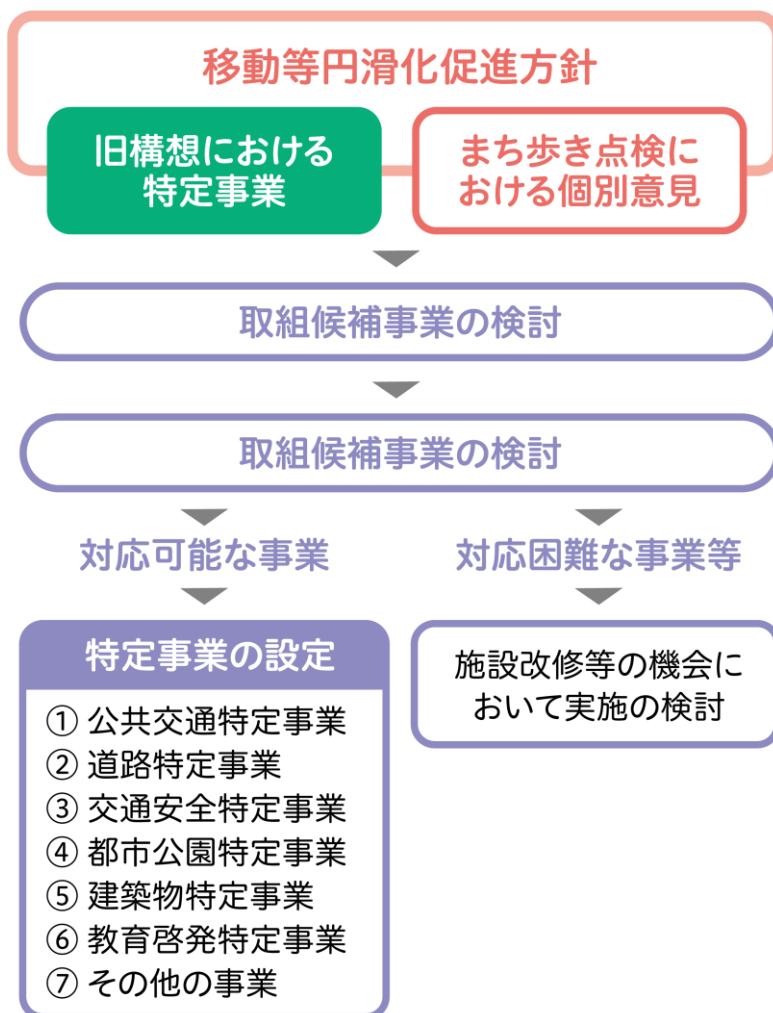
(1) 特定事業とは

特定事業とは、バリアフリー法で定める事業とその他の事業からなり、重点整備地区における生活関連施設や生活関連経路等を対象に、各事業者が取り組むバリアフリー化に関する事業です。

(2) 特定事業の設定までの流れ

移動等円滑化促進方針を踏まえつつ、旧構想における特定事業の実施状況や、重点整備地区を対象に実施したまち歩き点検*の結果を加味し、特定事業の取組候補を選定しました。これらの候補事業のうち、対応可能な事業を特定事業として設定しました。現状で、対応が困難な事業等については、施設改修等の機会において実施の検討をします。

図 4-3 特定事業の設定までの流れ



(3) 特定事業の内容

重点整備地区で実施する各分野別の特定事業の内容を以下のとおり示します。

①-1 公共交通特定事業(鉄道駅)

事業名	事業内容
施設の設備等の適切な維持管理、更新	<ul style="list-style-type: none">・視覚障害の方が駅内を円滑に移動できるよう視覚障害者誘導用ブロックの破損等を確認し、必要に応じて補修する。・ホームを安心して移動できるようにホームドアの開閉機構の点検やセンサーの動作確認を行う。・エレベーター・エスカレーターを利用して駅内を円滑に移動できるよう動作確認や清掃・故障時の対応を行う。・案内表示が見やすく、わかりやすい状態を維持するために汚れや破損・誤表示等を確認し、清掃、修繕を行う。・券売機が利用しやすい状態となるよう画面の視認性の確認や、音声案内の動作確認を行う。・トイレの清掃・衛生管理・設備の動作確認を行う。・その他、施設の設備等の適切な維持管理、更新を行う。
駅員を呼ぶ改札口のインターフォンの改良	<ul style="list-style-type: none">・聴覚障害の方や言語によるコミュニケーションが難しい利用者が駅員と視覚的に意思疎通できるようにするためにインターフォンにカメラ・モニター機能を追加するなどの改良を行う。
音声案内設備の整備	<ul style="list-style-type: none">・駅員を呼ぶインターフォン等の駅内設備の位置を案内するために音声案内設備を整備する。
橋上駅舎の整備 (エレベーター、エスカレーター、バリアフリートイレ等の新設)	<ul style="list-style-type: none">・中野駅西側南北通路・橋上駅舎等事業による、橋上駅舎及び橋上駅舎整備に伴う、バリアフリー設備(エレベーター、エスカレーター、バリアフリートイレ等)を新設する。
ホームドアの整備	<ul style="list-style-type: none">・ホームからの転落防止のためのホームドアを整備する。
東口駅舎のバリアフリー*化の検討	<ul style="list-style-type: none">・JR東中野駅の東口駅舎のバリアフリー化について、鉄道事業者を始めとした関係者と実現に向けた方策について検討する。
連続立体交差事業に伴う駅舎改良	<ul style="list-style-type: none">・西武新宿線連続立体交差事業(地下化工事)に伴う、駅舎の改良を行う。
連続立体交差事業に合わせたホームドアの整備	<ul style="list-style-type: none">・西武新宿線連続立体交差事業(地下化工事)に伴う、ホームドアの整備を行う。
識別または認知しやすい表示の整備	<ul style="list-style-type: none">・出入口やトイレ、エレベーターなどを案内するわかりやすい表示を整備する。

(次ページに続く)

事業名	事業内容
視覚障害者誘導用ブロックの設置	・駅務室に繋がる経路など駅舎内の視覚障害者誘導用ブロックを整備する。
ボラードの視認性改善	・駅敷地内にある、ボラードに着色等を施し、視認性を向上する。

【コラム】カメラ・モニター付きインターフォン

カメラ・モニター付きインターフォンは、利用者がオペレーターを呼び出し、必要な案内のほか、精算やきっぷの購入のサポートを行うとともに、移動のサポートをする係員等を呼び出すことができます。また、カメラによる乗車券類の確認機能、ICカード処理機能、筆談や資料案内ができる双方向の画像表示機能等の搭載も可能であり、画面の耳マーク等を押下することにより聴覚に障害があることの意思表示が可能です。



出典：駅の無人化に伴う安全・円滑な
駅利用に関するガイドライン
モニター・カメラ付インターフォン（阪急電鉄）

①-2 公共交通特定事業(路線バス)

事業名	事業内容
バス車内設備や乗降設備の定期的な点検	・車いす使用者が安全に乗降できるように乗降用スロープの滑り止めの状態や破損を確認する。 ・車いす使用者やベビーカー使用者が安心して乗車していられるように固定具のベルトの劣化・不具合を確認する。 ・誰もが安全に乗降し、乗車していられるよう手すりの設置状況や車内音声設備、行先表示機が適切に動作するよう確認する。 ・その他、バス車内設備や乗降設備の定期的な点検を行う。
ノンステップバスの導入推進	・車両更新や新規導入の際は、乗降口に段差のないノンステップバスの導入を進める。
バスの情報提供設備の改良	・視認性の向上のために行先表示機の表示画面の大型化や LED 化等を行う。

② 道路特定事業

事業名	事業内容
道路の適切な維持管理	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚障害者の方が安心して移動できるよう視覚障害者誘導用ブロックの破損等を確認し、必要に応じて補修する。 ・路面や街渠ブロック等のひび割れや欠損を補修する。 ・区画線やカラー舗装の劣化状況を確認し、補修する。 ・その他、道路の適切な維持管理を行う。
歩道の有効幅員の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・安心して通行できる歩行者空間を確保するため、歩道の有効幅員（原則 2.0m 以上、沿道の利用状況や道路の交通量等により整備困難な場合は、1.5m 以上）を確保する。
視覚障害者誘導用ブロックの設置	<ul style="list-style-type: none"> ・歩道の切り開き部での視覚障害者誘導用ブロックの設置やバス停駅、生活関連施設の出入口に繋がる経路等に視覚障害者誘導用ブロックを連続設置する。
歩道の段差・勾配の改善	<ul style="list-style-type: none"> ・歩道のセミフラット化工事や切り開き部の部分的な段差、勾配の改良等を実施する。
路側帯*のカラー舗装	<ul style="list-style-type: none"> ・生活関連経路の路側帯をカラー化し、安全な歩行者空間を確保する。
中野駅西側南北通路の整備	
中野駅桃園広場の整備	
新北口駅前広場の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・中野駅周辺の都市計画道路事業、市街地再開発事業、土地区画整理事業等に併せた交通広場などの都市基盤整備を実施する。
南口駅前広場の拡張整備	
交通広場の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・新井薬師前駅及び沼袋駅に交通広場の整備を実施する。
駅周辺の歩行経路のバリアフリー化の検討	<ul style="list-style-type: none"> ・JR 東中野駅東口周辺の地形上の段差解消や駅を挟んだ南北のバリアフリー経路の確保に向けた検討を行う。

【コラム】板橋型 BF ブロック

板橋区が福祉団体、コンクリートブロック製造会社と協議を重ね製品化した、車いす使用者、視覚障害者、ベビーカー利用者などに配慮したユニバーサルデザインの街渠ブロックです。

縁端高さ0cmとしており、車いす、ベビーカー等のスマーズな通行が可能であり、すべり止めと杖や足裏による認識効果が大きく、視覚障害者(白杖使用者)が通過する際に白杖が必ず特殊ゴムピースにあたり、歩道と車道の境界を認識しやすいという特徴があります。



出典：板橋区ホームページ
道路などに関する計画・事業

③ 交通安全特定事業

事業名	事業内容
信号機のバリアフリー化 (音響式信号機の改良)	・目の不自由な方が安全に横断できるように、歩行者用信号が青のタイミングで横断歩道の両端から音響(「ピヨピヨ」「カッコー」など)を鳴動させ、誘導を行う音響式信号機へ改良する。
横断歩道を利用する視覚障害者の安全性向上(必要に応じてエスコートゾーンを整備)	・道路を横断する視覚障害者の安全性及び利便性を向上させるために横断歩道上に設置され、視覚障害者が横断時に横断方向の手がかりとする突起体の列(エスコートゾーン)を整備する。
道路標識及び道路標示の適切な補修(必要に応じて実施)	・道路標識及び道路標示の適正な維持管理に努める。
違法駐車の防止のための事業実施	・横断歩道及びバス停留所付近の違法駐車の指導取締りを実施する。 ・歩道及び視覚障害者誘導用ブロック上の自動二輪車等の違法駐車の指導取締りを実施する。 ・違法駐車行為の防止のための広報活動及び啓発活動を実施する。

④ 都市公園特定事業

事業名	事業内容
出入口やスロープ等の園路の適切な維持管理	<ul style="list-style-type: none"> ・出入口の通路やスロープのガタツキや凹凸等の損傷、劣化を確認し必要に応じて補修を行う。 ・園内の視覚障害者誘導用ブロックの破損等を確認し、必要に応じて補修する。 ・その他、園内通路の適切な維持管理を行う。
トイレや案内板等の園内設備の点検、補修	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレを誰もが利用できるように清掃・衛生管理・設備の動作確認を行う。 ・案内表示が見やすく、わかりやすい状態を維持するために汚れや破損・誤表示等を確認し、清掃、修繕を行う。 ・その他、園内設備の点検、補修を適宜行う。
誰もが利用しやすい公園への再整備	<ul style="list-style-type: none"> ・誰もが利用しやすいように配慮した施設(遊具、トイレ、ベンチ、水飲み等)を整備する。 ・主な出入口及び園路は、平坦で滑りにくい舗装とすることや基準に合った通路幅、勾配、段差に改善をする。
主要な出入口の段差の改善及び有効幅の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・車いす使用者やベビーカー使用者が円滑に通行できるように主要な出入口の段差及び有効幅について、基準を満たすよう改善する。
バリアフリートイレの整備	<ul style="list-style-type: none"> ・車いす使用者や高齢者、介助が必要な方に配慮した広さの確保や手すりの設置、ベビーベッドの設置など、誰もが安心して利用できるよう配慮したバリアフリートイレを整備する。

⑤ 建築物特定事業

事業名	事業内容
施設内の設備等の適切な維持管理	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚障害の方が円滑に歩行できるよう視覚障害者誘導用ブロックの破損等を確認し、必要に応じて補修する。 ・エレベーター・エスカレーターを利用して駅内を円滑に移動できるように動作確認や清掃・故障時の対応を行う。 ・案内表示が見やすく、わかりやすい状態を維持するために汚れや破損・誤表示等を確認し、清掃、修繕を行う。 ・トイレを誰もが利用できるように清掃・衛生管理・動作確認等を行う。 ・その他、施設内の設備等の適切な維持管理を行う。
施設内の移動に支障となる通路上の障害物の撤去	<ul style="list-style-type: none"> ・施設内の円滑な移動環境を確保するため、施設内の移動動線上にある障害物を撤去し、通行空間を維持する。

(次ページに続く)

事業名	事業内容
窓口や受付での筆談具*などのコミュニケーションツール*の準備	・窓口や受付において、聴覚障害者や言語によるコミュニケーションが困難な方々との円滑な意思疎通を図るため、筆談具やコミュニケーションボードなどの支援ツールを常備し、誰もが安心して利用できる窓口や受付の体制を整える。
利便性向上に向けたトイレの改修	・トイレの洋式化やオストメイト*設備の追加など、様々な利用者に配慮したトイレ環境を整備する。
トイレを始めとした利用しやすい施設への改修	・利便性向上に向けたトイレの改修を始め、誰もが安心して利用できる快適な施設へ改修する。
識別または認知しやすい表示の整備	・出入口やトイレ、エレベーター、駐車場、駐輪場などの設備や経路を案内するわかりやすい表示を整備する。
視認性の向上のための階段の段鼻の改修	・階段の段鼻に視認性の良いすべり止めシール等を設置する。
主要な出入口を自動ドアへ改良	・引き戸等となっている施設の主要な出入口を自動ドアに改良する。

⑥ 教育啓発特定事業

事業名	事業内容
ヘルプカード*とヘルプマーク*の配布	・障害福祉課や各すこやか福祉センター窓口等でヘルプカード及びヘルプマークを区民に配布する。
啓発用リーフレット等の配布	・小中学校及び行政窓口等で障害の理解啓発に向けた啓発用リーフレット等を配布する。
障害理解と合理的配慮等に関する研修の実施	・多様な障害の特性や合理的配慮についての理解促進を目的とした区民や民間事業者向けの研修を実施する。さらに、中野区職員の意識の醸成を図るため、職員向け研修も実施する。
障害の理解促進・ふれあい交流事業の実施	・障害のある人とない人との交流を目的とした交流事業を実施する。
手話言語理解促進事業の実施	・令和2年4月に施行した「中野区手話言語条例*」及び「中野区障害者の多様な意思疎通の促進に関する条例」に基づき、手話が言語であることに対する理解を促進するための事業を実施する。
接遇研修の実施や「サービス介助士」の資格の取得促進	・鉄道事業者による利用者が安心して公共交通を利用できるよう職員の接遇力と介助技術の向上を図る研修の実施や資格取得を推進する。

(次ページに続く)

事業名	事業内容
利用者のマナー向上や高齢者、障害者等への配慮に関する啓発ポスターの掲示	・鉄道駅構内に、ポスター等を掲出し、高齢者、障害者等が施設を円滑に利用するために必要となる適正な配慮についての啓発活動を行う。
案内サインの掲示や車内放送、ホームページでの周知による利用者へのマナー啓発や広報活動	・高齢者の方や障害のある利用者等への優先利用に関する案内サインを掲示する。 ・バス車内放送にて優先席や車いすスペースが適切に利用できるよう優先利用の周知を行う。 ・ウェブサイトにて利用者へのマナーの周知を行う。
車いす・ベビーカー利用者等への接遇研修教育の実施	・車いすやベビーカーを利用される方をはじめ、様々な利用者に対して適切な対応ができるよう、接遇に関する研修や教育を実施する。



出典：中野区ヘルプカードリーフレット（おもて面）

【コラム】なかの手話言語まつり

中野区では、手話が『言語』であることへの理解とその普及を目的に令和2年(2020年)4月に『中野区手話言語条例』を施行しました。本条例に基づく取組として令和7年(2025年)3月に中野区聴覚障害者福祉協会主催の「手話言語まつり」を区が共催し、小学生親子を対象に、手話の理解促進と啓発を図りました。



⑦ その他の事業

事業名	事業内容
通行の支障となる道路上の不法占用物の撤去	・違反屋外広告物や商店の商品のはみだし等、不法占用に対して、商店街や地域、警察署等の関係機関と連携し、指導・取締を推進する。
放置自転車の撤去や自転車マナー啓発活動の推進	・自転車利用のルールの周知やマナー向上の啓発をするとともに、各駅周辺を中心に、放置自転車の指導・警告、撤去を実施する。
区有施設のバリアフリー化情報の提供	・中野区のバリアフリーマップによる区有施設等のバリアフリー設備等の情報提供を行う。また、情報の定期更新を実施するとともに、施設からの情報提供により随時更新する。
ホームページやアプリ等による駅や車両のバリアフリー化の情報提供、車両の運行情報の提供	・駅のトイレ、エレベーター、エスカレーター、車両内の車いすスペース等、施設のバリアフリー化に関する情報や鉄道やバスの到着時間などリアルタイム運行情報をホームページやアプリで提供する。
支援や介助を必要とする方へ適切な配慮をした接遇の実施	・聴覚障害者の方や言語によるコミュニケーションが難しい方への筆談具の対応など、施設の利用者が支援や介助を必要とする際に、適切な配慮をした接遇を実施する。

（4）特定事業の実施時期

特定事業の実施時期について、以下のとおりです。

- 前 期 : 令和12年度までの事業完了を目標に実施する事業
後 期 : 令和17年度までの事業完了を目標に実施する事業
継続実施 : 継続的な取組
事業実施の検討 : 現段階では実施時期が未確定であるが、事業実施の検討を行い、整備環境が整い次第、実施する事業

4-3 地区ごとの特定事業

（1）新中野地区



① 公共交通特定事業

整備対象	事業内容	事業主体	実施予定時期	
			前期	後期
新中野駅	・施設の設備等の適切な維持管理、更新	東京地下鉄(株)	継続実施	
	・駅員を呼ぶ改札口のインターフォンの改良		○	
	・音声案内設備の整備		○	
路線バス	・バス車内設備や乗降設備の定期的な点検	関東バス(株) 京王電鉄バス(株) 東京都交通局	継続実施	
	・ノンステップバスの導入推進		継続実施	
	・バスの情報提供設備の改良		継続実施	

② 道路特定事業

整備対象	事業内容	事業主体	実施予定時期	
			前期	後期
生活関連 経路*全体	・道路の適切な維持管理	中野区	継続実施	
中野通り	・歩道の有効幅員の確保	東京都	○	
	・歩道の段差・勾配の改善		○	
鍋屋横丁通り	・視覚障害者誘導用ブロックの設置	中野区		○
区道23-160	・路側帯のカラー舗装		○	
区道14-100			○	
主幹4号	・歩道の段差・勾配の改善		実施の検討	
	・視覚障害者誘導用ブロックの設置		実施の検討	

③ 交通安全特定事業

整備対象	事業内容	事業主体	実施予定時期	
			前期	後期
生活関連 経路*全体	・信号機のバリアフリー化(音響式信号機の改良)	公安 委員会	適宜実施*	
	・横断歩道を利用する視覚障害者の安全性向上 (必要に応じてエスコートゾーンを整備)		適宜実施*	
	・道路標識及び道路標示の適切な補修 (必要に応じて実施)		適宜実施*	
	・違法駐車の防止のための事業実施		適宜実施*	

*交通安全特定事業を実施する路線や実施時期等については、中野区バリアフリー基本構想の改定後に東京都公安委員会が作成する交通安全特定事業計画で整理を行う予定です。

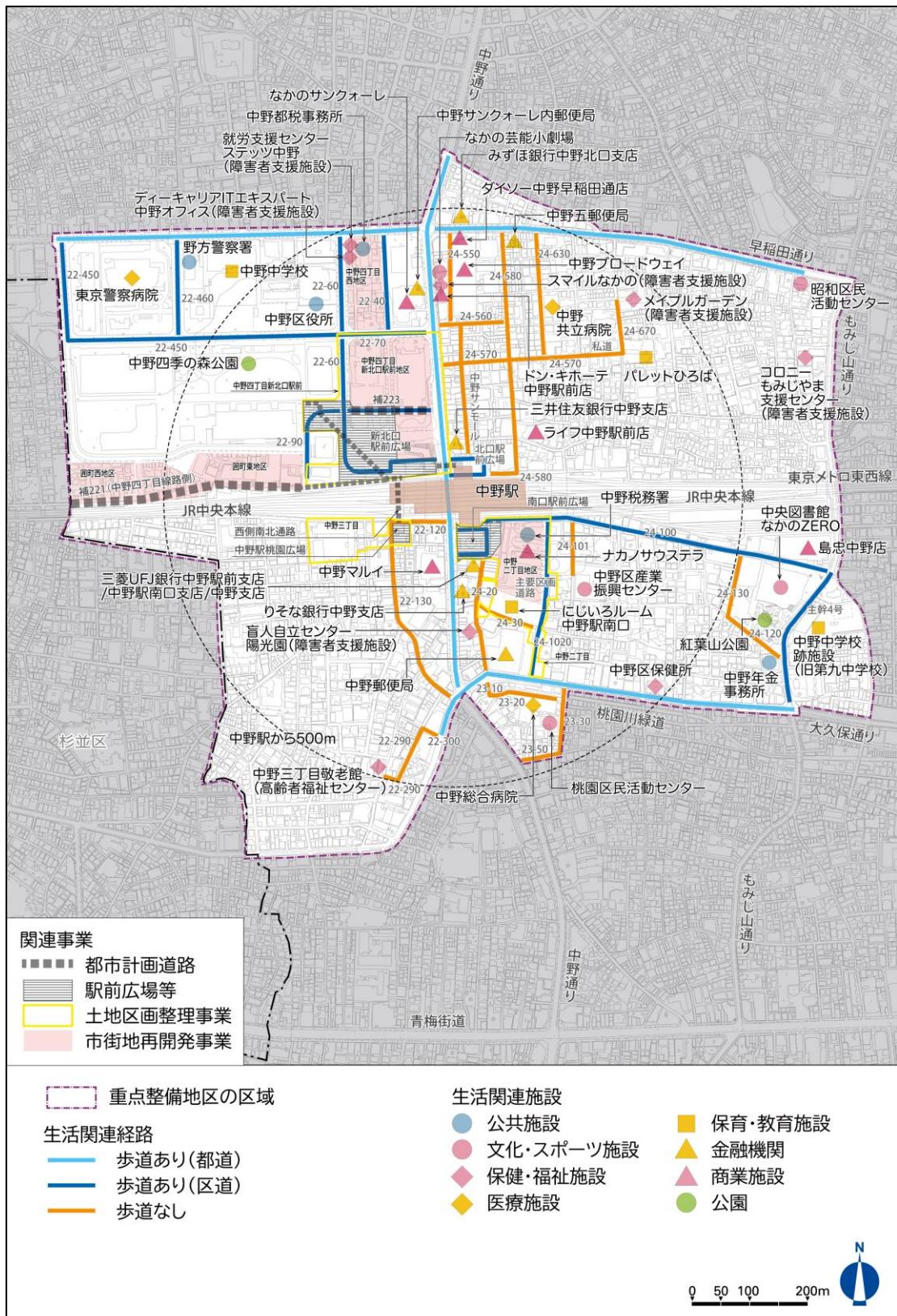
④ 都市公園特定事業

整備対象	事業内容	事業主体	実施予定時期	
			前期	後期
生活関連施設* (公園)全体	・出入口やスロープ等の園路の適切な維持管理	中野区	継続実施	
	・トイレや案内板等の園内設備の点検、補修		継続実施	
中央公園	・誰もが利用しやすい公園へ再整備		○	

⑤ 建築物特定事業

整備対象	事業内容	事業主体	実施予定時期	
			前期	後期
生活関連施設 (建築物)全体	・施設内の設備等の適切な維持管理	各施設 管理者	継続実施	
	・施設内の移動に支障となる通路上の障害物の撤去		継続実施	
	・窓口や受付での筆談具などのコミュニケーションツールの準備		継続実施	
中部すこやか 福祉センター	・利便性向上に向けたトイレ改修	中野区	○	

(2) 中野地区



① 公共交通特定事業

整備対象	事業内容	事業主体	実施予定期	
			前期	後期
中野駅	・施設の設備等の適切な維持管理、更新	東日本旅客鉄道(株) 東京地下鉄(株)	継続実施	
	・橋上駅舎の整備 (エレベーター、エスカレーター、バリアフリートイレ等の新設)		○	
	・ホームドアの整備		○	
路線バス	・バス車内設備や乗降設備の定期的な点検	関東バス(株) 国際興業(株) 京王電鉄バス(株)	継続実施	
	・ノンステップバスの導入推進		継続実施	
	・バスの情報提供設備の改良		継続実施	

② 道路特定事業

整備対象	事業内容	事業主体	実施予定期	
			前期	後期
生活関連 経路*全体	・道路の適切な維持管理	中野区	継続実施	
早稲田通り	・視覚障害者誘導用ブロックの設置	東京都		○
大久保通り	・歩道の有効幅員の確保		○	
中野駅西側 南北通路	・中野駅西側南北通路の整備	中野区	○	
中野駅桃園 広場	・中野駅桃園広場の整備		○	
南口駅前広場	・南口駅前広場の拡張整備		○	
新北口 駅前広場	・新北口駅前広場の整備		○	

(次ページに続く)

整備対象	事業内容	事業主体	実施時期	
			前期	後期
区道 22-70	・歩道の段差・勾配の改善	中野区		○
	・視覚障害者誘導用ブロックの設置			○
区道 22-90	・歩道の段差・勾配の改善			○
	・視覚障害者誘導用ブロックの設置			○
区道 22-120	・路側帯のカラー舗装		○	
区道 22-130	・路側帯のカラー舗装		○	
主幹4号	・歩道の段差・勾配の改善		実施の検討	
	・視覚障害者誘導用ブロックの設置		実施の検討	
区道 22-40	・歩道の段差・勾配の改善		実施の検討	
	・視覚障害者誘導用ブロックの設置		実施の検討	
区道 22-60	・歩道の段差・勾配の改善		実施の検討	
	・視覚障害者誘導用ブロックの設置		実施の検討	

③ 交通安全特定事業

整備対象	事業内容	事業主体	実施予定期	
			前期	後期
生活関連 経路*全体	・信号機のバリアフリー化(音響式信号機の改良)	公安委員会	適宜実施*	
	・横断歩道を利用する視覚障害者の安全性向上 (必要に応じてエスコートゾーンを整備)		適宜実施*	
	・道路標識及び道路標示の適切な補修 (必要に応じて実施)		適宜実施*	
	・違法駐車の防止のための事業実施		適宜実施*	

※交通安全特定事業を実施する路線や実施時期等については、中野区バリアフリー基本構想の改定後に東京都公安委員会が作成する交通安全特定事業計画で整理を行う予定です。

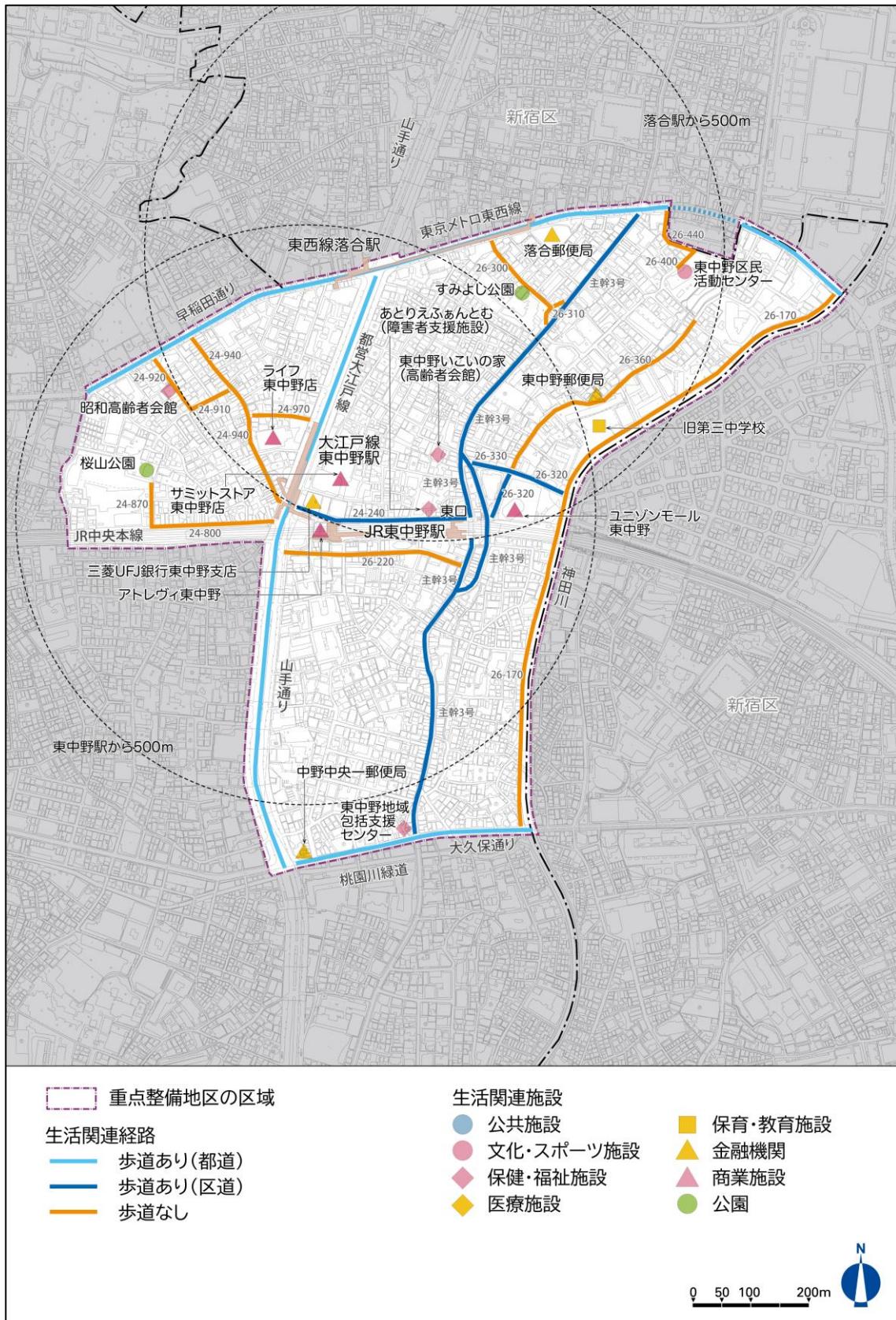
④ 都市公園特定事業

整備対象	事業内容	事業主体	実施予定期	
			前期	後期
生活関連施設 (公園)全体	・出入口やスロープ等の園路の適切な維持管理	中野区	継続実施	
	・トイレや案内板等の園内設備の点検、補修		継続実施	

⑤ 建築物特定事業

整備対象	事業内容	事業主体	実施予定期	
			前期	後期
生活関連施設 (建築物)全体	・施設内の設備等の適切な維持管理	各施設 管理者	継続実施	
	・通行の支障となる通路上の障害物の撤去		継続実施	
	・窓口や受付での筆談具などのコミュニケーションツールの準備		継続実施	
中野区産業 振興センター	・トイレを始めとした利用しやすい施設への改修	中野区	○	
中央図書館	・識別または認知しやすい表示の整備	中野区	○	

（3）東中野・落合地区



① 公共交通特定事業

整備対象	事業内容	事業主体	実施予定期	
			前期	後期
東中野駅 落合駅	・施設の設備等の適切な維持管理、更新	東日本旅客鉄道(株) 東京地下鉄(株) 東京都交通局	継続実施	
東中野駅 (JR)	・東口駅舎のバリアフリー化の検討	東日本旅客鉄道(株) 中野区	継続実施	
路線バス	・バス車内設備や乗降設備の定期的な点検	関東バス(株) 西武バス(株) 京王電鉄バス(株) 東京都交通局	継続実施	
	・ノンステップバスの導入推進		継続実施	
	・バスの情報提供設備の改良		継続実施	

② 道路特定事業

整備対象	事業内容	事業主体	実施予定期	
			前期	後期
生活関連 経路*全体	・道路の適切な維持管理	中野区	継続実施	
東中野駅周辺	・駅周辺の歩行経路のバリアフリー化の検討		継続実施	
東中野駅西口 駅前広場	・視覚障害者誘導用ブロックの設置		○	
主幹 3 号	・歩道の段差・勾配の改善			○
	・視覚障害者誘導用ブロックの設置			○
区道 26-320	・視覚障害者誘導用ブロックの設置		○	
区道 26-220	・路側帯のカラー舗装		○	
区道 26-400	・路側帯のカラー舗装		○	

③ 交通安全特定事業

整備対象	事業内容	事業主体	実施予定時期	
			前期	後期
生活関連 経路*全体	・信号機のバリアフリー化(音響式信号機の改良)	公安 委員会	適宜実施*	
	・横断歩道を利用する視覚障害者の安全性向上(必要に応じてエスコートゾーンを整備)		適宜実施*	
	・道路標識及び道路標示の適切な補修 (必要に応じて実施)		適宜実施*	
	・違法駐車の防止のための事業実施		適宜実施*	

*交通安全特定事業を実施する路線や実施時期等については、中野区バリアフリー基本構想の改定後に東京都公安委員会が作成する交通安全特定事業計画で整理を行う予定です。

④ 都市公園特定事業

整備対象	事業内容	事業主体	実施予定時期	
			前期	後期
生活関連施設 (公園)全体	・出入口やスロープ等の園路の適切な維持管理	中野区	継続実施	
	・トイレや案内板等の園内設備の点検、補修		継続実施	

⑤ 建築物特定事業

整備対象	事業内容	事業主体	実施予定時期	
			前期	後期
生活関連施設 (建築物)全体	・施設内の設備等の適切な維持管理	各施設 管理者	継続実施	
	・施設内の移動に支障となる通路上の障害物の撤去		継続実施	
	・窓口や受付での筆談具などのコミュニケーションツールの準備		継続実施	

(4) 新井薬師前地区



① 公共交通特定事業

整備対象	事業内容	事業主体	実施予定期	
			前期	後期
新井薬師前駅	・施設の設備等の適切な維持管理、更新	西武鉄道(株)	継続実施	
	・連続立体交差事業に伴う駅舎改良		○	
	・連続立体交差事業に合わせたホームドアの整備		○	
路線バス	・バス車内設備や乗降設備の定期的な点検	関東バス(株) 国際興業(株) 京王電鉄バス(株)	継続実施	
	・ノンステップバスの導入推進		継続実施	
	・バスの情報提供設備の改良		継続実施	

② 道路特定事業

整備対象	事業内容	事業主体	実施予定期		
			前期	後期	
生活関連 経路*全体	・道路の適切な維持管理	中野区	継続実施		
区画街路 第3号線	・交通広場の整備		○		
	・歩道の段差・勾配の改善		○		
	・視覚障害者誘導用ブロックの設置		○		
主幹5号	・歩道の段差・勾配の改善			○	
	・視覚障害者誘導用ブロックの設置			○	
区道32- 160	・路側帯のカラー舗装		○		
区道32- 180			○		
区道32- 700			○		
区道32- 1160			○		

③ 交通安全特定事業

整備対象	事業内容	事業主体	実施予定時期	
			前期	後期
生活関連 経路*全体	・信号機のバリアフリー化(音響式信号機の改良)	公安 委員会	適宜実施*	
	・横断歩道を利用する視覚障害者の安全性向上(必要に応じてエスコートゾーンを整備)		適宜実施*	
	・道路標識及び道路標示の適切な補修 (必要に応じて実施)		適宜実施*	
	・違法駐車の防止のための事業実施		適宜実施*	

※交通安全特定事業を実施する路線や実施時期等については、中野区バリアフリー基本構想の改定後に東京都公安委員会が作成する交通安全特定事業計画で整理を行う予定です。

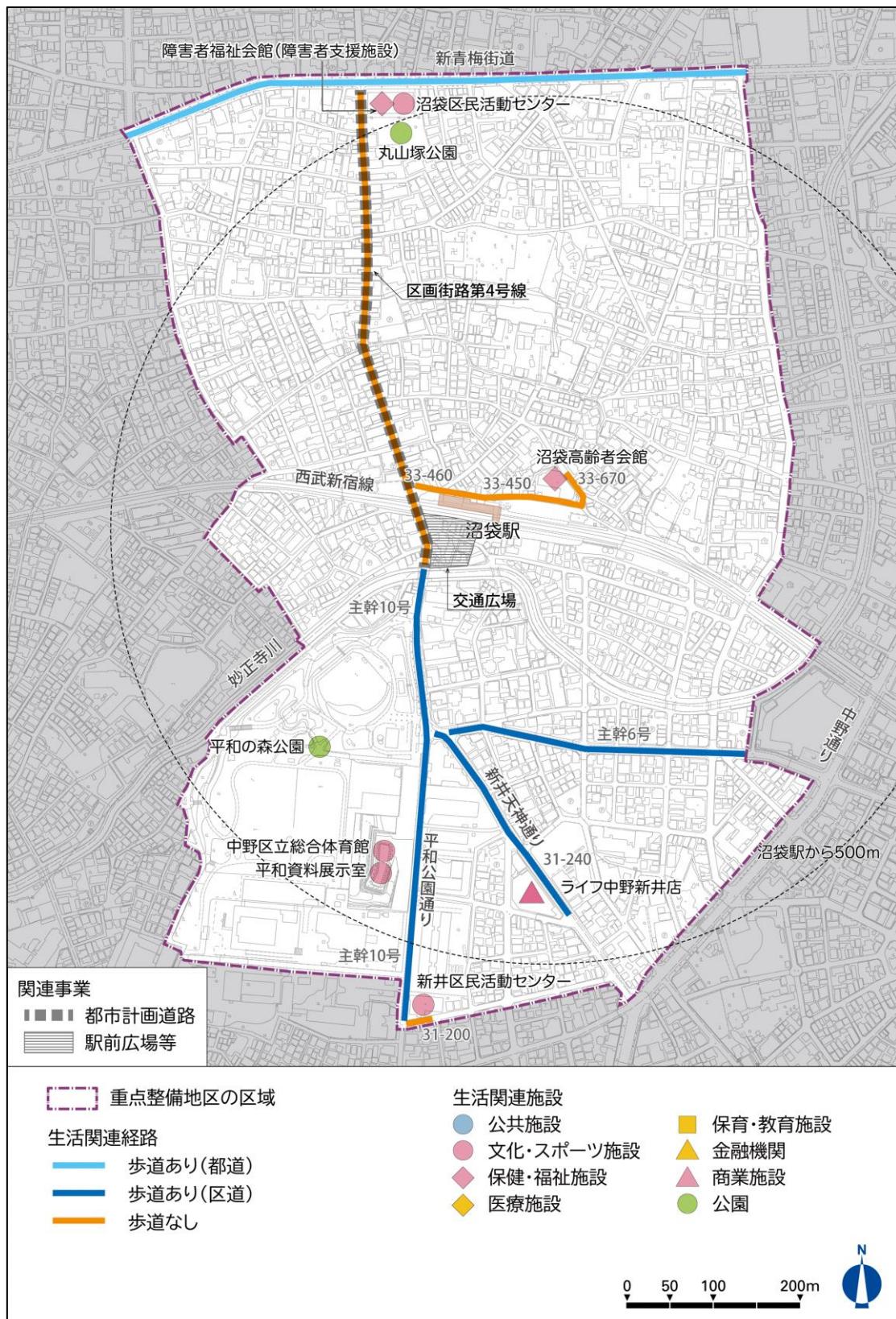
④ 都市公園特定事業

整備対象	事業内容	事業主体	実施予定時期	
			前期	後期
生活関連施設 (公園)全体	・出入口やスロープ等の園路の適切な維持管理	中野区	継続実施	
	・トイレや案内板等の園内設備の点検、補修		継続実施	

⑤ 建築物特定事業

整備対象	事業内容	事業主体	実施予定時期	
			前期	後期
生活関連施設 (建築物)全体	・施設内の設備等の適切な維持管理	各施設 管理者	継続実施	
	・施設内の移動に支障となる通路上の障害物の撤去		継続実施	
	・窓口や受付での筆談具などのコミュニケーションツール*の準備		継続実施	
上高田児童館	・主要な出入口を自動ドアへ改良	中野区	○	

(5) 沼袋地区



① 公共交通特定事業

整備対象	事業内容	事業主体	実施予定時期	
			前期	後期
沼袋駅	・施設の設備等の適切な維持管理、更新	西武鉄道(株)	継続実施	
	・識別または認知しやすい表示の整備		○	
	・連続立体交差事業に伴う駅舎改良		○	
	・連続立体交差事業に合わせたホームドアの整備		○	
路線バス	・バス車内設備や乗降設備の定期的な点検	関東バス(株) 京王電鉄バス(株)	継続実施	
	・ノンステップバスの導入推進		継続実施	
	・バスの情報提供設備の改良		継続実施	

② 道路特定事業

整備対象	事業内容	事業主体	実施予定時期	
			前期	後期
生活関連 経路*全体	・道路の適切な維持管理	中野区	継続実施	
区画街路 第4号線	・交通広場の整備		○	
	・歩道の有効幅員の確保		○	
	・歩道の段差・勾配の改善		○	
	・視覚障害者誘導用ブロックの設置		○	
主幹6号	・歩道の段差・勾配の改善			○
	・視覚障害者誘導用ブロックの設置			○
主幹10号	・視覚障害者誘導用ブロックの設置		○	

③ 交通安全特定事業

整備対象	事業内容	事業主体	実施予定期間	
			前期	後期
生活関連 経路*全体	・信号機のバリアフリー化(音響式信号機の改良)	公安 委員会	適宜実施*	
	・横断歩道を利用する視覚障害者の安全性向上 (必要に応じてエスコートゾーンを整備)		適宜実施*	
	・道路標識及び道路標示の適切な補修 (必要に応じて実施)		適宜実施*	
	・違法駐車の防止のための事業実施		適宜実施*	

※交通安全特定事業を実施する路線や実施時期等については、中野区バリアフリー基本構想の改定後に東京都公安委員会が作成する交通安全特定事業計画で整理を行う予定です。

④ 都市公園特定事業

整備対象	事業内容	事業主体	実施予定期間	
			前期	後期
生活関連施設 (公園)全体	・出入口やスロープ等の園路の適切な維持管理	中野区	継続実施	
	・トイレや案内板等の園内設備の点検、補修		継続実施	
丸山塚公園	・誰もが利用しやすい公園へ再整備		○	

⑤ 建築物特定事業

整備対象	事業内容	事業主体	実施予定期間	
			前期	後期
生活関連施設 (建築物)全体	・施設内の設備等の適切な維持管理	各施設 管理者	継続実施	
	・施設内の移動に支障となる通路上の障害物の撤去		継続実施	
	・窓口や受付での筆談具などのコミュニケーションツール*の準備		継続実施	

(6) 野方地区



① 公共交通特定事業

整備対象	事業内容	事業主体	実施時期	
			前期	後期
野方駅	・施設の設備等の適切な維持管理、更新	西武鉄道(株)	継続実施	
路線バス	・バス車内設備や乗降設備の定期的な点検	関東バス(株) 国際興業(株) 東京都交通局	継続実施	
	・ノンステップバスの導入推進		継続実施	
	・バスの情報提供設備の改良		継続実施	

② 道路特定事業

整備対象	事業内容	事業主体	実施予定期間	
			前期	後期
生活関連 経路*全体	・道路の適切な維持管理	中野区	継続実施	
環七通り	・視覚障害者誘導用ブロックの設置	東京都	○	
区道 33- 1200	・路側帯のカラー舗装	中野区	○	
区道 42- 240			○	
区道 42- 1310			○	
主幹 11 号			○	

③ 交通安全特定事業

整備対象	事業内容	事業主体	実施予定期	
			前期	後期
生活関連 経路*全体	・信号機のバリアフリー化(音響式信号機の改良)	公安 委員会	適宜実施*	
	・横断歩道を利用する視覚障害者の安全性向上 (必要に応じてエスコートゾーンを整備)		適宜実施*	
	・道路標識及び道路標示の適切な補修 (必要に応じて実施)		適宜実施*	
	・違法駐車の防止のための事業実施		適宜実施*	

*交通安全特定事業を実施する路線や実施時期等については、中野区バリアフリー基本構想の改定後に東京都公安委員会が作成する交通安全特定事業計画で整理を行う予定です。

④ 都市公園特定事業

整備対象	事業内容	事業主体	実施予定期	
			前期	後期
生活関連施設 (公園)全体	・出入口やスロープ等の園路の適切な維持管理	中野区	継続実施	
	・トイレや案内板等の園内設備の点検、補修		継続実施	
丸山公園	・誰もが利用しやすい公園へ再整備		○	

⑤ 建築物特定事業

整備対象	事業内容	事業主体	実施予定期	
			前期	後期
生活関連施設 (建築物)全体	・施設内の設備等の適切な維持管理	各施設 管理者	継続実施	
	・施設内の移動に支障となる通路上の障害物の撤去		継続実施	
	・窓口や受付での筆談具などのコミュニケーションツール*の準備		継続実施	
野方区民 ホール	・視認性の向上のための階段の段鼻の改修	中野区	○	
	・識別または認知しやすい表示の整備		○	
野方図書館	・識別または認知しやすい表示の整備		○	

（7）鷺ノ宮地区



① 公共交通特定事業

整備対象	事業内容	事業主体	実施予定期	
			前期	後期
鷺ノ宮駅	・施設の設備等の適切な維持管理、更新	西武鉄道 (株)	継続実施	
	・視覚障害者誘導用ブロックの設置		○	
	・ボラードの視認性改善		○	
路線バス	・バス車内設備や乗降設備の定期的な点検	関東バス (株)	継続実施	
	・ノンステップバスの導入推進		継続実施	
	・バスの情報提供設備の改良		継続実施	

② 道路特定事業

整備対象	事業内容	事業主体	実施予定期	
			前期	後期
生活関連 経路*全体	・道路の適切な維持管理	中野区	継続実施	
区道 42- 210	・路側帯のカラー舗装		○	
区道 42- 1100	・路側帯のカラー舗装		○	

③ 交通安全特定事業

整備対象	事業内容	事業主体	実施予定期	
			前期	後期
生活関連 経路*全体	・信号機のバリアフリー化(音響式信号機の改良)	公安 委員会	適宜実施*	
	・横断歩道を利用する視覚障害者の安全性向上 (必要に応じてエスコートゾーンを整備)		適宜実施*	
	・道路標識及び道路標示の適切な補修 (必要に応じて実施)		適宜実施*	
	・違法駐車の防止のための事業実施		適宜実施*	

*交通安全特定事業を実施する路線や実施時期等については、中野区バリアフリー基本構想の改定後に東京都公安委員会が作成する交通安全特定事業計画で整理を行う予定です。

④ 都市公園特定事業

整備対象	事業内容	事業主体	実施予定期	
			前期	後期
生活関連施設 (公園)全体	・出入口やスロープ等の園路の適切な維持管理	中野区	継続実施	
	・トイレや案内板等の園内設備の点検、補修		継続実施	
若宮オリーブ 公園	・主要な出入口の段差改善及び有効幅の確保		○	
	・バリアフリートイレの整備		○	

⑤ 建築物特定事業

整備対象	事業内容	事業主体	実施予定期	
			前期	後期
生活関連施設 (建築物)全体	・施設内の設備等の適切な維持管理	各施設 管理者	継続実施	
	・施設内の移動に支障となる通路上の障害物の撤去		継続実施	
	・窓口や受付での筆談具などのコミュニケーションツール*の準備		継続実施	

(8) 教育啓発特定事業・その他の事業

① 教育啓発特定事業

整備対象	事業内容	事業主体	実施予定期	
			前期	後期
区内全域	・ヘルプカードとヘルプマークの配布	中野区	継続実施	
	・啓発用リーフレット等の配布		継続実施	
	・障害理解と合理的配慮等に関する研修の実施		継続実施	
	・障害の理解促進・ふれあい交流事業の実施		継続実施	
	・手話言語理解促進事業の実施		継続実施	
	・接遇研修の実施や「サービス介助士」資格の取得促進	鉄道事業者	継続実施	
	・利用者のマナー向上や高齢者、障害者等への配慮に関する啓発ポスターの掲示		継続実施	
	・案内サインの掲示や車内放送、ホームページでの周知による利用者へのマナー啓発や広報活動	バス事業者	継続実施	
	・車いす・ベビーカー利用者等への接遇研修教育の実施		継続実施	

② その他の事業

整備対象	事業内容	事業主体	実施予定期	
			前期	後期
区内全域	・通行の支障となる道路上の不法占用物の撤去	中野区	継続実施	
	・違法に駐輪されている放置自転車の撤去や自転車マナー啓発活動の推進		継続実施	
	・区有施設のバリアフリー化情報の提供		継続実施	
	・ホームページやアプリ等による駅や車両のバリアフリー化の情報提供、車両の運行情報の提供	鉄道事業者 バス事業者	継続実施	
	・支援や介助を必要とする方へ適切な配慮をした接遇の実施	各施設管理者	継続実施	

4-4 利用者視点のバリアフリー化の検討

特定事業への設定ができなかった意見等

区民アンケート調査や団体ヒアリング、まち歩き点検等でいただいた意見のうち、施設のスペースなどの現場状況により対応が難しいことや詳細な検討が必要なことで、特定事業への設定が困難であったものについては、今後の施設の改修等の機会における検討素材として活用することとします。以下に、検討素材となる主な意見を示します。法令や条例に基づく基準や区民意見等を参考に利用者視点の施設のバリアフリー化を検討していきます。

なお、区民アンケート調査、団体ヒアリング、まち歩き点検でいただいた意見の詳細は、資料3～5にて掲載しています。

種別	主な意見
改札・券売機	券売機や無人改札において、駅員の呼び出しボタンを押しても、聴覚障害者は音声での応対ができないため、カメラ・モニター付きインターフォンなど音声以外で対応していただけるような設備の設置を検討して欲しい。
	各駅において無人の改札口は、何かあった時に助けてくれる人がいないので不安を感じる。駅員を配置して欲しい。
駅舎・プラットホーム	工事により足元が不安定な駅舎やホームの通路の通行は落下や転倒の危険を感じるので、平坦性や安全な通路幅を確保して欲しい。
エレベーター エスカレーター	ホームの昇降に駅員の介助が必要な駅は、バリアフリー化されていないと感じる。エレベーター、エスカレーターが未設置の駅は設置して欲しい。
	エレベーターは、大型の車いすが乗れる大きさで整備し、音声案内設備や点字表示の整備して欲しい。
	乗り口と降り口が違うエレベーターは音声で出入口を知らせて欲しい。また、エレベーターの到着時も音声で知らせて欲しい。
時刻表	時刻表に運行情報を取得できる二次元コードを設置して欲しい。また、点字やひらがな表記など様々な人に配慮した表示を検討して欲しい。

種別	主な意見
道路	交通量が多く歩道のない道路は、通行時に危険を感じるため、道路を拡幅し歩道を整備して欲しい。また、歩道がある道路についても、歩道幅員が狭く、車いすでの通行が困難な箇所があるため、歩道の拡幅を進めて欲しい。
	路側帯に電柱があり車道通行を強いられる状況があるため無電柱化を進めて欲しい。
	歩道橋が歩道のスペースを大きく占有している。また、歩道橋が死角となり、自転車の飛び出しによる衝突の危険があるため、歩道橋の廃止を検討して欲しい。
	歩道に休憩できるベンチを設置して欲しい。
施設の出入口、通路	出入口や通路は、段差を解消することや車いすが通行しやすい幅へ改善して欲しい。
	出入口の車止めは、車いす使用者や視覚障害者に配慮し、認知しやすい高さや、通行のしやすい設置間隔とするなどの工夫をして整備して欲しい。
	建築物の出入口は自動ドアへ改修することや、施設の存在を知らせる音声案内設備を整備して欲しい。
	階段は、適切な高さで手すりを設置し、併せて点字表示を設置して欲しい。また、踏面を広くすることや、段鼻の視認性良くして段差をわかりやすくするなど、安全性を高める工夫をして欲しい。
視覚障害者誘導用ブロック	スチール製の鉢タイプの視覚障害者誘導用ブロックは、弱視の人は見えにくいので全面黄色の誘導用ブロックにして欲しい。
	出入口から受付までの経路や触知案内図までの経路には、視覚障害者誘導用ブロックを設置して欲しい。また、出入口が複数あるなどの場合は、1 経路だけではなく複数経路で視覚障害者誘導用ブロックを整備して欲しい。

種別	主な意見
トイレ	車いす使用者対応に加え、オストメイト設備、介助用ベッド、ベビーベッド、ベビーチェアを設置し、幅広い利用者に対応できるトイレ環境を整えて欲しい。
	トイレのボタンの配置は JIS 規格に適合するよう配置して欲しい。
	バリアフリートイレは、車いす使用者も開閉がしやすい自動開閉の扉にして欲しい。
	バリアフリートイレまでの経路は視覚障害者誘導用ブロックが設置されているが、一般用トイレにも音声案内設備を整備するなど視覚障害者が利用できるよう配慮があると良い。
案内表示	案内表示は壁面サインだとわかりづらいので、突き出し式の表示として欲しい。
	知的障害者は、ピクトグラムの色や形でトイレなどの施設の設備等を判別しているので、案内表示は、一般的に普及しているデザインを採用して欲しい。
	弱視の人でも認知できるように案内は、大きく前面に表示して欲しい。また、施設には触知案内図を設置して欲しい。
	緊急時のボタンなどは、「押してください」と表示されていると知的障害者は誤って押してしまうケースがあるので「緊急以外押さないで」などの表記変更を検討して欲しい。
駐輪場、駐車場	勾配がついている自転車置き場は、停めにくいので平坦に整備して欲しい。
	車いす使用者対応の駐車スペースを確保し、その表示を明示して、利用者が安心して駐車できるようにして欲しい。
受付等	受付はローテーブルなど、車いすが近づけるスペースを確保して欲しい。
	タッチパネルは、視覚障害者には操作ができないので、代替設備の整備を検討して欲しい。
	施設内には緊急時対応してくれる総合受付を設けることや警備員を配置して欲しい。

第5章 中野区バリアフリー基本構想の推進に向けた 今後の取組

5-1 届出制度による計画の調整

（1）届出制度*の概要

駅や駅前広場等の交通結節点では、施設管理者が異なる施設間であっても、移動の連続性を確保することが重要です。

このため、バリアフリー法では、施設間の移動の連続性を担保することを目的として、移動等円滑化促進地区内の旅客施設と道路の境目等において改修等を行う場合、当該行為に着手する30日前までに区市町村に届け出ることを義務づけています。中野区は、届出のあった行為がバリアフリー化を図る上で支障があると認めるときは、行為の変更等の必要な措置を要請することがあります。

図 5-1 届出制度の流れ

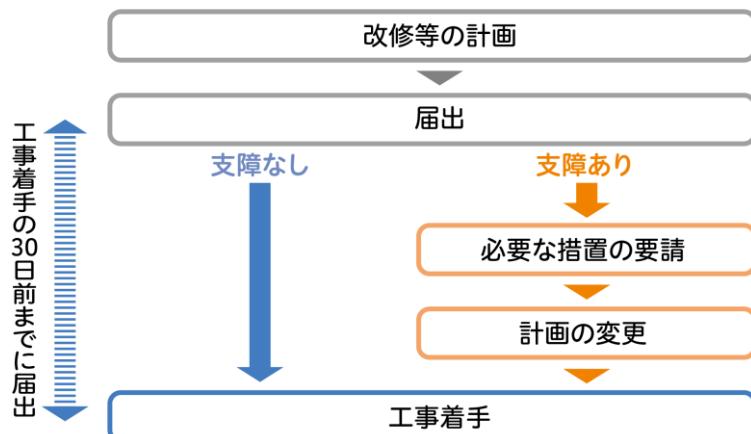
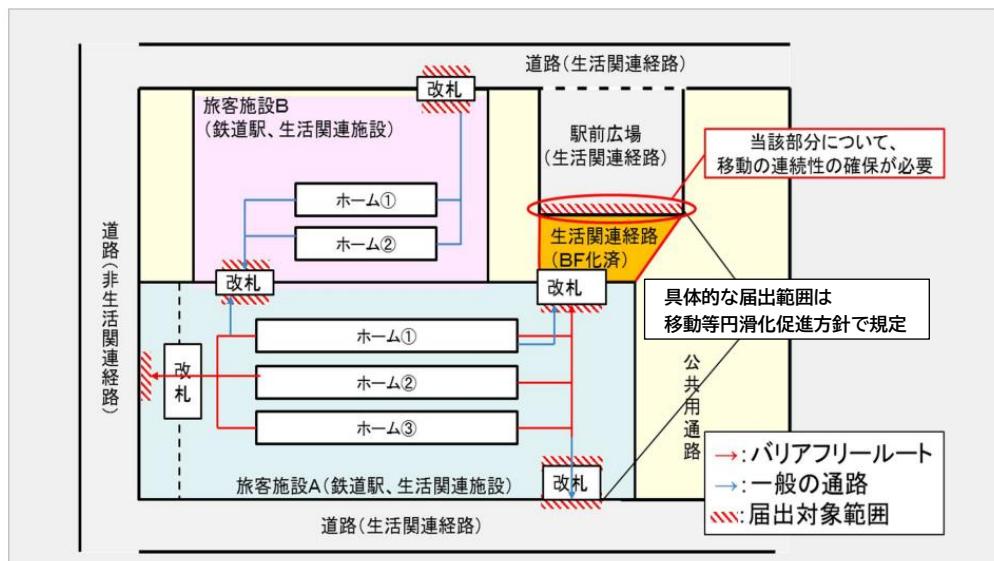


図 5-2 届出対象のイメージ



出典：移動等円滑化促進方針・バリアフリー基本構想作成に関するガイドライン（一部加工）
(令和3年3月 国土交通省 総合政策局 安心生活政策課)

(2) 届出制度の対象の指定

バリアフリー法施行令にて定められている届出を要する対象範囲は、以下のとおりです。

- ・他の生活関連旅客施設との間の出入口
- ・生活関連経路を構成する道路法による道路または区市町村が指定する一般交通用施設との間の出入口
- ・バリアフリールートの出入口

上記を基に届出制度の対象となる主な旅客施設及び道路は、下表に示すとおりです。

表 5-1 主な旅客施設及び道路

地区名	対象旅客施設	道路	届出の範囲
方南町地区	—		
中野富士見町地区	中野富士見町駅	区道主幹2号 (本郷通り)	駅と道路との接続部分
中野新橋地区	中野新橋駅	区道主幹1号 (新橋通り)	駅と道路との接続部分
		区道14-260	駅と道路との接続部分
新中野地区	新中野駅	都道5号新宿青梅線 (青梅街道)	駅と道路との接続部分
中野坂上地区	中野坂上駅	都道5号新宿青梅線 (青梅街道)	駅と道路との接続部分
		都道317号環状6号線 (山手通り)	駅と道路との接続部分
中野地区	中野駅	〈都〉交通広場5 (中野駅北口広場)	駅と交通広場との接続部分
		〈都〉補233(付属広場)	駅と広場との接続部分
		〈都〉中区街5(交通広場)	駅と交通広場との接続部分
		〈都〉交通広場7 (中野駅桃園広場)	駅と広場との接続部分
東中野・落合地区	JR東中野駅	〈都〉駅付近広場 駅広場1 (東中野駅付近)	駅と駅付近広場との接続部分
		区道26-240(西口、東口)	駅と道路との接続部分
		区道26-190(西口)	駅と道路との接続部分
		区道主幹3号(東口)	駅と道路との接続部分
	都営東中野駅	都道317号環状6号線 (山手通り)	駅と道路との接続部分
		区道26-240	駅と道路との接続部分
	落合駅	都道317号環状6号線 (山手通り)	駅と道路との接続部分
		都道25号飯田橋石神井新座線 (早稲田通り)	駅と道路との接続部分

(次ページに続く)

地区名	対象旅客施設	道路	届出の範囲
新井薬師前地区	新井薬師前駅	区道主幹 5 号 <都>中区街 3(付属広場)	駅と交通広場との接続部分
沼袋地区	沼袋駅	区道主幹 10 号 <都>中区街 4(付属広場)	駅と交通広場との接続部分
新江古田地区	新江古田駅	都道 8 号千代田練馬田無線 (目白通り)	駅と道路との接続部分
野方地区	野方駅	区道 42-90	駅と道路との接続部分
		区道 42-100	駅と道路との接続部分
都立家政地区	都立家政駅	区道 42-580	駅と道路との接続部分
		区道 42-930	駅と道路との接続部分
鷺宮地区	鷺ノ宮駅	都道 427 号瀬田貫井線 (中杉通り)	駅と道路との接続部分
		区道 42-1000	駅と道路との接続部分
		都河川管理用通路(妙正寺川)	駅と通路との接続部分
富士見台地区	—		

5-2 特定事業の推進と進捗管理

(1) 特定事業の推進

特定事業を実施していくため、各事業者は本構想に従って特定事業計画を策定し、事業を実施します。

なお、特定事業計画の立案にあたっては、利用者にとって最も使いやすい整備を実現するため、高齢者や障害者等から具体的な整備内容や配慮すべき事項等についての意見を聞き、反映させるように努めます。

(2) 事業の進行管理

本構想の実効性を高め、効果的なバリアフリー化を推進していくためには、事業の適切な進行管理を行う必要があります。

このため、事業内容や事業実施スケジュール等の連絡・調整を行う仕組みを整備します。

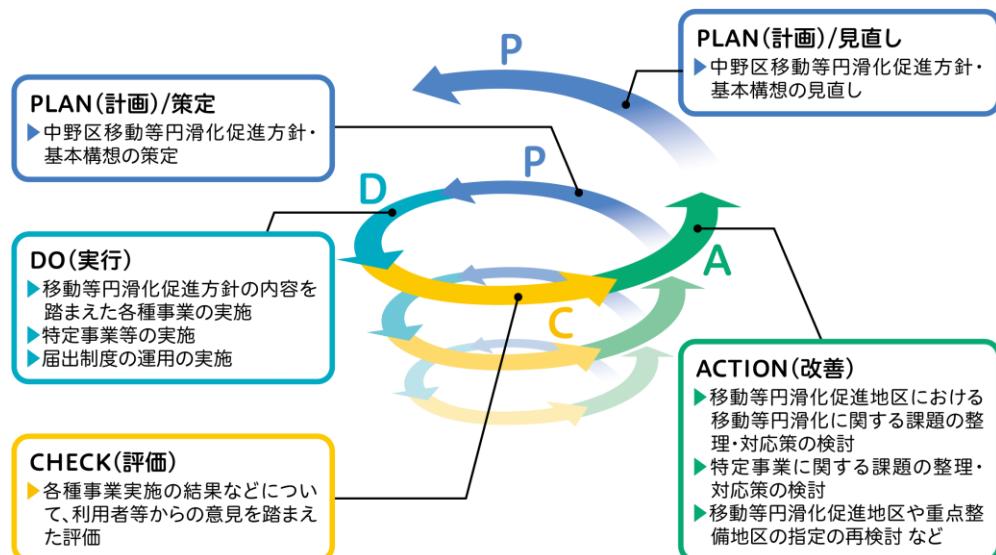
(3) 事業の進捗に関する情報提供の実施

事業の進捗状況や実施された事業等を広く区民へ伝えるため、区の広報やホームページ等を活用し、区民への積極的な情報提供を実施します。

5-3 中野区バリアフリー基本構想の評価・見直し

中野区バリアフリー基本構想の改定後は、本構想の内容を踏まえた各種事業の実施を推進します。また、公共交通事業者や障害者団体、中野区ユニバーサルデザイン評価・アドバイザー会議との連携を見通して、本構想の取組を調査、分析及び評価を行い、課題や改善すべき点を明らかにし必要に応じて本構想を見直していきます。

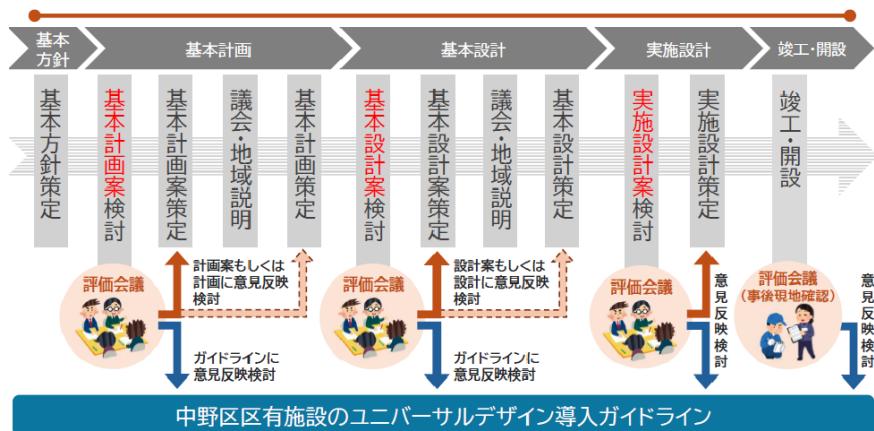
図 5-3 PDCA*サイクルによる移動等円滑化*の推進



中野区ユニバーサルデザイン評価・アドバイザー会議とは

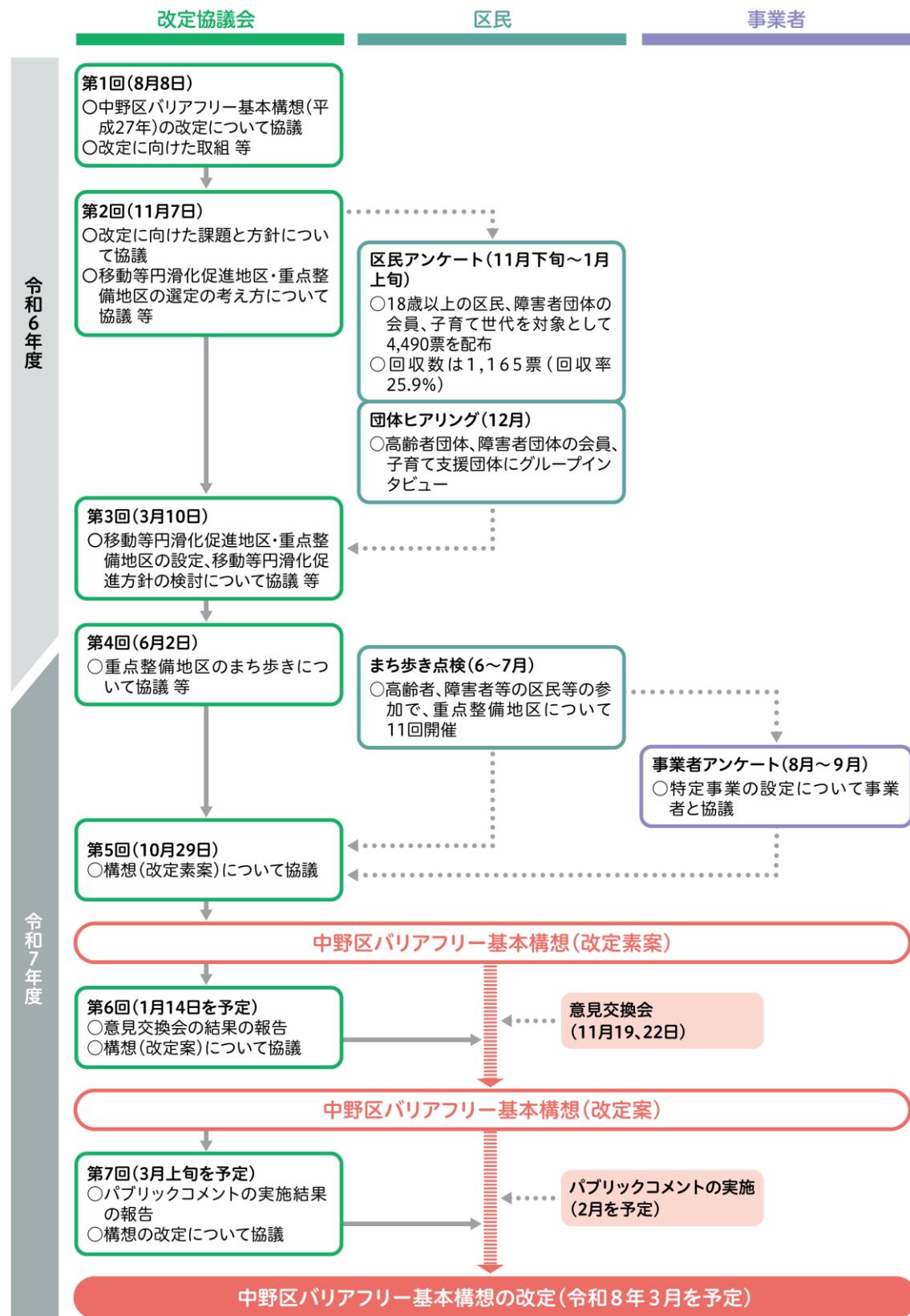
中野区では、区有施設の整備にあたり、ユニバーサルデザインの視点を反映するため、「中野区ユニバーサルデザイン評価・アドバイザー会議」を設置しています。この会議では、施設整備の各段階（基本計画、設計前、竣工後）において、有識者から評価や改善提案を受け、施設整備や中野区区有施設のユニバーサルデザイン導入ガイドラインへの反映を検討します。

評価・アドバイザー会議を活用した施設整備の流れ



資料編

資料1 検討経緯



資料2 中野区バリアフリー基本構想改定協議会委員名簿

団体等	所属・役職等	備考
学識経験者	日本大学理学部交通システム工学科 教授 江守 央	会長
	帝京平成大学 人文社会学部 人間文化学科 教授 森川 洋	副会長
	コ・ラボ 代表 西野 亜希子	副会長
高齢者 障害者 団体	中野区友愛クラブ連合会	
	中野区手をつなぐ親の会	
	中野区肢体不自由児者父母の会	
	NPO法人中野区視覚障害者福祉協会	
	中野区聴覚障害者福祉協会	
	中野区仲町就労支援事業所	
鉄道事業者	東日本旅客鉄道株式会社 首都圏本部 企画総務部 経営戦略ユニット チーフマネージャー	
	西武鉄道株式会社 鉄道本部 計画管理部 駅まち創造課長	
	東京都交通局 建設工務部 計画担当課長	
	東京地下鉄株式会社 鉄道本部 鉄道統括部 移動円滑化設備整備促進担当課長	
バス事業者	関東バス株式会社 運輸部 副部長	
	西武バス株式会社 事業部 営業課長	
	東京都交通局 自動車部 事業改善担当課長	
	京王電鉄バス株式会社 運輸営業部 乗合事業担当課長	
	国際興業株式会社 運輸事業部 運輸企画課 担当課長	
交通管理者	警視庁中野警察署 交通課長 警視	
	警視庁野方警察署 交通課長 警視	
行政機関	東京都 第三建設事務所 補修課長	
	東京都 都市整備局 都市基盤部 交通政策担当課長	
	国土交通省関東運輸局 交通政策部 共生社会推進課長	

(次ページに続く)

団体等	所属・役職等	備考
中野区	企画部ユニバーサルデザイン推進担当課長	
	健康福祉部福祉推進課長	
	健康福祉部障害福祉課長	
	都市基盤部長	
	都市基盤部道路建設課長	
	都市基盤部公園課長	
	都市基盤部交通政策課長	
	まちづくり推進部まちづくり計画課長	
	まちづくり推進部中野駅周辺まちづくり課長	
事務局	都市基盤部都市計画課長	

資料3 区民アンケート調査

(1) 実施概要

中野区のバリアフリーの現状に対する区民の評価や意向等を把握するとともに、重点整備地区の選定を行う上での指標を得るため、区内在住者等に対してアンケート調査を実施しました。

表 区民アンケート調査の概要

調査対象	<ul style="list-style-type: none">区内在住者（無作為抽出した18歳以上）障害者団体の会員子育て世代（児童館を利用している子どもの保護者）
配布・回収方法	<ul style="list-style-type: none">郵送または団体、児童館を通じて配布郵送回収またはWEB回答
調査期間	<ul style="list-style-type: none">令和6年11月下旬～令和7年1月上旬
配布・回収状況	<ul style="list-style-type: none">配布数：4,490票（区内在住者4,000票、障害者団体の会員110票、子育て世代380票）回収数：1,165票（区内在住者1,074票、障害者団体の会員37票、子育て世代54票）回収率：25.9%
主な調査項目	<ul style="list-style-type: none">性別、年齢、住所外出の際の移動手段、一人での外出の可能性、必要な補助具の種類ベビーカーに子どもを乗せた外出の有無最もよく利用する駅、その駅のバリアフリー化に関する満足度・評価最もよく利用する駅周辺の道路のバリアフリー化に関する満足度・評価よく利用する施設（公共施設、運動・文化施設、福祉施設、保育・教育施設、医療施設、商業施設）のバリアフリー化に関する評価路線バスのバリアフリー化に関する満足度・評価心のバリアフリーの認知度、外出の際に手助け・理解して欲しいこと、心のバリアフリーの推進のため必要なこと

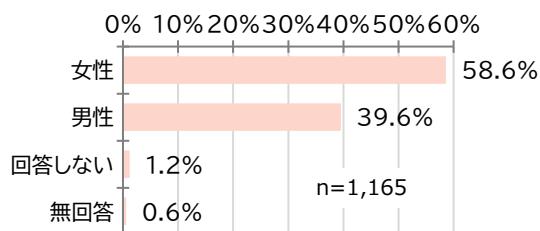
(2) 調査結果の概要

次ページ以降に調査結果の概要を示します。

① あなたご自身について

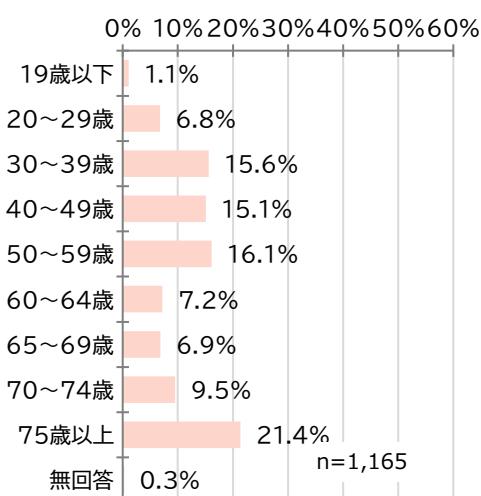
性別(1つのみ)

○女性が約59%、男性が約40%



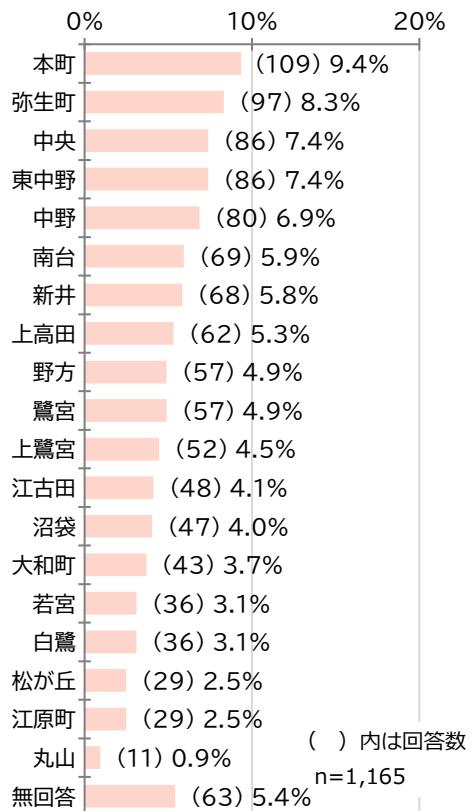
年齢(1つのみ)

○65歳以上は約38%



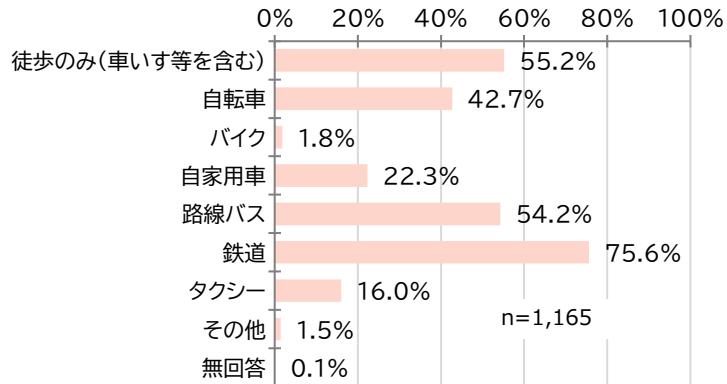
住所(1つのみ)

○町別の人口にほぼ比例



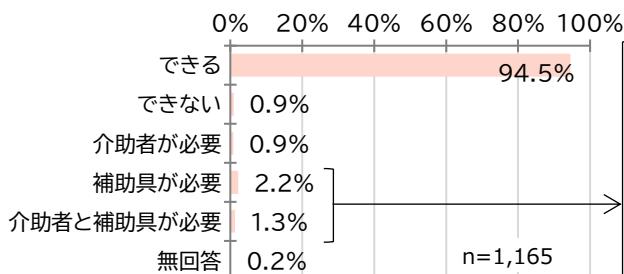
外出の際の移動手段(いくつでも)

○鉄道の 75.6% が最も多く、徒歩の 55.2%、路線バスの 54.2%、自転車の 42.7% が続く



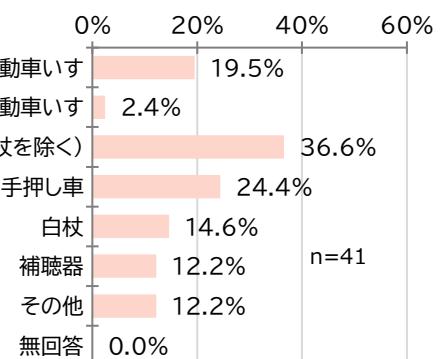
一人での外出の可能性(1つのみ)

○約95%が一人で外出可能



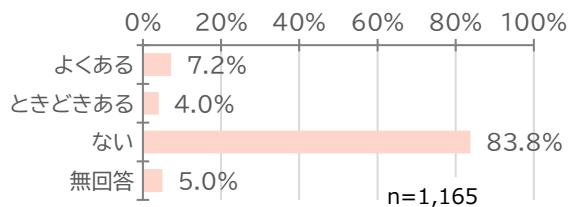
必要な補助具の種類(いくつでも)

○約61%が杖(白杖を除く)または歩行補助用手押し車を使用している方



ベビーカーに子どもを乗せた外出の有無(1つのみ)

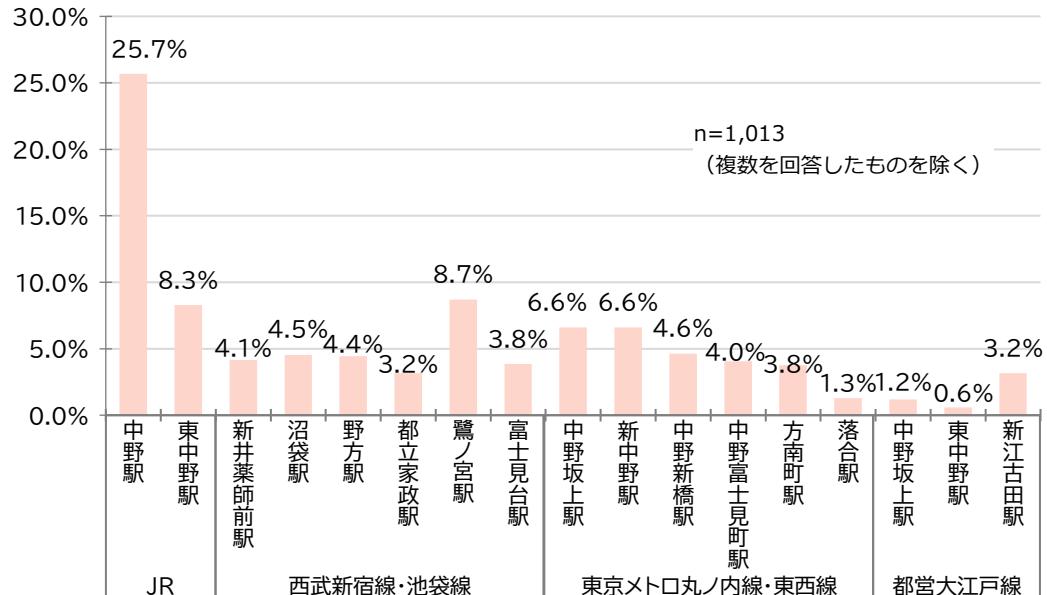
○11.2%が「ある」と回答



② 最もよく利用する駅について

最もよく利用する駅(1つのみ)

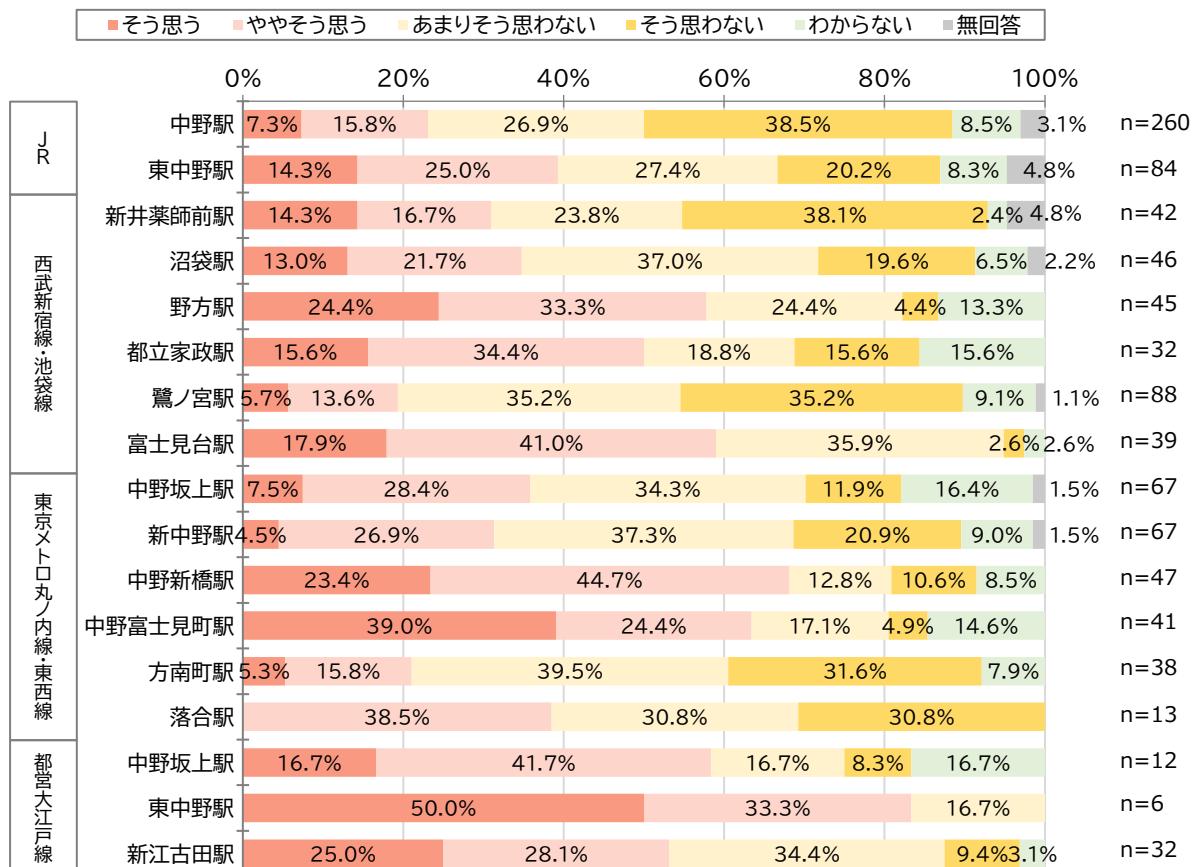
○中野駅の25.7%で最も多く、東中野駅(JR+都営)の8.9%、鷺ノ宮駅の8.7%が続く



最もよく利用する駅のバリアフリー化に関する満足度(1つのみ)

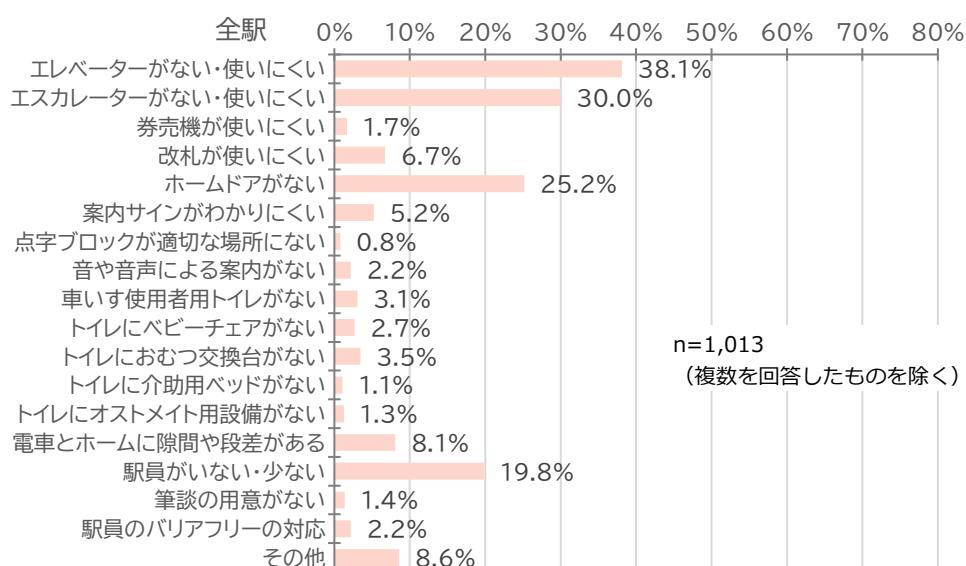
○「そう思う」と「ややそう思う」の合算でみると、都営大江戸線・東中野駅の83.3%が最も高く、中野新橋駅の68.1%、中野富士見町駅の63.4%が続く

○逆に「あまりそう思わない」と「そう思わない」の合算でみると、方南町駅の71.1%が最も高く、鷺ノ宮駅の70.4%、中野駅の65.4%が続く



最もよく利用する駅のバリアフリー化に関する評価(いくつでも)

○「エレベーターがない・使いにくい」の38.1%が最も高く、「エスカレーターがない・使いにくい」の30.0%、「ホームドアがない」の25.2%が続く

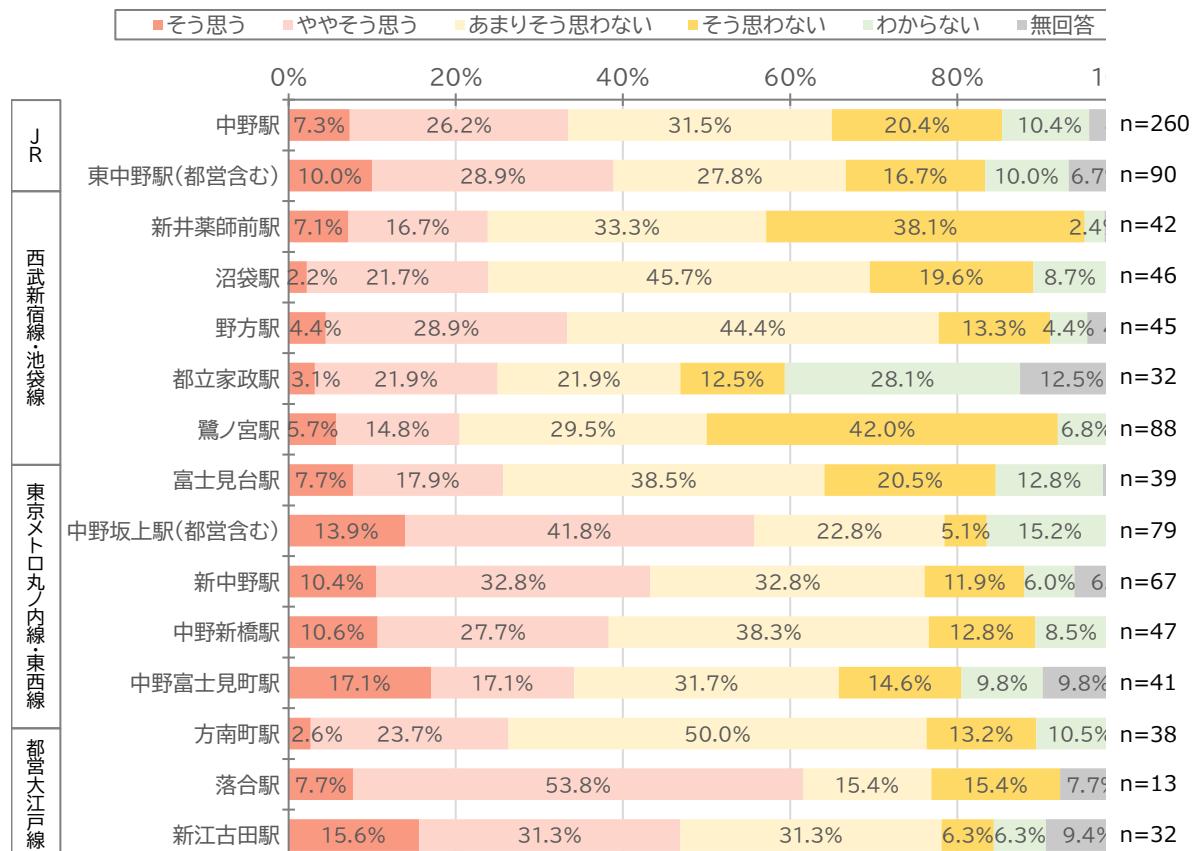


② 最もよく利用する駅周辺の道路について

最もよく利用する駅周辺の道路のバリアフリー化に関する満足度(1つのみ)

○「そう思う」と「ややそう思う」の合算でみると、落合駅の 61.5% が最も高く、中野坂上駅の 55.7%、新江古田駅の 46.9% が続く

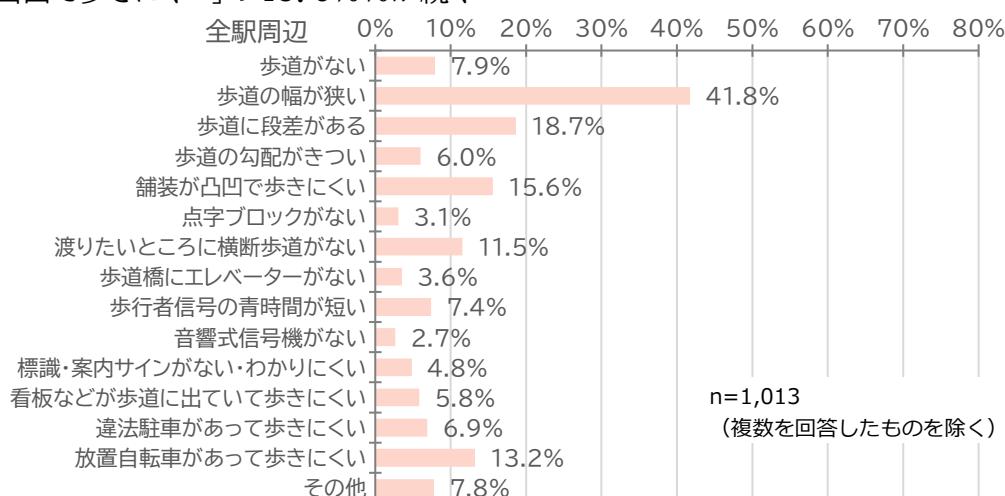
○逆に「あまりそう思わない」と「そう思わない」の合算でみると、鷺ノ宮駅の 71.5% が最も高く、新井薬師駅の 71.4%、沼袋駅の 65.3% が続く



最もよく利用する駅周辺の道路のバリアフリー化に関する評価(いくつでも)

○「歩道の幅が狭い」の 41.8% が最も高く、「歩道に段差がある」の 18.7%、「舗装が

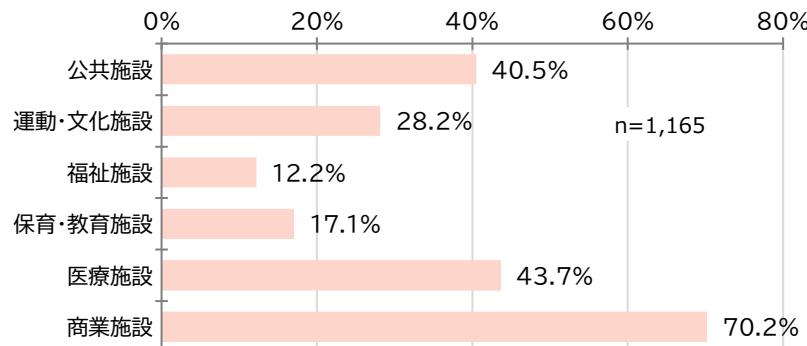
凸凹で歩きにくい」の 15.6% が続く



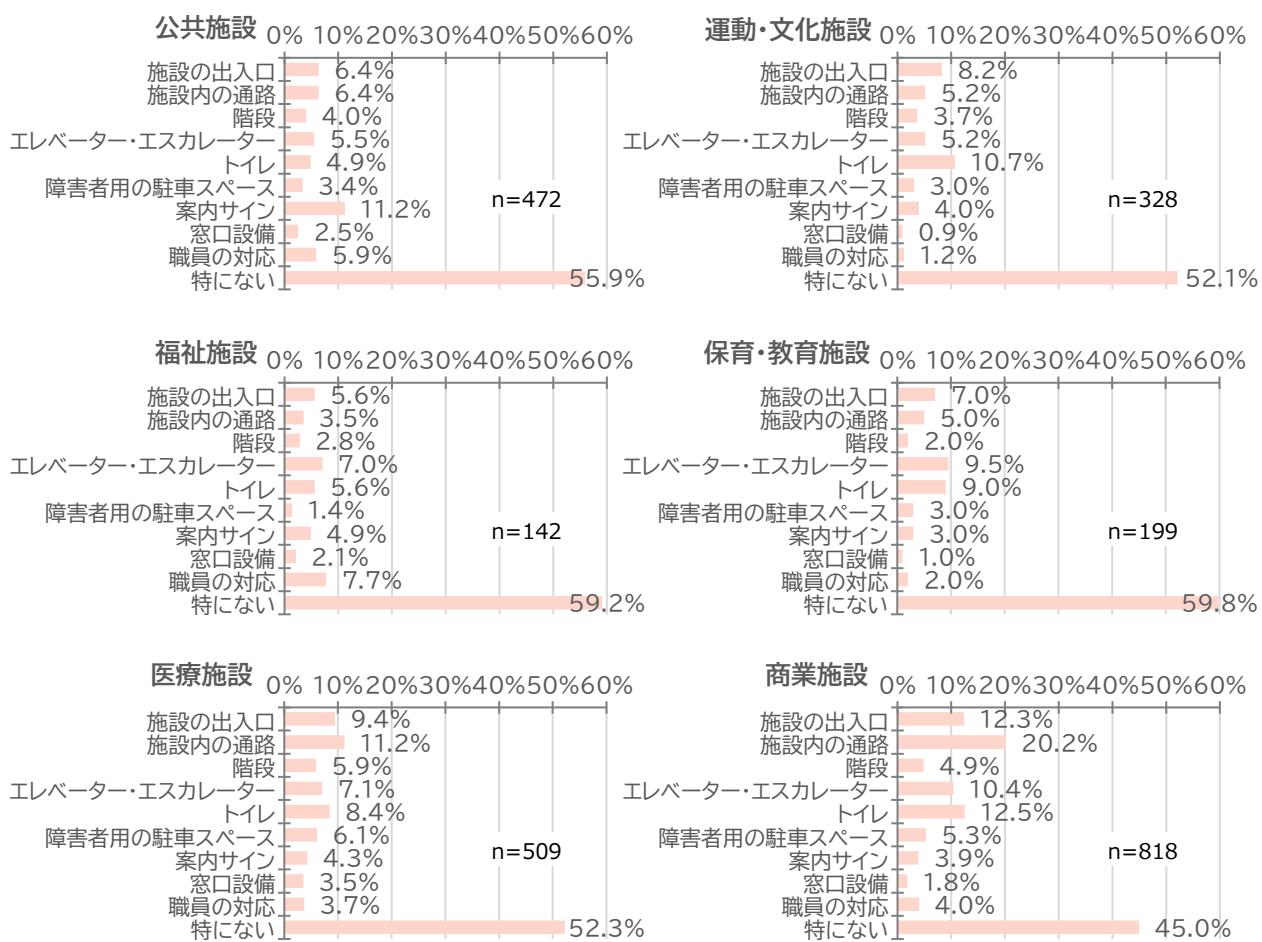
③ よく利用する施設について

最近1か月間でよく利用する施設(3つまで)

○商業施設の70.2%が最も多く、医療施設の43.7%、公共施設の40.5%が続く



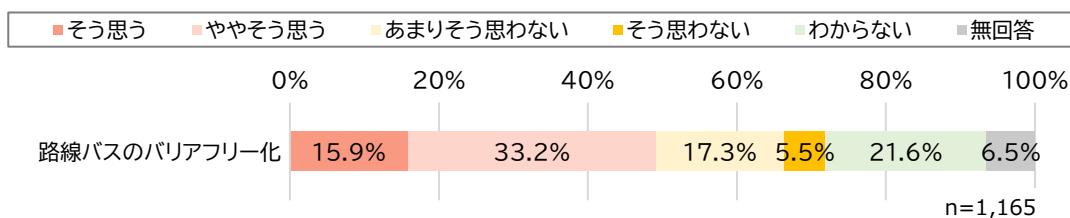
よく利用する施設別のバリアフリーに関する評価(いくつでも)



④ 路線バスのバリアフリー化について

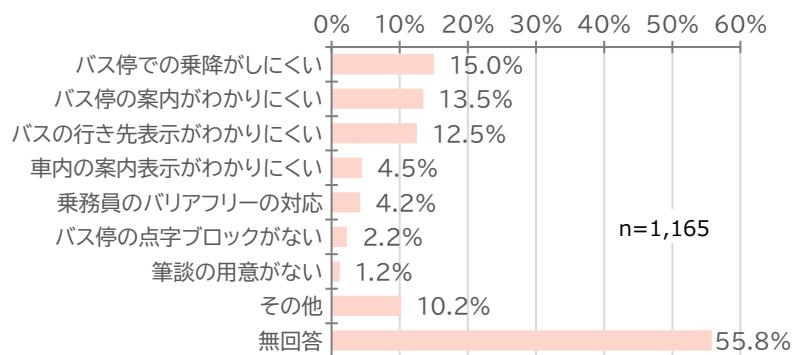
路線バスのバリアフリー化に関する満足度(1つのみ)

- 「そう思う」と「ややそう思う」の合算は 49.1%、「あまりそう思わない」と「そう思わない」の合算は 22.8%



路線バスのバリアフリー化に関する評価(いくつでも)

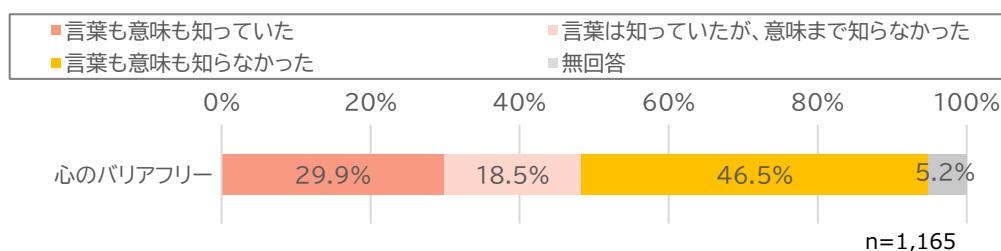
- 「バス停での乗降がしにくい」の 15.0% が最も多く、「バス停の案内がわかりにくい」の 13.5%、「バスの行き先表示がわかりにくい」の 12.5% が続く



⑤ 心のバリアフリーについて

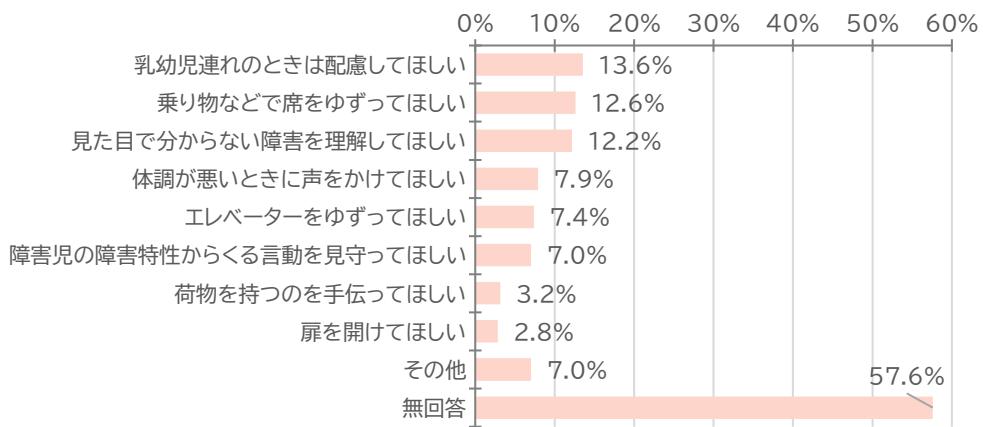
心のバリアフリーの認知度(1つのみ)

- 「言葉も意味も知らなかった」の 46.5% が最も多く、「言葉も意味も知っていた」の 29.9% が続く



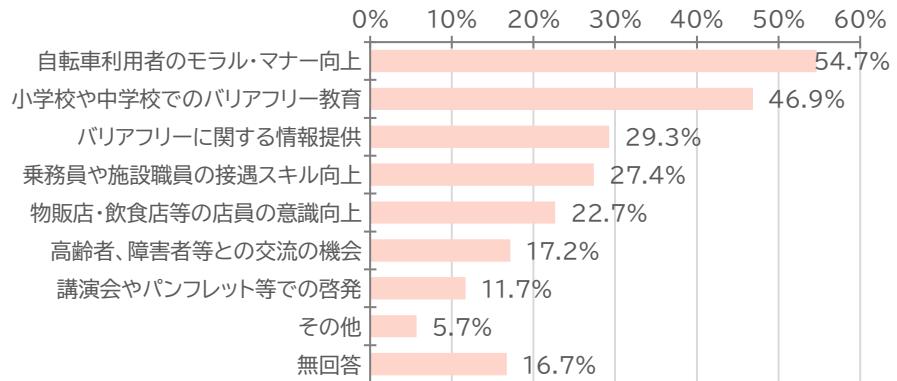
外出の際に手助け・理解して欲しいこと(いくつでも)

- 「乳幼児連れのときは配慮して欲しい」の 13.6%が最も多く、「乗り物などで席をゆずって欲しい」の 12.6%、「見た目でわからない障害を理解して欲しい」の 12.2%が続く



心のバリアフリーの推進のため必要なこと(いくつでも)

- 「自転車利用者のモラル・マナー向上」の 54.7%が最も多く、「小学校や中学校でのバリアフリー教育」の 46.9%、「バリアフリーに関する情報提供」の 29.3%が続く



(3) 主な意見・要望 (自由意見)

- 自由意見は207人から頂きました。以下、鉄道、路線バス、タクシー、道路、公園、建築物、心のバリアフリー、自転車等、そのほかに分類して示します。総件数は291件です。

【鉄道に関するここと (18 件)】

- ・中野駅をはじめ、エレベーター未設置駅は整備を望む
- ・ホームへの昇降に駅員の介助が駅はバリアフリー化されていないと感じる
- ・幅広の改札でも譲り合いがされず、ベビーカー利用者が困っている
- ・ホームドアやフラットな通路の整備を望む
- ・階段利用の促進や譲り合いにポイント付与などの仕組みの提案や、他者への配慮を促すステッカーやポスターの提案

【路線バスに関すること（8件）】

- ・若者の中には席を譲る人と譲らない人がいる。譲る心を育てて欲しい
- ・優先席を譲らない若者が目立つ。運転士の声かけが有効では
- ・混雑時に高齢者が乗車を控える場面も一部に見られる
- ・車いす乗降時の介助対応に対し「素晴らしい」「感動した」と高評価
- ・乗降の介助により運行遅延があっても見守る気持ちが大切との声がある
- ・障害特性への理解を深めるため、パンフレット等による啓発が重要
- ・配慮を促すステッカーを作成したらどうか
- ・今は元気でも将来支援が必要になる可能性があるという自覚を促すことが重要
- ・混雑時の乗車を避けるため、タクシー利用を選ぶ高齢者も

【道路に関すること（29件）】

- ・道幅の狭さや段差・傾斜・凸凹により、車いす・ベビーカー・高齢者の通行に支障がある
- ・地形上、坂が多く移動が困難な地域が存在する
- ・新築施設周辺では道路整備が進んでいるが、古いままで補修されない道路もある
- ・景観に配慮したタイル舗装等の道路でもフラット舗装等の安全性の向上も望む
- ・自転車専用道の整備や色分けによる視認性向上を希望
- ・違法駐車・看板・植木などが歩行者の通行を妨げている
- ・信号機の増設や見通し改善を望む
- ・点字ブロックやタイル舗装の段差が障害者にとって危険になる場合もある
- ・視覚障害者向けの音響式信号機の設置を望む
- ・住宅街の小路もバリアフリー化を望む
- ・多目的トイレが不足している（特に駅から離れた場所）

【公園に関すること（3件）】

- ・公園周辺や入口に自転車・バイクが放置され、通行の妨げになっている
- ・遊具の新設など、子育て支援の面では改善を実感している
- ・公園整備に併せて利用者のマナーの向上も必要

【建築物に関すること（9件）】

- ・新築・改修施設ではバリアフリー化が進んでいるが、古い施設は不十分
- ・階段には手すり設置を希望、段差のある入口は高齢者にとって困難
- ・階段の端が分かりづらい段鼻の色を変える等、視認性改善を望む
- ・一部の施設では、バリアフリー動線が遠回りの経路になっており、利用者にとって実用性に課題がある
- ・小規模施設の入口は通路幅が狭く、段差もある

【心のバリアフリーに関するここと（127件）】

- ・「助け合い・譲り合い」が自然に根付く社会を望む
- ・優先席やエレベーターの譲り合いが不十分
- ・障害者・高齢者・妊婦・乳幼児連れへの配慮が足りない場面が多い
- ・障害者への声かけや手助けの仕方が分からずの人も多く、理解を促す啓発が必要
- ・幼少期からの障害への理解を深めるための教育が重要
- ・擬似体験イベントや接遇マニュアルの整備を提案する
- ・学校・企業・地域での研修や啓発活動の強化を望む
- ・CMやポスター、アンバサダーによる広報がよい
- ・障害者・外国人・LGBTなど多様な立場への理解促進が必要
- ・外見で分からずの支援ニーズに対応する「サイン」や「マーク」があるとよい
- ・歩道での危険走行、スピード違反、「ながら運転」などに不安がある
- ・モラル向上・ルール徹底・専用道整備を望む
- ・「心のバリアフリー」という言葉だけで終わらせないように
- ・「相手の立場に立つ」意識や、良識ある行動をして欲しい

【自転車等に関するここと（37件）】

- ・自転車の歩道での危険走行や、自転車利用者のマナーの悪さが目立つ
- ・電動自転車・キックボード^{*}の高速走行に恐怖を感じる
- ・放置自転車・違法駐輪の取り締まり強化を求める
- ・Uber Eats等の自転車配達員は、信号無視などの危険運転が多い
- ・「ながら運転」や横道からの飛び出しなど、モラル欠如が多い
- ・自転車の歩道走行禁止を求める
- ・ヘルメット着用・左側通行など交通法規の徹底を望む
- ・自転車マナー向上のための啓発・研修機会を求める
- ・放置自転車が通行を妨げている場所が多数（バス停・歩道橋・公園周辺など）
- ・駐輪場の構造が使いづらく、特に高齢者や子育て世帯に負担

【そのほか（60件）】

- ・健常者や若年層は「実感がない」「意識していない」との声が多いが、アンケートを通じて気づきが生まれている
- ・障害のある方、サポートしている方、ベビーカー利用の方など、当事者に聞くことが一番だと思う
- ・東京の中で一番住みやすいまちになるよう区政の目標にして欲しい
- ・防災・防犯も含め、安心・安全なまちづくりを進めて欲しい
- ・子育て世帯からは「ベビーカーが使いづらい」「子連れに優しくない」
- ・エレベーターなど譲ってくれた方にナカペイのポイントを付与するような仕組みがあればよい
- ・バリアフリーの費用と効果を見る化して欲しい
- ・アンケートを定期的に実施して欲しい

資料4 団体ヒアリング

(1) 実施概要

区内の移動及び施設の利用における問題点や課題、バリアフリーに対する意見等の把握を目的として、高齢者団体、障害者団体等を対象にヒアリング調査を実施しました。

表 ヒアリング先

協力団体（略称）	実施日	実施場所
中野区聴覚障害者福祉協会 中野区中途失聴・難聴者の会（聴）	令和6年12月7日	スマイルなかの
中野区肢体不自由児者父母の会（肢）	令和6年12月9日	中野区役所
中野区友愛クラブ連合会（高）	令和6年12月9日	中野区役所
中野区手をつなぐ親の会（知）	令和6年12月10日	中野区役所
リトミック poco a poco（子）	令和6年12月23日	中野区役所
中野区視覚障害者福祉協会（視）	令和6年12月25日	視覚障害者福祉協会事務所
中野区仲町就労支援事業所（精）	令和7年3月6日	中野区仲町就労支援事業所

表 ヒアリング項目

項目	内 容
これまでの中野区のバリアフリーの取組について	・10年前と比べての中野区のバリアフリーに対する評価
公共交通機関等を利用した移動について	・よく利用する交通手段、鉄道・路線バス・横断歩道等で不便に感じること・要望
施設等の利用について	・よく利用する施設、施設の利用で不便に感じること・要望
心のバリアフリーについて	・周囲の理解、手助けは進んでいるか、望む配慮、理解のために何が必要か、接遇について

(2) 主な意見

① 駅に関すること

ハード面

- ・中野駅はホームドアとエレベーターの未設置が大きな問題である。点字ブロックの上に柱があるなど、視覚障害者にとって危険な構造
- ・東中野駅、沼袋駅、新中野駅、中野坂上駅などはバリアフリー未整備部分がある。階段の利用を強いられることなどは、障害者や子育て世帯にとって大きな障壁
- ・高田馬場駅では、明確な音声案内があり、点字ブロックとの連携で安心感が得られるため中野駅でも同様の音声案内の設備の導入が望まれる
- ・JR東中野駅にホームドアが整備され、利便性と安全性が向上した

ソフト面

- ・新中野駅、中野坂上駅などの無人改札では、駅員が不在のため不安を感じる
- ・ヘルパーの支援によりスムーズな電車乗降が可能になっているケースもあり、人的支援の重要性が再認識されている
- ・東西線ホームの構造が複雑な中野駅は、単独での利用に危険を感じる声があり、駅員による支援が必要

② 路線バスに関すること

ハード面

- ・中野駅でバス降車時に段差で骨折したことがあり、乗降時の安全性向上が必要
- ・バス停までの点字ブロック設置は地域差がある

ソフト面

- ・バスの到着時間が読めず不安があり、リアルタイム運行情報の必要性が高まっている
- ・車いす使用者が乗車する際、周囲への気遣いから利用をためらう声がある
- ・バス停の表示には点字やひらがな表記など、視覚・言語に配慮した案内が求められている

③ 道路に関する主な指摘

ハード面

- ・歩道の狭い道路が多く、傾斜や植栽による凹凸もあると、通行が困難
- ・点字ブロックは、雨天時の滑りやすさや凹凸による衝撃に不安があり配慮が必要
- ・電柱が通行の妨げになっている
- ・音響式信号機の設置が不足している交差点がある
- ・視覚障害者誘導用ブロックが設置されていない箇所が多く見られる
- ・工事により視覚障害者誘導用ブロックが途中で途切れている箇所がある、工事中の歩行者配慮が不十分
- ・信号の間隔が短く渡り切れない、駅間移動で道幅が狭いなど、妊婦・子育て世帯・高齢者への配慮が不足している

ソフト面

- ・自転車は、本来歩道走行が許されている子ども・高齢者以外にも利用され、通行者との接触リスクが高い
- ・LUUPやキックボードの運用ルールが曖昧だ。周知すべき
- ・自転車の無断駐輪で視覚障害者誘導用ブロック利用者の通行が妨げられることがある
- ・広町みらい公園整備では住民の声が反映され、バリアフリー改善につながった

④ 建築物・公園に関すること

ハード面

- ・手話・字幕対応の案内不足や文字情報の欠如で、施設の使い方がわかりづらい場面が多い
- ・建築物は、車いすが入りづらい狭い間口や通路、段差や傾斜が移動障壁になっている。老朽施設では床の絨毯や構造の不備が影響
- ・エレベーターの大きさは、大型の車いす使用者にも配慮が必要。
- ・知的障害者は、ピクトグラムの色や形でトイレなどの施設の設備等を判別しているので、設備等の案内表示は一般的に普及しているデザインを採用して欲しい。
- ・壁面サインだとわかりづらいので、突き出し式の表示として欲しい。
- ・スチール製の鉢タイプの視覚障害者誘導用ブロックは、弱視の人は見えにくい。
- ・トイレは、大型ベッドやオストメイト設備、音声・視覚案内の不足などがみられる。
- ・公園は、道路との境目に凸凹のある公園がある。また子どもの安全性の点から扉を設置して欲しい

ソフト面

- ・掲示物の位置や内容が目立たず利用者が気づかないケースがある。簡潔な情報提供が必要
- ・バリアフリー整備は使い方や利用者ニーズの把握が前提であるべき

⑤ 心のバリアフリーに関すること

コミュニケーションと情報面のバリア

- ・聴覚障害者と非手話・話者間の意思疎通が困難であり、音声認識やリレーサービス等の導入が進んでいるが、普及はまだ不十分
- ・マスク着用が原因で話が理解できなかいことがある
- ・コミュニケーションが必要な窓口等では、職員の接遇教育等を積極的に行って欲しい
- ・災害時に紙とペンなど文字情報が不可欠。表示物の工夫や「聞こえません」の意思表示の普及が必要
- ・施設利用で電話予約しかできないなど、非音声コミュニケーションへの対応が不足

気づき・配慮・共感の不足と改善案

- ・エレベーターや公共空間での譲り合いが進んでいない。ベビーカーや車いすの使用に配慮されない例も多い
- ・対応の仕方や声のかけ方がわからない人が多く、親切がうまく伝わらない場合がある
- ・ヘルプマークがあっても意味を理解していない人が多いなど、見た目では障害がわからない人への理解が不足
- ・エスカレーター・歩道でのスマホ歩きによる危険が増加している。また白杖を見ても避けない人もいる
- ・心のバリアフリーは子どもの頃から教育が必要。啓発は年1回の障害者週間では不十分

公共・商業施設やサービスの対応

- ・電子決済端末や宅配ボックスがタッチパネル化されているが、使えない人がいることを理解して欲しい。代替手段が必要
- ・コンビニや飲食店では、対応してくれる店員がいると安心できる。商品配置を変えないことが使いやすさにつながる
- ・スーパーでの動線やサポートカウンターへのアクセスに配慮が足りない場合がある
- ・音声案内や誘導支援を提供するアイコサポートに助成や支援を希望

教育・啓発と地域のつながり

- ・障害のある人と子ども・高齢者の交流や、イベント時の体験企画は有効
- ・学校の総合学習時間を活用したガイド体験や啓発活動が進めづらい現状がある
- ・ドラマなどのメディアによって社会の理解が少しずつ広がっているという声がある
- ・正しい接し方や配慮の仕方を広報で繰り返し知らせることが重要
- ・言語による表現が苦手な人にはスマホやイラストでの支援、窓口に案内人の配置も提案されている

資料5 まち歩き点検

(1) 実施概要

重点整備地区7地区を対象に、利用者の視点で、バリアフリーに関する問題点や課題を把握するため、高齢者、障害者等の区民や関係事業者からなるメンバーによる「まち歩き点検」を実施しました。

9時集合で12時終了というスケジュールで11回を実施し、高齢者、障害者団体から延べ62名の参加をいただきました。

表 点検地区・実施日など

点検地区	実施日 参加者数 ^{※1} /参加総数 ^{※2}	(1)集合場所 (A、Bは2箇所の場合) (2)結果の整理・意見交換等の会場
新井薬師前地区	令和7年6月7日 8人/19人	(1)令和小学校 (2)令和小学校
東中野・落合地区	令和7年6月9日 4人/7人	(1)東中野駅前広場 (2)東中野区民活動センター
新中野地区	令和7年6月11日 6人/9人	(1)杉山公園 (2)中部すこやか福祉センター
沼袋地区	令和7年6月18日 4人/7人	(1)沼袋駅南口 (2)新井区民活動センター
沼袋地区 (2回目)	令和7年6月20日 6人/14人	(1)沼袋高齢者会館前 (2)沼袋区民活動センター
中野地区	令和7年6月23日 5人/10人	(1)-A 中野駅北口駅前広場 (1)-B なかのZERO出入口付近 (2)中野区産業振興センター
新井薬師前地区 (2回目)	令和7年6月27日 4人/6人	(1)新井薬師公園 (2)上高田区民活動センター
鷺ノ宮地区	令和7年6月30日 9人/17人	(1)-A 鷺ノ宮駅北口 (1)-B 鷺宮区民活動センター分室前 (2)鷺宮区民活動センター
野方地区	令和7年7月4日 3人/10人	(1)-A 野方駅南口 (1)-B 野方区民活動センター分室前 (2)野方区民活動センター
新中野地区 (2回目)	令和7年7月7日 6人/11人	(1)杉山公園 (2)桃園区民活動センター
中野地区 (2回目)	令和7年7月14日 7人/8人	(1)-A 中野駅北口駅前広場 (1)-B 中野駅南口駅前広場 (2)中野区役所

※1:「中野区友愛クラブ連合会」「中野区手をつなぐ親の会」「中野区肢体不自由児者父母の会」「NPO法人中野区視覚障害者福祉協会」「中野区聴覚障害者福祉協会」「中野区仲町就労支援事業所」「ねこの手」の各団体からの参加者

※2:※1の各団体に、学識経験者や交通管理者、学生、区職員を加えた総数

図 各地区的まち歩き点検ルートと点検施設



(2) 主な意見

① 新中野地区

①公共交通

- ・新中野駅構内の音声案内の音量が小さく、鳴動間隔が長いため認識しづらい。
- ・聴覚障害者は音声の応対ができないため、カメラやモニター付きのインターフォンや券売機を整備して欲しい。
- ・運行情報取得のためにバス停の時刻表等にQRコード設置して欲しい。

②道路

- ・駅からバス停、付近の施設までの経路に誘導用ブロックを設置して欲しい。
- ・誘導案内板に点字、音声案内設備を整備して欲しい。
- ・側溝・マンホールに穴があり杖がはまりそうで危険なので改善して欲しい。
- ・歩道に凸凹・がたつきがある。
- ・路面上にグレーチングがあり滑りやすい。
- ・歩道幅が狭い道路や路側帯がない道路は安全に歩行できない。拡幅して欲しい。
- ・道路拡幅用地のガードパイプを無くして欲しい。

③交通安全

- ・エスコートゾーンが整備されていない交差点は整備して欲しい。
- ・音響式信号機の音量が小さい、また設置箇所を増やして欲しい。
- ・違法駐輪や路上駐車により歩行者が安全に通行できる空間が無くなってしまっている。

④公園

- ・洋式便器が無い等、園内の古いトイレは改修して欲しい。
- ・出入口の車止めの設置幅は、車いす使用者や視覚障害者の通行に配慮して欲しい。
- ・公園名称の表示が見えづらい。看板等を整備して欲しい。
- ・遊具広場等の境の段差を解消して欲しい。

⑤建築物

- ・車いす使用者がすれ違える通路幅を確保して欲しい。
- ・出入口の通路等の段差は解消して欲しい。
- ・出入口に施設を知らせるシグナルエイド等の音声案内設備を整備して欲しい。
- ・案内表示の視認性が低く施設名や入口がわかりづらい。店内の案内板も障害物によりが隠れているなど、わかりやすい表示、位置で設置して欲しい。
- ・サービスカウンターの呼び出しボタンに点字を付けて欲しい。
- ・筆談具がない施設は設置し、耳マークの表示をして欲しい。
- ・自転車駐輪が出口のスロープまで広がっている。マナーの啓発をして欲しい。
- ・カフェやセルフレジにはローテーブルなど車いす使用者専用スペースが整備されていると良い。
- ・視覚障害者はタッチパネルを操作できないので代替機器等を整備して欲しい。

図 新中野地区のまち歩き点検時の意見の例



呼び出しボタンに点字をつけて欲しい

施設内の古いトイレ



トイレが古いで改修をして欲しい

② 中野地区

①公共交通

- 券売機が古く、チャージ等対応ができていないので改修して欲しい。
- 駅構内にエレベーターを設置して欲しい。

②道路

- 誘導用ブロックの途切れや摩耗、カラー舗装の劣化があるので補修して欲しい。
- 施設に向かう経路に誘導ブロックが足りていないと感じるので、整備して欲しい。
- バス乗り場や施設への案内板の設置場所がわかりづらい。表記も英語など、様々な利用者への配慮があると良い。
- 歩道が狭い箇所は拡幅をして欲しい。また歩道が途中で切れる箇所や傾斜が急な箇所がある。
- 雨天時に車いすでタクシーに乗るのに時間がかかるので駅前広場に屋根を設置して欲しい。
- 誘導用ブロックがエレベーターに向かって設置されているが、エスカレーターも利用できる誘導設備等を整備して欲しい。
- 看板や自転車の駐輪等により安全に通行できない。

③交通安全

- 歩道を走行する自転車が多く歩行者・車いす使用者の通行に危険である。自転車用通路の整備や自転車利用者へのマナー啓発等をしていただきたい。
- 駅前広場の車いす専用乗降場にタクシーが並んでいて利用できない状況となっている。マナー啓発をして欲しい。

④公園

- トイレが遠くからではわかりづらいので、わかりやすい案内表示を設置して欲しい。また、トイレの位置を知らせる音声案内設備を整備して欲しい。
- 公園内に違法駐輪が見受けられる。
- 粗目のグレーチングや路面のガタつきは改善をして欲しい。
- トイレにベビーシートを設置して欲しい。

⑤建築物

- 車いす対応トイレが2階にある施設は、アクセスのしやすさを考え1階へ整備して欲しい。
- トイレは洋式とすることやベビー設備、大型ベッド、オストメイト設備等様々な人へ配慮された設備があると良い。
- 乗口と降口が違うエレベーターは音声案内で出入口を知らせて欲しい。
- インターフォンなどは、音声対応ができない聴覚障害者への配慮が必要である。
- 誘導用ブロックの付近に障害物があり、視覚障害者の通行時の支障となる。白杖をついた時の離隔も考慮して欲しい。
- スチール製の鉢タイプの視覚障害者誘導用ブロックは、弱視の人は見えにくいので全面黄色の誘導用ブロックにして欲しい。
- 音声文字変換機器の設置がされてよかつたが、利用方法等の案内を設置して欲しい。また、機器の設置を拡充して欲しい。
- 出入口は自動ドアを整備して欲しい。
- 施設内には緊急時対応してくれる総合受付を設けることや警備員を配置して欲しい。

図 中野地区のまち歩き点検時の意見の例

誘導用ブロック脇のポール



白杖をついた時の離隔も考慮して
ポールを設置して欲しい

路側帯のカラー舗装



路側帯のカラー舗装が劣化している

③ 東中野・落合地区

①公共交通

- ・階段手すりやホームドア両側の点字が剥がれや摩耗等があるので修繕して欲しい。
- ・東口改札階までのエレベーターがないので設置して欲しい。
- ・東口のインターフォンが聞き取りづらく音声対応のみで不十分・文字化など希望
- ・券売機のアスタリスクボタンの反応不良
- ・改札内の緊急停止ボタンは表記に配慮が必要。知的障害者は「押す」などの表記を見て誤って押してしまう可能性がある。

②道路

- ・急勾配の交差点や舗装の凸凹により歩きづらい箇所があるので補修して欲しい。
- ・古いJIS規格外の誘導用ブロックが使われているため更新して欲しい。
- ・駅前広場の案内板に向かう経路に誘導用ブロックを整備して欲しい。
- ・バス停の付近等、休憩場所としてベンチが設置されていると良い。
- ・路側帯に電柱があり車道通行を強いられる状況があるため無電柱化をして欲しい。

③交通安全

- ・歩道で自転車と歩行者の通行スペースが分離されていても自転車が歩行者側を通行している。自転車利用者へのマナー啓発をして欲しい。
- ・横断歩道が薄くなっているので補修して欲しい。

④公園

- ・トイレの表示がないので案内板を設置して欲しい。
- ・公園内の施設への経路に誘導用ブロックが繋がっていないので改善して欲しい。

⑤建築物

- ・施設にあるインターフォンが何の用途であるのかがわかるように案内表示等で周知をして欲しい。
- ・トイレのジェットタオルの大きな音でパニックが苦手な人がいるので、配慮などがあると良い。
- ・出入口すぐに階段があり、視覚障害者が落下する危険性がある。
- ・スロープの位置は、視覚障害者にも位置がわかりやすくなる工夫があると良い。
- ・通路から出入口までの経路は誘導用ブロックを整備して欲しい。
- ・階段の手すりの点字がテープで隠れて使えない状況なので改善して欲しい。
- ・出入口などで複数の経路がある場合は、1経路だけではなく複数経路で誘導用ブロックを整備して欲しい。
- ・案内板には、音声案内設備があると良い。

図 東中野・落合地区のまち歩き点検時の意見の例

JR 東中野駅東口



改札階までのエレベーターがないので設置をして欲しい

誘導用ブロックの設置不足



案内板への経路に誘導用ブロックを設置して欲しい

④ 新井薬師前地区

①公共交通

- 駅に筆談具は準備されていたが、耳マークが設置されていない。筆談具を設置していくことがわかるようにして欲しい。

②道路

- 交差点や集水枠付近の舗装にひび割れや陥没があるため補修をして欲しい。
- 沿道店舗の看板や陳列物が歩道上にはみ出て歩行者空間が狭くなっている。行政から店舗へ指導をして欲しい。
- グレーチングの蓋が粗目で杖・車輪が挟まる恐れがあるので細目の蓋へ改修して欲しい。
- 街渠ブロックの劣化により車道と歩道の境で段差が生じているので改修して欲しい。
- ベンチが設置されているのは良いが、歩道が狭い場所にあり、通行時にぶつかり恐れがあるので配置を検討して欲しい。

③交通安全

- 五差路などの複雑な交差点や駅前の交差点にはエスコートゾーンを整備して欲しい。
- 店舗前の歩道に自転車の駐輪が多くあるので、駐輪禁止のマナー啓発をして欲しい。
- 公園横の道路の路側帯に駐車が多く、歩行者が歩きにくいため違法駐車禁止の啓発活動をして欲しい。

④公園

- トイレにベビーシートを整備して欲しい。
- 複数ある公園の出入口のうち、トイレまでの経路に誘導用ブロックが設置されているルートは1経路のみのため、複数ルートで誘導ブロックの整備して欲しい。
- 誘導用ブロックの色が薄くなっていて視認性が低くなっているので改修をして欲しい。
- 点字案内板が汚れていて触読することができない。
- 出入口のポールの高さや配置が目立たないので衝突の危険性がある。

⑤建築物

- 誘導ブロックの塗装の剥がれにより視認性が低下しているので改修して欲しい。
- 緊急時のボタンなどは、「押してください」と表示されていると知的障害者は誤って押してしまうケースがあるので「緊急以外押さないで」などの表記を変更して欲しい。
- 駐車場の車止め（地中収納型リフター）が故障しているようなので、修繕した方が良い。
- 出入口に5cmほどの段差があるため段差の解消をして欲しい。
- 出入口のグレーチングの脇に陥没があるため修繕をして欲しい。

図 新井薬師前地区のまち歩き点検時の意見の例

歩道の段差



歩道と車道の境の段差を改善して欲しい

誘導用ブロックの色の視認性低下



誘導用ブロックを黄色のブロックに改修して欲しい

⑤ 沼袋地区

①公共交通

- ・工事のバリケードにより駅入口がわかりづらいので、案内板を設置して欲しい。
- ・工事で足元が不安定のため通路やホームの平坦性や安全な通路幅を確保して欲しい。
- ・駅出入口の誘導用ブロックが摩耗しているため修繕して欲しい。
- ・点字運賃表・触知案内図の配置は分散せずに近い位置に配置をして欲しい。
- ・視覚障害者への配慮としてインターフォンに音声案内設備を整備して欲しい。
- ・南口にトイレがないことが改札に入る前にわかるように案内表示を設置して欲しい。

②道路

- ・舗装にひび割れや陥没、凹凸等の劣化が生じており歩きににくいので補修して欲しい。
- ・道路上の看板等や宅地の段差解消のステップが通行の支障物となっているので行政から指導をして欲しい。
- ・道路から駅の改札までの経路や駅から中野総合体育館までの経路に誘導用ブロックを設置して欲しい。
- ・誘導用ブロックがはがれている箇所があるので補修して欲しい。

③交通安全

- ・横断歩道のゼブラの凹凸を足で触って手掛かりにして歩くという視覚障害者がいるので、適切な状態で継続的に維持管理をして欲しい。
- ・音響式信号機の押しボタンの音・位置を示す音が小さい。また、夜間であっても音声案内は鳴るようにして欲しい。

④公園

- ・弱視の方でも判別できるようにトイレのサインは大きく前面にあるとよい。
- ・また、トイレのボタンの配置はJIS規格に適合するよう配置して欲しい。
- ・バリアフリートイレまでの経路は誘導用ブロックが設置されているが、一般用トイレにも音声案内設備を整備するなど視覚障害者が利用できるよう配慮があると良い。
- ・トイレのサインは手で触って判別できるように浮き出しのサインにして欲しい。
- ・案内板には音声案内設備を設置して欲しい。また、案内板手前に植え込みがあり、躊躇があるので位置を変えて欲しい。
- ・自転車置き場は勾配がついており、停めにくいで平坦にして欲しい。

⑤建築物

- ・出入口の玄関マットが誘導用ブロックを塞いでいる。
- ・植栽が路上に飛び出しており、通行の妨げになっているので剪定して欲しい。
- ・点字案内板が低い。胸の高さで、水平ではなく少し斜めに傾けて設置されていると読みやすい。
- ・階段に手すりが設置されていないので設置して欲しい。
- ・エレベーターの到着音やバリアフリートイレの開閉時には音声で知らせて欲しい。
- ・車いす用駐車スペースの場所が見つけづらい。外部から見てわかるように、案内表示が設置されていると良い。

図 沼袋地区のまち歩き点検時の意見の例

案内表示の不足



バリケードに囲われていて駅の入り口が分かりにくいで分かりやすい案内板を設置して欲しい。

誘導用ブロックの摩耗、劣化



誘導用ブロックを補修して欲しい

⑥ 野方地区

①公共交通

- ・駅に筆談具は準備されていたが、耳マークが設置されていない。筆談具を設置していくことがわかるようにして欲しい。

②道路

- ・駅前広場への経路や踏切の手前に誘導用ブロックを設置して欲しい。
- ・誘導用ブロックが欠けや、カラー舗装の薄れ、舗装の陥没・段差・凸凹等の劣化があるので補修して欲しい。
- ・施設の出入口付近に大きいマンホールがあるので、蓋を滑りづらい素材にして欲しい。
- ・商店街に、自転車の駐輪や看板などの障害物が多くて歩きづらい。行政からの指導や啓発活動をして欲しい。

③交通安全

- ・横断歩道が薄くなっているため、補修して欲しい。
- ・バスロータリーにバス、歩行者、自転車が滞留しており危険である。交通ルールの啓発活動をして欲しい。
- ・交通量の多い狭い道路に駐車がされていて歩行者が安全に通行できない。

④公園

- ・男女共用の和式トイレしかない。車いす使用者が利用できるバリアフリートイレを整備して欲しい。
- ・公園の出入口では、車いす使用者が別経路を通らず、他の利用者と同じルートで入園できるようにして欲しい

⑤建築物

- ・出入口のスロープの幅が狭いため、車いす使用者が旋回しづらいように感じる。
- ・敷地内から出入口までの経路に誘導用ブロックを設置して欲しい。
- ・誘導用ブロック上の障害物の撤去をして欲しい。
- ・通路の手すりが机で隠れてしまっているので机の配置を変えて欲しい。
- ・階段の手すりは使用しやすい高さで設置して欲しい。また、段差がわかりやすいよう段鼻の色を変えるなど視認性をよくして欲しい。
- ・バリアフリートイレは手動開閉の扉ではなく、車いす使用者も開閉がしやすい自動開閉の扉にして欲しい。
- ・エレベーターやトイレ等の案内表示がわかりづらい。大きく表示することや矢印で誘導するなどわかりやすく表示して欲しい。
- ・他の掲示物が散らばっていると案内表示がわかりづらくなるので、1箇所にまとめて掲示し欲しい。
- ・駐車場や駐輪場の案内表示がないので表示して欲しい。駐車スペースには車いすマークの表示をした方が良い。
- ・受付は、車いす使用者に配慮したローテーブルなどがあると良い。

図 野方地区のまち歩き点検時の意見の例

舗装の劣化



舗装が劣化しているので
補修して欲しい

丸山公園のトイレ



車いす使用者対応トイレが未設置
男女共用で和式のみ

⑦ 鶯ノ宮地区

①公共交通

- ・誘導用ブロックに欠損があるので修繕したい。また、駅務室に向かう経路に誘導用ブロックが設置されていないので、設置をして欲しい。
- ・点字案内板の位置がわかりづらいので音声案内設備を整備して欲しい。
- ・駅舎南側にエレベーターを設置して欲しい。
- ・看板が錆ついていて見えづらいので改修して欲しい。
- ・駅舎内のエレベーターまでの通路が狭いので広げて欲しい。また、通路の床材の塗装が剥げて滑りやすいので修繕して欲しい。
- ・バス停にベンチはあるが、屋根がないので設置して欲しい。

②道路

- ・歩道が狭くて車いすでは通行できない道路があるので拡幅を検討して欲しい。
- ・歩道の街渠ブロックにガタツキがあるので改修して欲しい。
- ・カーブミラーに植栽がかかって見えにくくなっているので剪定して欲しい。
- ・歩道橋が歩道のスペースを大きく占有している。また、歩道橋が死角となり、自転車の飛び出しによる衝突の危険があるため、廃止を検討して欲しい。

- ・歩道にゴミや沿道の店舗の商品などが置かれているせいで通行スペースが狭くなっているので、行政指導して欲しい。
- ・街路樹が無い植樹帯は躊躇する恐れがあるため、植樹帯を無くすなど段差を解消して欲しい。

③交通安全

- ・一時停止の路面標示が薄くなっているので修繕して欲しい。
- ・標識が折れているので修繕をして欲しい。
- ・信号機の設置箇所を増やして欲しい。
- ・音響式信号機の音量を大きくして欲しい。
- ・エスコートゾーンが整備されていないので整備して欲しい。

④建築物

- ・道路と入口の段差をなくすためのステップが滑りやすく傾斜が急であるため改善して欲しい。
- ・出入口の靴脱ぎ場には手すりがあった方が良い。
- ・複合施設は、それぞれの施設の案内表示がわかりやすく表示されていると良い。
- ・階段の上り口、下り口には警告ブロックを設置して欲しい。
- ・トイレの個室の手すりはL字型で設置されないと立ち上がりづらい。
- ・出入口や建物内の各所に音声案内設備を整備することや点字案内板を設置するなど視覚障害者へ配慮した設備を整備して欲しい。

図 鶯ノ宮地区のまち歩き点検時の意見の例

横断歩道



エスコートゾーンを整備して欲しい

出入口



道路と入口の段差をなくすための
ステップが滑りやすく傾斜が急

⑧ 心のバリアフリー やソフト面などに関するこ

- ヘルプマークを身につけていても、周囲から配慮をされないことや悪意ある人に付け込まれ、怖い思いをすることもあった。
- バリアフリーはハード整備だけでなく自治会など地域住民の関与が重要である。段差などの障害も心のバリアフリーが広まり周囲の方々の助けがあれば乗り越えられる。
- こうしたバリアフリーの点検は、ウェブブラウザの地図サービス等を活用して行えるようになると良い。また、バリアフリーに関する課題を誰もが投稿できる仕組みを整えて、収集した情報を障害当事者や高齢者など、実際に利用する人々によって確認できるようになると良い。
- 聴覚障害者への配慮として、音声から文字に変換する機械の利用が進むと良い。字幕標示用のディスプレイ、話したことを文字化できるようにするなどの新しい技術を駅員のいない改札やエレベーターなどで活用できれば、問題をカバーできると思う。
- 音声連絡が難しい方に向けて、文字等で 110 番や 119 番を通報できるアプリもある。
- 緊急時に助けを呼ぶ際、現在地がすぐに分かるよう、まちなかの住居表示をより充実させることが望ましい。通報時の位置情報の伝達が容易になり、迅速な対応につながると思う。
- スマートフォンの機能と連携して鉄道やバスなどリアルタイムの運行情報の提供がされると良い。

資料6 用語解説

あ行

■ 移動等円滑化

高齢者や障害者等が安全かつ快適に移動や施設を利用できるようにすること。

■ 移動等円滑化基準

バリアフリー法施行に伴い主務省令で定められた、旅客施設、車両、道路、信号機、路外駐車場、都市公園及び建築物等に関する基準。

■ 移動等円滑化促進地区

移動等円滑化促進方針に定める地区。公共交通機関、建築物、道路等のバリアフリー化を促進すべき地区として区市町村が定めるもの。

■ 移動等円滑化促進方針

旅客施設を中心とした地区や、高齢者、障害者等が利用する施設が集まった地区において、面的・一体的なバリアフリー化の方針を区市町村が示すもの。

■ 移動等円滑化の促進に関する基本方針

バリアフリー法第3条に基づき主務大臣が定める移動等円滑化を総合的かつ計画的に推進するための基本方針（平成31年国家公安委員会・総務省・国土交通省告示第1号）。

■ エスコートゾーン

道路を横断する視覚障害者の安全性及び利便性を向上させるために横断歩道上に設置され、視覚障害者が横断時に横断方向の手がかりとする突起体の列のこと。

■ SDGs（エスディージーズ）

平成27年（2015年）に国連サミットにおいて全会一致で採択された持続可能な開発目標SDGsは、持続的な発展を目指し、令和12年（2030年）までに実現しようとする国際社会の目標。17のゴールが具体的な開発目標として挙げられ、様々な公共政策だけでなく、民間の活動においてもその開発目標に配慮することが求められており、世界でその取組が進んでいる。

■ オストメイト

直腸・膀胱などの機能障害により、お腹に排泄のための「ストーマー（人工肛門・人工膀胱）」を造設している人のこと。排泄物を溜めておく袋（パウチ）を装着している。

■ 音響式信号機

目の不自由な方が安全に横断できるように、歩行者用信号が青のタイミングで横断歩道の両端から音響（「ピヨピヨ」「カッコー」など）を鳴動させ、誘導を行うもの。

か行

■キックボード

特定小型原動機付自転車のことで、原動機付自転車のうち、電動機の定格出力が0.6kW以下であって長さ1.9m、幅0.6m以下かつ最高速度20km/h以下のもの。

■共生社会の実現

障害の有無、年齢、性別、国籍などに関係なく、全ての人が互いに認め合い、支え合いながら、安心して暮らせる社会をつくること。

■合理的配慮

障害のある人やその家族などから、何らかの配慮を求める意思表示があつた場合において、その実施にあたり、過重な負担にならない範囲で、社会的なバリアを取り除くために、必要な工夫や対応を行うこと。

■心のバリアフリー

様々な心身の特性や考え方を持つ全ての人々が、相互に理解を深めようとコミュニケーションをとり、支え合うこと。

■コミュニケーションツール

意志や情報を伝達するための道具（例：筆談具など）。

さ行

■視覚障害者誘導用ブロック

視覚障害者を誘導するために床面や路面等に敷設される、線状、点状の突起をもつたブロックのこと。

■社会的障壁の除去

日常生活または社会生活を営む上で障壁となるような社会における事物、制度、慣行、観念その他一切のものを除去すること。

■重点整備地区

バリアフリー基本構想に定める地区。公共交通機関、建築物、道路等のバリアフリー化のための事業を重点的かつ一体的に推進すべき地区として区市町村が定めるもの。

■障害者差別解消法

「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」（平成28年4月1日施行）の略称。国連の「障害者の権利に関する条約」の締結に向けた国内法制度の整備の一環として、全ての国民が、障害の有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現に向け、障害を理由とする差別の解消を推進することを目的に制定された。

■生活関連経路

生活関連施設相互間の経路（道路や通路など）のこと。

■生活関連施設

高齢者、障害者等が日常生活または社会生活において利用する旅客施設、公共・公益施設、福祉・医療施設、文化・教養施設、教育施設、スポーツ施設、商業施設、宿泊施設、子育て支援施設、公園等の施設のこと。

■ソフト

ソフトとは、人の気持ち、社会における制度など、主に「施設」以外に関するものを指す。

た行

■東京都福祉のまちづくり条例

高齢者や障害者を含めた全ての人（高齢者、障害者、子ども、外国人、妊娠婦、傷病者その他の年齢、個人の能力及び生活状況等の異なる全ての人をいう。）が安全・安心に快適に暮らし、訪れることができる社会の実現を図ることを目的として定められた条例。

■透明ディスプレイ

透明なディスプレイ上に翻訳されたテキストをリアルタイムで表示することで、対面コミュニケーションを支援するツール。

■特定建築物

学校、病院、劇場、観覧場、集会場、展示場、百貨店、ホテル、事務所、共同住宅、老人ホームその他の多数の者が利用する政令で定める建築物またはその部分をいい、これらに附属する建築物特定施設を含むものとする。

■特定事業

重点整備地区における生活関連施設や生活関連経路等を対象に、各事業者が取り組むバリアフリー化に関する事業のこと。

なお本構想においては、バリアフリー法第2条に定める、公共交通特定事業、道路特定事業、路外駐車場特定事業、都市公園特定事業、建築物特定事業、交通安全特定事業及び教育啓発特定事業のほか、その他の事業を含め特定事業と称することとする。

■特定事業計画

バリアフリー基本構想に記載された特定事業（バリアフリー化に関する事業）に関し、関係する事業者が作成する計画。公共交通特定事業計画、道路特定事業計画、建築物特定事業計画、交通安全特定事業計画等がある。

■届出制度

公共交通事業者または道路管理者は、移動等円滑化促進地区内の旅客施設や道

路（駅前広場等）の改良等であって、他の施設と接する部分の構造の変更等を行う場合は、当該行為に着手する30日前までに区市町村に届け出なければならない。これは、施設間の移動の連続性を担保することを目的としたものである。

な行

■内方線付き点状ブロック

鉄道駅のホームの縁端を警告するためのブロックで、従来の点状ブロックに加えて、どちらがホームの内側か分かるように、点状ブロックの内側に線状突起を1本追加したブロックのこと。

■中野区手話言語条例

手話が言語であることに対する理解を促進するための基本理念を定め、中野区、区民及び事業者の責務を明らかにすることにより、手話を使用する全ての人に対して社会的障壁がない地域社会を実現することを目的として、2020（令和2）年4月1日に施行された条例のこと。

■中野区福祉のまちづくりのための環境整備要綱

中野区内の建築物その他の施設について、高齢者や障害者を含む全ての人が、容易に利用できるよう、建築主等施設の設置管理者の協力を得て、その整備または改善を進め、誰もが安全で安心して、かつ快適に暮らし、または訪れるができるまちづくりを目指すことを目的として定められた中野区独自の指導要綱のことであり、宿泊施設や運動施設、事務所などのような施設で一定の床面積の条件を満たすものを対象に、工事に着手する30日前かつ建築確認申請前に、整備基準について区との協議をお願いしている。

■中野区ユニバーサルデザイン推進条例

全ての人が、それぞれの意欲や能力に応じて社会参加する「全員参加型社会」やまちの魅力向上による地域の活性化の実現に向けて、2018（平成30）年4月1日に施行された条例のこと。

■ノンステップバス

低床型のバスの一種で、車両内で階段がなく、スムーズな乗降が可能なバス。

は行

■ハード

ハードとは、建物、道路、駅及び設備等、主に「施設」に関するものを指す。

■バリアフリー

高齢者や障害者などが社会生活をしていく上で障壁（バリア）となるものを除去（フリー）すること。もともと住宅建築用語で、段差等の物理的障壁の除去をいうことが多いが、より広く障害者の社会参加を困難にしている社会的、制度的、心理的な全ての障壁の除去という意味でも用いられる。

■バリアフリー基本構想

バリアフリー法第25条に基づき、区市町村が、鉄道駅を中心とした地区や、高齢者、障害者等が利用する施設が集まった地区（重点整備地区）について、移動等円滑化に係る事業の重点的かつ一体的な推進に関して定める構想。

■バリアフリートイレ

車いす使用者が利用できる広さや手すりなどに加えて、おむつ替えシート、ベビーチェア、オストメイト用の汚物流しなどの設備を備えて、車いす使用者だけでなく、高齢者、障害者、子ども連れなど多様な人が利用可能としたトイレのこと。

■バリアフリー法

「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律」（平成18年12月20日施行）の略称。従来の交通バリアフリー法では大規模な鉄道駅等の旅客施設を中心として、周辺道路や信号機等のバリアフリー化を図ることが目的とされていたが、より面的かつ一体的・連続的なバリアフリー化を促進していくための枠組みとして、建築物のバリアフリーに関する法律であるハートビル法と交通バリアフリー法が一体化した法制度となったもの。

■バリアフリー法第3条第1項

移動等円滑化の促進に関する基本方針について定めたもので条文には、「主務大臣は、移動等円滑化を総合的かつ計画的に推進するため、移動等円滑化の促進に関する基本方針（以下「基本方針」という。）を定めるものとする。」とある。

■PDCA（ピーディーシーエー）サイクル

プロジェクトの実行に際し、計画をたて（Plan）、実行し（Do）、その評価（Check）に基づいて改善（Action）を行うという工程を継続的に繰り返す仕組み（考え方）

■筆談／筆談具・筆談器

聴覚に障害のある人とコミュニケーションをとる際、紙などに文字を書いてやりとりすることを筆談という。また、その際の補助用具を筆談具や筆談器といい、ホワイトボードや磁気式の筆談ボード、感圧式の液晶パネルを用いた電子パッド、筆談が可能なタブレット端末等がある。

■プラットホーム

鉄道駅において旅客の列車への乗降、または貨物の積み下ろしを行うために線路に接して設けられた台。略してホームと呼ばれることが多い。

■ヘルプカード

障害のある方などが災害時や日常生活の中で困ったときに、周囲に自己の障害への理解や支援を求めるためのもの。緊急時の連絡先や配慮して欲しいことなどが記載できるようになっており、支援を必要とする人が身につけておくことで、いざというときに必要な支援を受けるのに役立つ。

■ヘルプマーク

義足や人工関節を使用している人、内部障害や難病の人、または妊娠初期の人等、何らかの配慮を必要としていることが外見からはわからない人々が、周囲の方に配慮を必要としていることを知らせることで支援を得やすくなるよう、東京都が作成したもの。ストラップを使用して鞄等に身につけることができる。

■ホームドア

駅のホームの縁端に設けられた、ホームと線路を仕切るドア。ホーム上の利用者が線路内に立ち入ったり、転落したりするのを防ぐなど安全を確保できる。

ま行

■まち歩き点検

バリアフリーに関する具体的な問題点や課題を抽出するため行う現地点検。

や行

■ユニバーサルデザイン

あらかじめ、障害の有無、年齢、性別及び国籍等にかかわらず多様な人びとが利用しやすいように考えて、都市や生活環境をデザインすること。その対象は、都市施設や製品にとどまらず、教育、文化及び情報提供等に至るまで多岐にわたっての展開が考えられる。

ら行

■旅客特定車両停留施設

交通の混雑緩和を図る目的のため、道路に接して道路管理者が設けるバス・タクシー・トラック等の事業者用の停留施設（特定車両停留施設）のうち、旅客用車両を同時に2台以上停留させる施設のこと。

■連続立体交差事業

道路整備の一環として、数多くの踏切を同時に除却することで道路ネットワークの形成を促進するとともに、交通渋滞や地域分断を解消し、地域の活性化や都市の防災性の向上に寄与する極めて効果の高い事業。

■路側帯

歩道がない道路で、歩行者の安全のため、路端寄りに道路標示（白い実線）によって区画された帯状の部分のこと。道路交通法により定められており、自動車等は路側帯に進入して通行してはならない。